

## 第2回理事会

日 時：令和7年6月13日（金）16：00～17：40

場 所：オフィス東京3階 T3会議室

出席者：（理事長）友 雅司，（理事）阿部雅紀，

猪阪善隆，繪本正憲，小川智也，菊地 勘，  
倉賀野隆裕，小岩文彦，後藤順一，酒井 謙，

鶴屋和彦，長沼俊秀，中野敏昭，西尾妙織，

花房規男，林 香，平和伸仁，深澤瑞也，

正木崇生，米田龍生，脇野 修

（監事）内田潤次，小川哲也

（幹事）坂口悠介（第70回幹事），

名波正義（第71回幹事）

（事務局）坂入幸雄，小島吉晴

議事に先立ち友 雅司理事長から挨拶があり，以下の議事が進められた。

## 議 事

### 1. 議事録署名人の選出

友 雅司理事長から，内田潤次，小川哲也の各監事が議事録署名人として指名され，全会一致で承認され，議事録作成人として坂口悠介幹事，名波正義幹事が指名され，全会一致で承認された。

### 2. 入退会に関する件

倉賀野隆裕総務委員長から，2025年3月15日～2025年6月13日までの入会，退会，復会の申込数について説明があった。

正会員入会申込219名，退会156名，休会6名，復会6名，喪失退会0名，復会12名，施設会員入会4施設，退会19施設，喪失退会0施設，その結果，2025年6月13日現在の会員数は，正会員14,252名（休会129名），施設会員4,168施設，賛助会員51団体であることが報告され，全会一致で承認された。

### 3. 令和7年度日本透析医学会賞（木本賞）・奨励賞の選考に関する件

脇野 修学術委員長から，資料に基づき学会賞（木本賞）候補者として，阿部雅紀（日本大学医学部内科学系腎臓高血圧内分泌内科学分野）と，蘇原映誠（東京科学大学腎臓内科）の2名，奨励賞候補者として神谷圭介（愛知医科大学腎臓・リウマチ膠原病内科）について選考経過等の説明があり，審議の結果，全会一致で承認された。

### 4. 令和6年度事業報告（案）に関する件

友 雅司理事長から，資料に基づき説明があり，審

議の結果，全会一致で承認され，6月26日開催の通常総会に報告することとなった。

### 5. 令和6年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等に関する件

花房規男財務委員長から，令和7年3月31日現在の資産の合計の報告があった。

また，令和6年4月1日から令和7年3月31日までの間の，経常収益および経常費用の報告があり，審議の結果，全会一致で承認され，6月26日開催の通常総会に諮ることとなった。

### 6. 令和6年度監事による監査報告に関する件

内田潤次監事から，令和6年度事業報告，会計監査および理事の職務執行に関し，監査した結果，正当であった旨の報告があり，審議の結果，全会一致で承認され，通常総会に報告することとなった。

### 7. 透析患者の糖尿病治療ガイドの英文化に関する件

阿部雅紀糖尿病治療ガイド改訂ワーキンググループ長から，6月に発刊される「透析患者の糖尿病治療ガイド2025」の英文化について説明があり，審議の結果，全会一致で承認された。

### 8. 令和7年度補正予算に関する件

花房規男財務委員長から，令和7年度補正予算について資料に基づき説明があり，審議の結果，全会一致で承認された。

### 9. 規則等の一部改正に関する件

#### 1) 日本透析医学会賞（木本賞）・奨励賞選考内規の一部改正（案）について

脇野 修学術委員長から，資料に基づき説明があり，審議の結果，全会一致で承認された。

#### 10. 2025年度 発展途上国の透析スタッフ育成プログラム研修生募集要項（事後審議）

倉賀野隆裕総務委員長から，資料に基づき説明があり，審議の結果，全会一致で承認された。

#### 11. 第70回学術集会・総会開催時の各賞表彰式次第（案）に関する件

友 雅司理事長から，資料に基づき説明があり，第70回学術集会会期中の6月28日（土）14時10分から，大阪国際会議場6階第一会場大ホールにおいて，名誉会員，学会賞，奨励賞及びコメディカルスタッフ研究助成授与者の表彰を行うことが報告され，審議の結果，全会一致で承認された。

## 12. 委員会委員の追加および交代に関する件

### 1) 学術委員会 Green Dialysis に関する検討委員会委員の追加について

脇野 修 Green Dialysis に関する検討委員長から、資料に基づき説明があり、審議の結果、全会一致で承認された。

### 2) 危機管理委員会 医療安全対策小委員会 調査委員の交代について

鶴屋和彦危機管理委員長から、資料に基づき説明があり、審議の結果、全会一致で承認された。

## 13. 委員会の設置に関する件

菊地 勘理事から、資料に基づき説明があり、審議の結果、全会一致で承認された。

## 14. 統計調査委員会関連

### 1) 2024 年度公募研究の審査に関して

- (1) Mg ならびに Ca 代謝異常と腹膜透析関連腹膜炎発症との関連 (橋本展洋先生)
- (2) NRI-JH とシャント閉塞発生の関連 (北林 紘先生)
- (3) 血液透析患者における鉄含有リン吸着薬の心筋梗塞・脳梗塞・肺塞栓症の予防効果について (平塚真紀先生)
- (4) 血液透析患者の副甲状腺ホルモンが静脈血栓症の発症に与える影響についての検討 (中島章雄先生)
- (5) 腎提供後生体腎ドナーの透析導入時状況の詳細調査とアウトカム研究 (谷澤雅彦先生)

正木崇生統計調査委員長から、資料に基づき説明があり、審議の結果、全会一致で承認された。

## 15. 男女共同参画推進委員会関連

### 1) 委員会報告の作成に関する件

2023 年度透析専門医勤務状況—透析療法領域における男女共同参画実態調査—

Status of Employment for Dialysis Specialists in 2023.—Survey on Gender Equality in the Field of Dialysis Therapy

西尾妙織男女共同参画推進委員長から、資料に基づき説明があり、審議の結果、全会一致で承認された。

### 2) TSUBASA PROJECT の論文アクセプト後の対応に関する件

西尾妙織男女共同参画推進委員長から、資料に基づき、2 年以内に英文論文化した場合には (日本透析医学会の英文機関誌 Renal Replacement Therapy への投稿を推奨する)、30 万円までの論文化支援助成金を寄与するとの説明があり、審議の結果、全会一致で承認された。

## 16. 第 70 回 (令和 7 年) 学術集会・総会に関する件

猪阪善隆第 70 回会長から、2025 年 6 月 26 日が総会で、学術集会は 6 月 27 日～29 日の間、大阪国際会議場、リーガロイヤルホテル大阪で準備を進めていることの説明があった。

## 17. 第 71 回 (令和 8 年) 学術集会・総会に関する件

倉賀野隆裕第 71 回会長から、2026 年 6 月 18 日が総会で、学術集会は 6 月 19 日～21 日の間、神戸国際会議場で準備を進めていること、「時代を生き抜く透析医療」をテーマとすることの説明があった。

## 18. 第 72 回 (令和 9 年) 学術集会・総会に関する件

脇野 修第 72 回会長から、2027 年 5 月 27 日が総会で、学術集会は 5 月 28 日～30 日の間、東京国際フォーラムで準備を進めていることの説明があった。

## 19. その他

### 1) 次回理事会について

友 雅司理事長から、第 3 回理事会が 2025 年 6 月 26 日 (木) 13:00 から、リーガロイヤルホテル大阪イーストウイング 2F 「牡丹の間」で行われることが報告された。

## 第3回理事会

日 時：令和7年6月26日（木）13：00～13：20

場 所：リーガロイヤルホテル大阪 イーストウイング 2F「牡丹の間」

出席者：（理事長）友 雅司，（理事）阿部雅紀，  
猪阪善隆，繪本正憲，小川智也，菊地 勘，  
倉賀野隆裕，小岩文彦，後藤順一，酒井 謙，  
鶴屋和彦，長沼俊秀，中野敏昭，西尾妙織，  
花房規男，平和伸仁，深澤瑞也，正木崇生，  
米田龍生，脇野 修  
（監事）内田潤次，小川哲也，齋藤 満  
（幹事）坂口悠介（第70回幹事），  
名波正義（第71回幹事）  
（事務局）坂入幸雄，小島吉晴

議事に先立ち，友 雅司理事長から挨拶があり，以下の議事が進められた。

### 議 事

#### 1. 議事録署名人の選出

酒井 謙議長から，定款第32条に基づき，代表理事と出席監事である，内田潤次，小川哲也，齋藤 満の各監事が議事録署名人として指名され，全会一致で承認された。

#### 2. 第70回通常総会の進行に関する件

友 雅司理事長から，第70回通常総会の進行については，定款第28条の規定により，学術集会・総会の会長がこれにあたりと定めており，猪阪善隆会長を議長としたい旨の提案があり，審議の結果，全会一致で承認され，総会に諮ることとなった。

また，議事録署名人は，定款第32条に基づき，議長

及び出席者の代表者2名以上であり，常任理事会では，出席者の代表として友 雅司理事長及び倉賀野隆裕理事を指名したいとの提案があり，審議の結果，全会一致で承認され，総会に諮ることとなった。

また，友 雅司理事長から，事業計画及び事業報告は財務委員長報告を除き，各常置委員長が説明・報告することとし，質問に対しては常置委員長全員が終わった後，担当委員長が回答することとなった。つぎに，財務委員長が予算について説明及び報告し，決算についての説明をした後，総会の承認を得ることとするとの説明があり，審議の結果，全会一致で承認された。監事による監査報告，第71回，第72回総会並びに会長に関する件については報告事項とし，評議員選出規則の一部改正（案）に関する件，名誉会員の推薦および第73回総会並びに会長の承認は審議事項とする旨の説明があり，審議の結果，全会一致で承認された。

#### 3. 規則の一部改正に関する件（後記4頁）

##### 1) 日本透析医学会雑誌電子投稿規程の一部改正（案）について

阿部雅紀編集委員長から，資料に基づき説明があり，審議の結果，全会一致で承認された。

##### 4. 第71回（令和8年）学術集会・総会に関する件

倉賀野隆裕第71回会長から，開催は2026年6月18日が総会で，学術集会は6月19日から21日までの間，神戸コンベンションセンターで開催するとの報告があった。

##### 5. 第72回（令和9年）学術集会・総会に関する件

脇野 修第72回会長から，開催は2027年5月27日が総会で，5月28日から30日の間，会場は東京国際フォーラムを主会場に，東京商工会議所他において開催するとの報告があった。

『一般社団法人 日本透析医学会雑誌電子投稿規程の一部改正（案）新旧対照表』

現 行	改正案
<p style="text-align: center;">日本透析医学会雑誌投稿規程</p> <p>1. 論文内容 論文内容は血液浄化ならびにこれに関するもので、他誌に発表されていないもの、あるいは投稿中でないものに限る。論文投稿者は論文の題名、執筆者名、所属、内容など、関連する事項全て（著作権は除く）に責任を負う。症例報告、その他については、容易に個人が特定されないよう、個人情報に十分配慮した内容にする。</p> <p>2. 投稿資格 投稿論文の著者（共同著者を含む）は正会員または施設会員の構成員とする。ただし、編集委員会が依頼した原稿についてはこの限りではない。</p> <p>3. 論文の様式</p> <p>1. 論文は原著、透析看護、透析技術、総説、症例報告、研究速報、短報、研究会記事、Letter to Editor とし、その区別を明示して提出する。</p> <p>2. 原著、透析看護、透析技術、症例報告は表紙、要旨、緒言、目的、方法、結果、考察（結論）、文献、図表の形式を備えたものとする。表紙には題名、著者名（共同著者名、いずれにも読みガナをふる）、所属、連絡先、5語以内のキーワード（日本語表示可能のものはできるだけ日本語を使用する）、簡略化題名、和文要旨および本文の文字数、英文要旨の単語数、図、表、引用文献の数を記載する。次頁から400字以内の和文要旨と、英文の題名、所属、著者名（共同著者名）、キーワードとともに300語以内の英文要旨を記載する。</p> <p>3. 研究速報、短報は原著に準じた形式とする。</p> <p>4. 論文の長さ</p> <p>1. 原則として原著、総説は12,000字、症例報告は9,000字までとするが、図表の大きさにより1枚につき400字前後を減ずる。ただし、編集委員会から依頼した原稿はこの限りではない。</p> <p>2. 研究速報、短報は3,200字までとし、図表2枚までを認めるが、図表1枚につき400字を減ずる。</p> <p>3. 総会発表演題の抄録は演題名、所属、発表者名（共同発表者名、カナをつける）を含めて、総会長の指定に従って記載する。ただし原則として図表の使用を認めない。</p> <p>4. 学会認定地方会の記録は、地方会名、会長名、会場、日時等とともに、演題名、第1発表者所属および氏名のみを記載する。</p> <p>5. 原稿の書式</p> <p>1. 原稿は指定されたワードプロセッサソフトウェア</p>	<p style="text-align: center;">日本透析医学会雑誌電子投稿規程</p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p>

現 行	改正案
<p>を使用し、新かな使いで句読点を正確につける。用紙の設定は、A4判縦長、35字×35行とする。また、本文には頁をつける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 医学用語は「日本透析医学会透析医学用語集」に準拠する。</li> <li>3. 外国語、外国人名、外国地名、外国薬品名などは原語のまま記入する。一般に日本語化しているものはカタカナで表現する。</li> <li>4. 度量衡の単位は、mm, cm, mL, dL, L, mg, mmol, N/10 など cgs 単位を用いる。</li> <li>5. 字句を略して表記する場合には、その字句が最初に表記された箇所で()内に適切な略語を表記する。</li> <li>6. 文献は引用箇所に番号を付け末尾に一括し、次の形式に従い引用順に並べる。なお、文献数は原著、透析看護、透析技術、総説、症例報告では30以内、研究速報、短報では10以内とする。</li> </ol> <p>□雑誌の場合</p> <p>著者名（著者が6名までの場合は全員記載、7名以上の場合は筆頭者から3名まで記載し、それ以上は他、et alとする）。論文名。雑誌名。発行年(西暦)；巻数：頁（初め-終わり）。</p> <p>例)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宮崎滋, 甲田豊, 湯浅保子, 他. b2-ミクログロブリンアミロイドーシスに関する研究, 1. アミロイド沈着局所に認められる滑膜炎の病理組織学的特徴. 透析会誌1992; 25: 1045-50.</li> <li>2. Ali AA, Varghese Z, Moorhead JF, Baillod RA, Sweny P. Calcium set point progressively worsens in hemodialysis patients despite conventional oral 1-alpha hydroxycholecalciferol supplementation. Clin Nephrol 1993; 39: 205-9.</li> </ol> <p>□書籍の場合</p> <p>著者名（著者が6名までの場合は全員記載、7名以上の場合は筆頭者から3名まで記載し、それ以上は他、et alとする）。論文名。編者名。書籍名。所在地：出版社名、発行年（西暦）；頁（初め-終わり）</p> <p>例)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 寺田典生, 富田公夫, 丸茂文昭. レニン-アンギオテンシン系の分子生物学. 越川昭三, 長沢俊彦, 小磯謙吉, 伊藤拓 編. Annual Review 腎臓 1993. 東京: 中外医学社, 1993; 109-16</li> <li>2. Schulman G, Hakim RM. Complications of Hemodialysis. In: Jacobson HR, Striker GE, Klahr S, eds. The Principles and Practice of Nephrology. Philadelphia: B. G. Decker, 1991; 757-65.</li> </ol>	<p style="text-align: center;">現行どおり</p>

現 行	改正案
<p>新 規</p> <p>□誌名を略記する場合  出典雑誌の定める略名を使用する。また外国のものは Index Medicus 所載のものを用いる。</p> <p>1. 図表は作表、作図ソフトウェアで作成し、本文とは別に、図のみのファイルと表のみのファイルを用意する。本文中には貼付しない。図表のタイトルならびに説明は英文を用いることが望ましい。</p> <p>6. 研究倫理</p> <p>1. 臨床研究の場合は、世界医師会によるヘルシンキ宣言を基礎とし、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等、文部科学省・厚生労働省の倫理指針に準拠していることを原則とする。また施設の倫理委員会より承認を得ていること、ならびにその承認番号を論文中に明記する。</p> <p>2. 動物実験の場合は施設のガイドラインに準拠し承認を得ていること、ならびにその承認番号を論文中に明記する。</p> <p>3. 介入を行う臨床研究については、UMIN 等の公的臨床試験登録機関が設置している公開データベースに登録することを原則とし、論文中にその登録機関名と登録番号を明記する。</p> <p>4. 診療報酬制度で認められていない治療法を用いた臨床研究についてはその旨および患者の同意を得たことを論文中に明記する。</p> <p>7. 患者プライバシーの保護  患者個人の特定が可能な氏名、イニシャル、ID、住所（都道府県までは可）、特定の月日（月日は「○病日」「○月上旬」「○日後」等とする）は記載しない。顔写</p>	<p>□インターネットの場合  記事の著者名またはサイトの管理者名（公開元）。  “Web ページのタイトル”。Web サイトの名称。更新日付。入手先 URL、（参照年月日）。</p> <p>例) 1. 公益財団法人難病医学研究財団／難病情報センター。“全身性エリテマトーデス(SLE)”。  難病情報センターホームページ。2024-11。  <a href="https://www.nanbyou.or.jp/entry/53">https://www.nanbyou.or.jp/entry/53</a>（参照 2025-06-01）。</p> <p>2. Hiroyasu Yamamoto, Shinichi Nishi, Tadashi Tomo, et al. “2015 Japanese Society for Dialysis Therapy: Guidelines for Renal Anemia in Chronic Kidney Disease”.  Renal replacement Therapy. 2017-06.  <a href="https://rrtjournal.biomedcentral.com/articles/10.1186/s41100-017-0114-y">https://rrtjournal.biomedcentral.com/articles/10.1186/s41100-017-0114-y</a>（参照 2020-06-01）。</p> <p>現行どおり</p>

現 行	改正案
<p>真は個人の特定ができないよう配慮する。その他については本学会の「医学論文及び学術集会研究会発表時の症例報告を含む患者プライバシー保護に関する指針」に準拠する。</p> <p>8. 利益相反 (Conflict of Interest: COI) 日本透析医学会「医学研究の利益相反 (COI) に関する指針」に基づき、著者 (共同著者を含む) は投稿論文の研究について利益相反状況を開示しなくてはならない。日本透析医学会「医学研究の利益相反 (COI) に関する指針」に関する取扱い細則様式2のCOI報告書を提出し、論文の末尾に利益相反状況を明記する。</p> <p>9. 二重投稿</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本透析医学会雑誌では、論文の二重投稿を禁止する。</li> <li>2. 二重投稿の定義は「二重投稿 (duplicate publication) とは、印刷物、電子出版物を問わず、原著性が要求されている場合に、既発表の論文または他の学術雑誌に投稿中の論文と言語にかかわらず本質的に同じ論文を投稿する行為」とする。</li> <li>3. 著者がすでに発行されている自著論文 (共著を含む) と同一の患者群や対象群を用いる場合には、当該論文を引用の上、論文中に明記する。また投稿中、査読中の論文と同一の患者群や対照群を用いる場合はその旨を cover letter 等で明記し、発行されれば遅滞なく当該論文中に引用する。</li> <li>4. 原著以外の論文 (総説、症例報告等) でも、自著の論文に記載されている内容を引用する場合には、当該論文を引用したことを明記する。</li> <li>5. 二重投稿が疑われる場合には、編集委員会でその内容を検討し、二重投稿と判断された場合には、その論文の掲載を取り消す。さらに編集委員会で検討の上その悪質性が認識された場合には、「1年から5年の投稿禁止」、「一定期間の会員の権利停止」等の罰則を与える。</li> </ol> <p>10. 論文の採択 投稿論文の採否は編集委員会の指定する査読者と編集委員の査読によって決定し、受理年月日を掲載論文中に明示する。なお、投稿論文においては個人情報保護の観点から、たとえ学術論文であっても容易に個人が特定されないように、症例の記載については十分に配慮しなければならない。ヘルシンキ宣言に違反していると判断された論文は採択されない。</p> <p>11. 論文査読 査読者は2名とするが、うち1名は、執筆者自身が日本透析医学会評議員一覧から5名まで推薦できるもの</p>	<p>現行どおり</p>

現 行	改正案
<p>とする（評議員一覧は電子投稿時にプルダウンメニューで表示される）。ただし、最終的な決定は編集委員会が行う。</p> <p>12. 再投稿 査読終了後の再投稿は、査読結果通知の日付から6カ月以内とする。それ以後に投稿された場合は新規論文として扱うものとする。</p> <p>13. 著作権の保護 投稿者は、本誌に掲載する著作物またはこれを原著作物とする二次的著作物の著作権およびこれら著作物の翻訳、翻案、データベースへの取込みおよび送信の権利等、本誌に掲載する著作物に関する一切の権利を、信託財産として一般社団法人日本透析医学会に包括的に譲渡する。また、信託財産の趣旨に反しない限り、著作者は著作物に対する著作者人格権を行使しない。</p> <p>14. 論文の校正 初校のみ著者校正とし、再校以後は編集委員会が行う。著者校正に際しては指定期日以内に校正稿を返送する。また、組版面積に影響を与えるような改変は許さない。</p> <p>15. 著者負担費用 掲載料は刷り上がり6頁まで30,000円（税別）とするが、それを超えるものは実費を徴収する（刷り上がり1頁につき30,000円（税別））。ただし、依頼原稿はこの限りでない。刷り上がり1頁は和文約2,200字、英文約800語に相当する。図表はそのまま印刷できる明瞭なものは掲載料に含まれるが、製図を要するものおよびカラーの場合は別途実費を徴収する。英文校閲料は実費を徴収する。別刷代も実費とするが、300部以上の請求には別途特別掲載料を必要とする。</p> <p>16. 別刷の請求 投稿時に希望部数を入力する（50部単位）。発刊後の別刷は別途印刷のため高額となる。なお総会発表演題の抄録の別刷は作製しない。</p> <p>17. 原稿送付先 原稿は投稿専用ホームページにアクセスし、画面の指示に従って電子的に行う。電子投稿以外の方法による投稿は認めない。ただし、編集委員会が依頼した原稿についてはこの限りではない。なお、欧文論文は、本学会公式欧文誌 Renal Replacement Therapy へ投稿すること。</p> <p>附則 本規程は平成16年4月1日から施行する。 本規程は平成23年6月18日から施行する。 本規程は平成24年9月3日から施行する。</p>	<p>現行どおり</p> <p>15. 著者負担費用 掲載料は刷り上がり6頁まで30,000円（税別）とするが、それを超えるものは実費を徴収する（刷り上がり1頁につき30,000円（税別））。ただし、依頼原稿はこの限りでない。刷り上がり1頁は和文約2,200字に相当する。図表はそのまま印刷できる明瞭なものは掲載料に含まれるが、製図を要するものは別途実費を徴収する。英文校閲料は実費を徴収する。別刷代も実費とするが、300部以上の請求には別途特別掲載料を必要とする。</p> <p>16. 別刷の請求 別刷は単独印刷のため高額となる。なお総会発表演題の抄録の別刷は作製しない。</p> <p>現行どおり</p>

現 行	改正案
<p>本規程は平成 25 年 4 月 1 日から施行する。            本規程は平成 26 年 4 月 1 日から施行する。            本規程は平成 26 年 7 月 21 日から施行する。            本規程は平成 28 年 4 月 1 日から施行する。            本規程は令和 4 年 3 月 18 日から施行する。            本規程は令和 4 年 6 月 30 日から施行する。</p>	<p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p>本規程は令和 7 年 6 月 26 日から施行する。</p>

第 70 回通常総会議事録

1. 日 時：令和 7 年 6 月 26 日（木）16：00～17：45
2. 会 場：大阪国際会議場 3 階イベントホール A
3. 出席者：評議員総数 217 人の内 204 人出席  
（うち委任状 65 人）

4. 出席役員

理 事：（理事長）友 雅司，（理事）阿部雅紀，  
猪阪善隆，繪本正憲，小川智也，菅野義彦，  
菊地 勘，倉賀野隆裕，小岩文彦，  
後藤順一，酒井 謙，鶴屋和彦，長沼俊秀，  
中野敏昭，西尾妙織，花房規男，平和伸仁，  
深澤瑞也，正木崇生，米田龍生，脇野 修  
（以上，21 名）

欠席理事：林 香

監 事：内田潤次，小川哲也，齋藤 満  
（以上，3 名）

5. 議長及び議事録署名人の選出

定款第 30 条により定足数を満たしており本会は適法に成立した。定款第 28 条に基づき，第 70 回学術集会・総会猪阪善隆会長が議長に選出され，開会を宣し，議事に入った。

猪阪善隆議長から，定款第 32 条に基づき，議事録署名人を議長及び出席者の代表 2 名以上の者を選任する必要がある旨説明し，次のとおり指名し，全会一致で承認された。

議事録署名人 友 雅司評議員，倉賀野隆裕評議員

報告事項

1. 一般社団法人日本透析医学会の状況

1) 会員状況

(1) 一般社団法人会員状況（令和 7 年 3 月 31 日現在）

年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
正 会 員	14,049	14,095	14,107	14,178
施設会員	4,151	4,168	4,181	4,183
賛助会員	62	60	58	55

2) 物故会員（敬称略）

青山 喬，飯田一能，市川敏郎，上田大介，  
江端範名，大塚 坦，大槻修一，大場正二，  
小野孝彦，春日朱門，古閑和生，佐藤和人，  
佐藤 舞，嶋 渡，鈴木恭治，垂水禧直，  
寺岡次郎，長瀬光昌，中谷 正，中村智信，

中元秀友，野村和史，長谷川裕人，深川雅史，  
福川徳三，丸山正董，嶺井定一，室岡保太郎，  
安田英煥，山口美尚

（五十音順）

3) 役員・評議員・名誉会員状況

役 員

理事長 友 雅司  
常任理事 阿部雅紀，猪阪善隆，酒井 謙  
理 事 繪本正憲，小川智也，菅野義彦，菊地 勘，  
倉賀野隆裕，小岩文彦，後藤順一，  
鶴屋和彦，長沼俊秀，中野敏昭，西尾妙織，  
花房規男，林 香，平和伸仁，深澤瑞也，  
正木崇生，米田龍生，脇野 修  
監 事 内田潤次，小川哲也，齋藤 満

評 議 員

（計 217 名）第 7 回評議員

赤井靖宏，浅井利大，朝田啓明，浅沼克彦，東 治人，  
阿部雅紀，雨宮守正，荒木信一，荒木崇志，荒木英雄，  
安藤忠助，安藤哲郎，家原典之，井尾浩章，池田直史，  
池田雅人，猪阪善隆，石井大輔，石田英樹，石津 隆，  
石橋由孝，和泉雅章，磯野元秀，一色啓二，  
井手健太郎，伊藤孝史，稲熊大城，今田崇裕，  
岩田恭宜，岩谷博次，内田潤次，内山清貴，海上耕平，  
榎田英樹，海老原至，繪本正憲，大島直紀，大城義之，  
大田 聡，大坪 茂，大橋 靖，岡田浩一，緒方浩顕，  
小川哲也，小川智也，柏木哲也，春日弘毅，上條祐司，  
川合 徹，川口祐輝，川瀬友則，河原崎宏雄，  
神田英一郎，神田武志，菅野義彦，菊川忠彦，  
菊地 勘，菊池正雄，北村健一郎，木村朋由，  
熊田憲彦，倉賀野隆裕，小出滋久，小岩文彦，  
合田朋仁，河野圭志，後藤順一，後藤俊介，小林洋輝，  
小林広学，小林 衛，小向大輔，米田雅美，小山一郎，  
今 裕史，齋藤知栄，齋藤 満，酒井 謙，酒井行直，  
坂口美佳，櫻田 勉，佐々木健介，佐藤純彦，  
佐藤 暢，佐藤元美，志熊聡美，島野泰暢，清水泰輔，  
常喜信彦，白石晃司，新宅究典，杉浦寿央，杉田省三，  
鈴木 朗，鈴木一裕，鈴木利彦，鈴木 仁，瀬田公一，  
蘇原映誠，祖父江理，高田知朗，滝沢英毅，滝本千恵，  
竹内康雄，竹田徹朗，田代 学，田中賢治，田中啓之，  
田邊克幸，田邊 起，谷口正智，谷山佳弘，玉垣圭一，  
田村功一，丹野有道，辻本吉広，津畑 豊，鶴屋和彦，  
土井研人，戸川 証，徳本正憲，徳山博文，友 雅司，

友利浩司, 内藤省太郎, 長井幸二郎, 中倉兵庫,  
中島 歩, 中田純一郎, 長田太助, 仲谷慎也,  
長門谷克之, 長沼俊秀, 中野敏昭, 中ノ内恒如,  
中村典雄, 中村道郎, 中山晋二, 名波正義, 成瀬友彦,  
西尾妙織, 西田隼人, 西野友哉, 二瓶 大, 野口智永,  
橋本幸始, 長谷川毅, 服部憲幸, 花房規男, 浜崎敬文,  
濱野高行, 早川和良, 林 香, 林 晃正, 林 秀樹,  
早田 学, 原澤信介, 播本幸司, 番匠谷将孝,  
樋口輝美, 平間章郎, 平山浩一, 平和伸仁, 深澤瑞也,  
深水 圭, 福田顕弘, 古市賢吾, 古野剛史, 星野純一,  
細島康宏, 本田浩一, 前田兼徳, 正木崇生, 升谷耕介,  
松尾七重, 松岡哲平, 松下和通, 松田洋人, 丸山彰一,  
丸山高史, 丸山範晃, 丸山之雄, 三浦健一郎,  
水崎浩輔, 三瀬直文, 溝渕正英, 満生浩司, 水口 斉,  
三野和宏, 宮園素明, 宮本 哲, 望月保志, 森 克仁,  
森 建文, 森下義幸, 森本耕吉, 森山能仁,  
安田日出夫, 柳田太平, 山川智之, 山口慎太郎,  
山田保俊, 山中正人, 山本 泉, 山本 聡, 山本 卓,  
横地章生, 吉田 理, 吉田英昭, 吉嶺陽仁, 吉本明弘,  
米田龍生, 頼 建光, 若杉三奈子, 脇野 修,  
鷺田直輝, 渡辺 誠

(五十音順)

#### 名誉会員

秋澤忠男, 阿岸鉄三, 秋山暢夫, 浅野 泰, 天野 泉,  
安藤亮一, 井関邦敏, 稲葉雅章, 稲本 元, 今田聰雄,  
岡田一義, 小野利彦, 海津嘉蔵, 川口良人, 川西秀樹,  
衣笠えり子, 草野英二, 熊谷裕生, 黒川 清,  
下條文武, 斎藤 明, 佐中 孜, 重松 隆, 穴戸寛治,  
進藤和彦, 鈴木正司, 高光義博, 土谷 健, 椿原美治,  
内藤秀宗, 中尾俊之, 仲谷達也, 中西 健, 西澤良記,  
新田孝作, 沼田 明, 長谷川廣文, 原 茂子,  
平方秀樹, 藤田嘉一, 藤見 惺, 藤元昭一, 前田憲志,  
楨野博史, 水口 潤, 峰島三千男, 森石みさき,  
八木澤隆, 吉田一成, 吉田克法, 頼岡徳在, 竜崎崇和,  
渡邊有三

(五十音順)

#### 2. 令和7年度事業計画に関する件 (後記46頁)

各担当理事から, 令和7年度事業計画について, 詳細な報告があった。

#### 3. 令和6年度事業報告に関する件 (後記14頁)

各担当理事から, 令和6年度事業報告について, 詳細な報告があった。

#### 4. 令和6年度監事による監査報告に関する件

(後記76頁)

内田潤次監事から, 令和6年度の事業報告, 計算書

類, これらの附属明細書, その他理事の職務執行の監査を行った結果, 事業報告及びその附属明細書は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示している。

また, 理事の職務に関し, 不正の行為又は法令等に違反する重大な事実は認められず, 本法人の業務の適正を確保するために必要な体制の整備等についての理事会の決議の内容は相当であり, 計算書類とその附属明細書は本法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しているとの報告があった。

#### 5. 令和7年度正味財産増減予算に関する件

(後記73頁)

花房規男財務担当理事から, 資料に基づき, 詳細な報告があった。

#### 6. 第71回総会並びに会長に関する件

第68回通常総会において承認された, 令和8年度第71回倉賀野隆裕次期会長から, 会期は令和8年6月19日から6月21日, 会場は神戸国際会議場を主会場として開催を予定しているとの説明があった。

#### 7. 第72回総会並びに会長に関する件

第69回通常総会において承認された, 令和9年度第72回脇野 修会長から, 会期は令和9年5月28日から5月30日, 会場は東京国際フォーラムを主会場として開催を予定しているとの説明があった。

#### 審議事項

#### 1. 一般社団法人日本透析医学会評議員選出規則の一部改正に関する件 (後記77頁)

米田龍生評議員選出委員長から, 資料のとおり説明があり, 第7条選挙の公示では, 選挙が行われる前年の10月下旬に電子公告により公示を行うこと, 第9条有権者名簿では, 選挙が行われる前年の10月1日現在の有権者名簿を10月下旬に電子公告により公示を行うこと, 第12条候補者の公示では, 選挙が行われる前年の12月下旬に電子公告により公示を行うこと, 第14条投票では, 投票用紙を所定の返信用封筒に封緘し送付すること, 第18条に新規にして, 5) 所定の返信用封筒には当該有権者の投票用紙のみ封緘することとし, 他の有権者の投票用紙を含め封緘し送付してきた投票用紙及び所定の返信用封筒に封緘せず他の有権者の投票用紙とまとめて送付してきた投票用紙は全て無効とすること, 第21条では, 当選者が決定した場合に, 当選者への通知と電子公告による当選者の公示を行うことの説明があり, 審議の結果, 満場一致で承認された。

2. 令和6年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等についての承認に関する件（後記 61 頁）

花房規男財務担当理事から資料に基づき、詳細な説明があり、審議の結果、全会一致で承認された。

3. 名誉会員推薦に関する件

猪阪善隆議長から、定款施行細則第2条第2項の規定による名誉会員推薦について、次の者を令和7年3月14日開催の理事会で承認し、本総会に推薦したとの説明があり、審議の結果、満場一致で承認された。

山縣邦弘 筑波大学

4. 第73回総会並びに会長に関する件

猪阪善隆議長から、定款施行細則第23条に基づき、正木崇生理事が令和10年第73回会長候補として、令和7年3月14日開催の理事会で選任されたとの説明があり、審議の結果、満場一致で承認された。

続いて、正木崇生次次次期会長より充実した大会にしたいとの抱負が述べられた。

以上により総会の議事を終了し、猪阪善隆議長が閉会を宣した。

---

# 配 布 資 料

---

1. 令和6年度事業報告書	14
2. 令和7年度事業計画	46
3. 令和6年度決算報告書	61
4. 令和7年度正味財産増減予算書	73
5. 監査報告	76
6. 一般社団法人日本透析医学会評議員選出規則の一部改正（案）新旧対照表	77

# 令和6年度事業報告

自 令和6年4月1日  
至 令和7年3月31日

一般社団法人日本透析医学会

# I. 当法人の事業の状況

## 常置委員会活動

### 1. 総務委員会

#### 1) 年次学術集会

第69回日本透析医学会学術集会・総会は、東邦大学医学部腎臓学講座 教授 酒井 謙会長が主宰し、2024年6月7日(金)、8日(土)、9日(日)の3日間、パシフィコ横浜を会場として開催した。

今回のテーマは「前進 腎代替療法～次世代のinterprofessional academism を目指して～」を掲げて開催し、参加者は21,017名であった。

#### <会長講演>

「10年後の腎代替療法と私たち」

#### <特別講演>

「AIMによる末期腎不全に対する新しい医療の創出」, 「異種移植の未来」, 「重症化予防と共同意思決定の推進に向けて～どこまで透析医療を提供するか～」, 「トイレカー開発と活用の経験をふまえた透析カーの開発について」, 「ロシア・ウクライナ戦争と日本の安全保障」, 「「生きる」を支える～患者・家族・医療者のスピリチュアルケア～」, 「療法選択時にお話しすべきこと：心血管系合併症について」, 「令和6年能登半島地震と透析医療」

#### <緊急特別企画>

「透析患者総数減少へ その要因・展望を議論する」

#### <会長特別企画>

「透析患者のジレンマ克服に向けて」, 「働き方改革とダイバーシティ」

#### <会長特別企画（ずばり！あの先生のお話が聞きたい！シリーズ）>

「高齢CKD患者の身体・認知機能を護る～透析と共により良い余生を送るために～」, 「肥満関連腎症の病態生理」, 「鉄補充の必要状態」, 「長時間透析・頻回透析」, 「腎性骨症」, 「2次性QT延長症候群」

#### <招待講演>

「Promoting Conservative Kidney Management and Kidney Supportive Care in Asia: Paradigm Shift and New Opportunities」, 「Current Status of Renal Replacement Therapy in Korea」, 「Arteriovenous access creation in challenging patients: new attempts」, 「Bone disease in kidney transplant recipients」, 「Fluid status assessment in renal fail-

ure patients」, 「Green Dialysis: Addressing the Imperative for Sustainability」

#### <教育講演>

「透析施設のサイバーセキュリティ対策」, 「透析そう痒症治療の最前線」, 「透析導入となったANCA関連血管炎の治療戦略」, 「カフ型カテーテルの安全管理」, 「本邦腎移植の現状と生体腎移植施設要件の明確化の必要性」, 「バスキュラーアクセス作製修復～画像から技術習得を目指して～」, 「超音波を用いたバスキュラーアクセス機能のサーベイランス」, 「高齢者腎移植の現状と課題」, 「血液浄化法と分離膜」, 「PDとHD併用療法」, 「透析施設における日常のバスキュラーアクセス管理」, 「透析アミロイドシスに対する $\beta_2$ -ミクログロブリン吸着法の現状と展望」, 「透析患者の心臓弁膜石灰化」, 「腹膜透析における遠隔医療」, 「腎不全医療に関する倫理と法」, 「CKD-MBDの新たな疾患コンセプト」, 「Green Nephrology～電力消費とその削減～」, 「臨床研究の視点と事例から学ぶ！患者報告型アウトカム(PRO)と健康関連QOLの応用」, 「透析患者の悪液質とサルコペニア・フレイル」, 「透析患者に対する利尿薬の使い方」, 「Palliative PD」, 「包括的腎臓リハビリテーション～転倒リスクのある透析患者へのかかわり～」, 「CARTの最前線」, 「急性腎障害に対する血液浄化法のトピックス」, 「生体腎移植にたどり着けない理由」, 「腎代替療法選択支援と腎代替療法指導管理料」, 「感染症Up-to-Date～コロナ・パンデミックからサイレント・パンデミックAMRまで～」, 「透析室で押さえておくべき感染対策」, 「ISPDガイドライン2023からみる新しいPD出口部管理」, 「透析医療の災害対策」, 「透析液清浄化と排水管理のすべて」, 「透析医療における診療報酬制度」

#### <シンポジウム>

「透析患者の心房細動のマネジメント」, 「リアルワールドにおけるCKMの課題：その解決の糸口を探す」, 「骨・骨格筋障害とMBD透析患者の骨を守る透析患者の骨代謝と骨折」, 「慢性腎臓病に伴う貧血ガイドライン(Part 1)」, 「わが国におけるHD/オンラインHDFにおける溶質除去と生命予後」, 「PD合併症への最新のアプローチと対策」, 「Critical Care Nephrologyの最近の進歩」, 「血液浄化における $\alpha$ 1MG除去の意義と効果的除去」, 「透析患者の皮膚を再考する～皮膚を守るために知るべきこと・すべきこと～」, 「透析療法における在宅生活維持のための多職種連携」, 「ここまで来た、糖尿病治療の新

たな展開～透析患者への適応を考える～, 「高齢透析患者の終末期管理」, 「災害時の透析医療に関する広域関東圏連携会議の設立と展望」, 「未来の透析医療と AI 技術」, 「透析患者の予後を向上させる心血管症治療の進歩」, 「円滑な腎代替療法の移行のために～透析から腎移植・腎移植から透析～」, 「臨床工学技士による VA の日常管理」, 「CKD-MBD ガイドライン 新時代」, 「ここまで来た透析患者の血管石灰化予防戦略～基礎・臨床研究からの新たな展開～」, 「透析患者の腸腎連関～透析患者と腸内環境～」, 「透析患者の心血管障害を再考する!」, 「慢性腎臓病に伴う貧血ガイドライン (Part 2)」, 「HIF-PH 阻害薬をフカボリする ～何がわかって何がわかっていないのか?～」, 「透析患者の性差を考えた治療と支援」, 「超高齢者に対する PD～人生の最終段階での療法選択, PD 導入と継続のポイント～」

#### <合同企画シンポジウム>

日本腎臓学会: 移行医療 (保存期～透析期) の問題点  
日本腎臓リハビリテーション学会: 透析患者の腎臓リハビリテーション, サルコペニア対策の視点から  
日本臨床腎移植学会: イスタンブール宣言 5 学会声明 (今腎移植を増やすには)

日本臨床工学技士会: タスクシフト・シェアの現状と将来の透析医療

日本心不全学会: 透析患者の HFpEF の病態・治療に迫る

日本腎不全看護学会: Successful aging/terminal stage を目指した腎不全看護

日本フットケア・足病医学会: 透析患者の足病克服に向けて～各専門領域からの視点～

日本臨床栄養学会: 私の透析管理 (老若男女)

#### <日台韓合同シンポジウム>

「Conservative kidney management: CKM」

#### <ワークショップ>

「透析患者の至適体液量を測定する - 体組成分析 vs. 循環動態分析 -」, 「血液浄化法によって薬物の除去率, 投与方法は異なるのか?」, 「ウレミクトキシンと透析療法」, 「急性腎障害における栄養療法」, 「末期腎不全治療のパラダイムシフト: modality から domesticity へ」, 「基礎と臨床が連携するサルコペニアの病態解明とこれからの栄養管理」, 「本邦における長期 PD の安全性を検証する～腹膜透析の新たな潮流～」, 「微量元素: あなたはいくつ言えますか?」, 「透析システムの生体適合性」, 「モニタリングのスペシャリストを目指して」, 「腹膜透析 CQI」, 「生体腎移植ドナーの安全性検証」, 「透析の経済と

人口減少: 持続可能な経営モデルの探求今後の保険点数を含めた透析医療の展望」, 「血液透析導入時の条件設定の考え方 (低効率透析の是非)」, 「透析患者の血圧管理を考える」, 「PD 教育 (患者, 看護師, 医師)」, 「在宅透析 (HHD・CAPD) および長時間透析における臨床工学技士の役割と展望」, 「サイコネフロロジーと多職種連携を科学する」, 「高齢者・フレイル患者の透析治療を再考する」, 「透析関連排水の適正管理」, 「小児腎代替療法の未来: 課題と対策」, 「VA 看護の確立に向けて VA をアセスメントする看護の視点」, 「末期腎不全患者の ACP と CKM の実際」, 「集まれ! 透析食を研究しているチーム～全国で繋がろう～」, 「CKD 全期を通じた腎臓リハビリテーション」

#### <学会・委員会企画>

危機管理委員会 (医療安全小委員会) 企画: 透析医療における医療安全のための提言作成に向けて

学術委員会企画: Dialysis therapy, year in review 2023

学術委員会 (血液透析患者の糖尿病治療ガイド改訂ワーキンググループ) 企画: 透析患者の糖尿病治療ガイド改訂 コンセンサスカンファレンス

専門医制度委員会企画: 「サブスペシャリティ学会の方針転換」と日本透析医学会専門医制度

感染対策委員会企画: 改訂された「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン」のポイント

血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会/血液浄化に関連する新技術検討小委員会企画: 未来の透析技術への前進—「血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会」および「血液浄化に関連する新技術検討小委員会」合同セッション—

統計調査委員会企画: こんなことまでできる! WADDA システム

総務委員会企画: 本邦の血液浄化技術の海外展開, 軌跡と展望

腎不全総合対策委員会企画: 末期腎不全患者の QOL 向上を考える

男女共同参画推進委員会企画: TSUBASA PROJECT・2023 年度透析専門医勤務状況調査報告

保険委員会企画: 診療報酬令和 6 年改定で何がどのように変わったか?

危機管理委員会 (災害対策小委員会) 企画: 地域における災害時透析医療確保の取り組み

国際学術交流委員会企画: 各国における透析医療における自然災害対策 Countermeasures for natural

disaster in dialysis center

国際学術交流委員会企画：各国における適切な透析効率とそれを達成する工夫 Ideas for the optimal dialysis efficiency under each country's dialysis environment

#### <よくわかるシリーズ>

「ボタンホール穿刺の20年の歩み～技術の進化と臨床への貢献～」, 「カフ型カテーテル合併症について」, 「透析医療における女性リーダーの育成とそのアプローチ」, 「透析診療に安静12誘導心電図を生かす」, 「高血圧症治療の再評価」, 「在宅血液透析2024～過去から未来への挑戦と展望～」, 「透析患者のむずむず脚症候群をどう治療するか?」, 「たんぱく質の質と腎臓との関係～食事パターンも含めて～透析患者の栄養管理update」, 「血液透析処方を組み立て方」, 「透析患者のリハビリテーション, 結局どうしたらいいの?」, 「Incremental Hemodialysis～段階的血液透析導入法～」, 「慢性疾患患者のアドバンスケアプランニング」, 「透析患者のスキンケア」, 「認知症の人の心に届く声のかけ方, 接し方」, 「もう一度知ろう! 心不全と胸部診察」, 「循環血液量モニタの役割と活用」, 「血液透析患者の甲状腺機能管理」, 「療法選択外来」, 「身体組成分析装置の役割・期待(～ドライウエイトの設定～)」, 「バスキュラーアクセス(VA)のトラブルシューティング手術」, 「上腕動脈表在化バスキュラーアクセスの合併症の修復」, 「コメディカルの研究マインドの重要性と学会発表・論文作成の実際」, 「シャント作製術, カフ型カテーテル留置術, 腹膜透析カテーテル留置術」, 「患者の尊厳と自律を保証する看護を考える」, 「鉄動態(欠乏・過剰)に気を付けよう」, 「VA管理 管理簿作成のノウハウ」, 「3%を超えるためのPD拡充戦略 腎代替療法の多様性を考える」, 「超音波エコーガイド下穿刺の実際～エコーガイド下穿刺の手順および注意点～」, 「COVID-19から学んだ透析医療における感染対策～対策継続の意義～」, 「CKD患者のオーラルフレイル対策～適切な医科歯科連携を目指して～」

#### <企業共催シンポジウム>

「診療報酬改定から見えてくるPD連携の将来像」, 「二次性副甲状腺機能亢進症におけるハイリスク患者の最適治療を考える」, 「多職種間で考える足病治療」, 「腎性貧血治療におけるHIF-PH阻害薬と鉄剤の役割」, 「CKD-MBDの視点から考える透析液組成」, 「透析患者のこれからの見据えて: 高リン血症治療の今後の展望」, 「透析患者の腎性貧血治療～な

ぜESAファーストなのか?～」, 「ロキサデュスタットは透析期腎性貧血治療のファーストになり得るか?～鉄代謝を踏まえた実臨床での有用性を考える～」, 「貧血と予後を考慮した鉄代謝マーカーの適正評価と鉄補充」, 「共に腎代替療法を前進させる～患者さんの声を聴く～」, 「DOPPSシンポジウム」

#### <企業セミナー>

ランチョンセミナー, スイーツセミナー, イブニングセミナー

#### <その他>

6月7日(金) 医療安全講習会

6月8日(土) 医療倫理講習会

6月9日(日) 感染対策講習会

6月7日(金) 8:00～6月28日(金) 17:00 日本透析医学会認定透析液水質確保に関する研修

#### 2) 通常総会・臨時総会

(1) 第69回通常総会開催: 2024年6月6日(木) 15:00～16:30

(2) 臨時総会開催: 2024年6月6日(木) 16:30～17:30

(3) 学会賞・奨励賞授与式および講演会開催: 2024年6月8日(土)

#### 3) 役員会

(1) 常任理事会・理事会開催: 2024年5月17日・6月6日・8月2日・12月6日・2025年3月14日

(2) 監事による監査会開催: 2024年5月13日(月)

#### 4) 透析施設会員名簿の発行

透析施設会員名簿のデータを各施設から集め発行の手続きをとった。

#### 5) 小委員会

(1) 情報管理小委員会(協野 修委員長)

学会ホームページの円滑な運営, 内容の充実化において, 学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行った。

(2) 透析医療専門職資格検討委員会(酒井 謙委員長)

慢性腎臓病療養指導看護師・腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師制度・日本栄養士会が実施する管理栄養士専門分野別人材育成(CKD分野)に関しては, 本年度問題提起されず活動を行わなかった。

腎代替療法専門指導士については, 日本腎代替療法医療専門職推進協会と連携を取り, 各透析医療専門職が指導士資格取得できるよう努めた。

(3) 統計調査のあり方小委員長(友 雅司委員長)

① 統計調査データのWEB収集及びEDC(electronic data capture)システムに関わる調査等を開始した。

- ② 本委員会及び統計調査委員会, 統計解析小委員会の各委員に対し, わかりやすく理解するため EDC システム導入についての講演会を実施した。
- ③ EDC 推進検討ワーキンググループと共同して EDC の導入を検討した。
- (4) 発展途上国の透析スタッフ育成プログラム小委員会 (山下明泰委員長)
  - ① 委員会は年に2回, オンラインで実施している。
  - ② 対面式研修を6期ぶりに, 第69回日本透析医学会学術集会・総会(令和6年6月, 横浜市)に合わせて実施した。COVID-19蔓延以前に決定していた研修候補者の中からカンボジアの5名を対象とした。3日間学会に参加したのち, 東京～神奈川の2大学病院を含む, 5施設で研修を行った。
  - ③ 来年度は第70回日本透析医学会学術集会・総会(令和7年6月, 大阪市)の開催に合わせて, ベトナムからの4名を対象に研修を実施することを取り決め, 10月以降, その準備を開始した。
- (5) 本学会のあり方小委員会 (友 雅司委員長)
  - ① 公益法人移行に関しては, 今後も継続審議していくこととした。
- (6) e-ラーニング検討小委員会 (菅野義彦委員長)
  - ① 第69回日本透析医学会学術集会・総会の教育講演を収録し, 会員専用ページ MyWeb にアップし, 専門医は単位取得できるようにした。また, 専門医以外の者もスキルアップのため視聴できるようにした。
  - ② 運用については, ホームページ上で「e-ラーニング配信開始のお知らせ」を掲載し, 本学会の会員(正会員, 施設会員, 賛助会員)へ周知した。
  - ③ 単位の認定に関しては, 出題された5問全てに正解することとし, 全門正解するまで何度も冒頭に繰り返し視聴できるようにした。
- (7) 書籍発行運営委員会 (小川智也委員長)
  - ① 日本透析医学会ブックシリーズの出版書籍として, 「透析患者の糖尿病治療ガイド2025」を出版することを決定し, 取引基本契約を締結した。
  - ② 出版書籍として「透析患者の糖尿病治療ガイド2025」は2025年5月の出版を目指す。
- (8) 台湾, 韓国, 本学会3学会シンポジウム推進小委員会 (土谷 健委員長)

2024年度は日本透析医学会, 台湾腎臓医学会, 韓国腎臓学会の覚書に則して, 3学会の年次学術大会を下記の通り開催した。

- ① 第69回日本透析医学会学術集会・総会(2024年6月8日16:30~18:30開催, 日本横浜)
 テーマ:「Conservative kidney management: CKM」
  - (1) 座長:
    1. 重松 隆(りんくう医療センター) 日本
    2. Kuan-Yu Hung (Taipei Medical University, Taipei, Taiwan) 台湾
    3. Chun Soo Lim (SMG-SNU Boramae Medical Center, Seoul National University, Korea) 韓国
  - (2) 演者:
    1. 脇野 修(徳島大学) 日本  
演題名: The positioning of CKM in Japanese medical system
    2. Chia-Ter Chao (National Taiwan University Hospital, Taipei, Taiwan) 台湾  
演題名: Conservative kidney management (CKM) for renal patients —Taiwan experience—
    3. Jeong-Hoon Lim (Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, School of Medicine, Kyungpook National University, Kyungpook National University Hospital, Daegu, South Korea) 韓国  
演題名: Current Status of Kidney Replacement Therapy and Shared Decision Making for Dialysis Therapy Selection in Korea
- ② APCN と韓国腎臓学会合同開催(2024年6月16日8:30~10:00開催, 韓国ソウル)
 テーマ:「Optimal Management of ESKD Patients in Asia」
  - (1) 座長:
    1. 武本佳昭(大阪公立大学) 日本
    2. Mai-Szu WU (Taipei Medical University) 台湾
    3. Sang-Ho LEE (Kyung Hee University Hospital at Gangdong) 韓国
  - (2) 演者:
    1. 友 雅司(大分大学) 日本  
演題名: Patient Selection and Prescription of Hemodiafiltration

2. Mai-Szu WU (Taipei Medical University) 台湾  
演題名: Strategies to Increase Kidney Transplantation
3. Sung Joon SHIN (Dongguk University Ilsan Hospital) 韓国  
演題名: Conservative Kidney Management & Palliative Care: Dialysis Withhold and Withdrawal
4. Philip Kam-Tao LI (Prince of Wales Hospital PD-first Policy in Hong Kong: Pros and Cons) 香港

③ 台湾腎臓医学会(2024年12月15日10:00～11:30開催, 台湾台北)

テーマ:「Strategies to Reduce Burden of Diabetic Kidney Disease and End Stage Kidney Disease - A Local perspective」

(1) 座長:

1. 小川智也(埼玉医科大学総合医療センター) 日本
2. Mai-Szu WU (Taipei Medical University) 台湾
3. Hyeong-Cheon Park (Yonsei University College of Medicine) 韓国

(2) 演者:

1. 森 克仁(大阪公立大学) 日本  
演題名: Special consideration of dialysis care for diabetic end-stage kidney disease patients
2. Chih-Cheng Hsu (Executive Director, National Center for Geriatrics and Welfare Research) 台湾  
演題名: Integrative diabetes and Kidney Care - Taiwan experience
3. Sang Youb Han (Inje University Ilsan-Paik Hospital, Korea) 韓国  
演題名: Reducing The Incidence of Diabetic End-Stage Kidney Disease: Lesson from Korea Kidney Health Plan 2033

(9) VA 血管内治療認定医制度委員会(深澤瑞也委員長)

1) 昨年度のVA血管内治療認定医制度委員会の認定作業時に生じた様々な事務手続き上の問題点および疑義解釈を中心に本年度の申請に関する修正点をまとめ公表した。また申請者にわかりや

すようにQ&Aスタイルでまとめ、ホームページ上に公表した。また個人情報保護法の遵守のため、本年は症例報告提出の際に、患者氏名が消去あるいは容易には確認できない状態にして提出を指示した。

2) 申請作業は構築した申請システムを用いて、昨年同様の秋からの申請、その後の審査を委員に依頼し判定を行った。生じた疑義に関しては新しい判定基準に基づき再審査し、最終的な疑義は委員全員の合議により判定を行った。

申請者数 151名

最終結果

合格 計87名(合格率60.0%)

不合格 計58名

結果は理事会に報告し最終決定とし、本人に対して結果発表を行った。本年より、個人情報保護法の遵守並びに手術記録において、医療法施行規則の遵守の審査強化により合格率は昨年度より低下し60.0%であった。不合格者には、不合格理由を記した書面を交付した。認定証の交付は、4月1日付けで交付。結果に対する異議がある場合には異議申し立てを行うこととし、規定の期限内に申し立てを受けることとした。

また本年度の申請においても、生じた問題点、疑義解釈に対しては、昨年度同様に翌年度以降の委員会への申し送りを行った。

6) 学会との連携、協力関係

(1) 日本医学会, (2) 日本医学会連合, (3) 日本医師会, (4) 日本慢性腎臓病(CKD)対策協議会, (5) 透析療法合同委員会, (6) 内科系学会社会保険連合, (7) 外科系学会社会保険連合, (8) 臓器移植関連学会協議会, (9) 末期腎不全治療説明用小冊子作成, (10) 糖尿病性腎症合同委員会, (11) 登録腎生検予後調査検討委員会, (12) 先行的献腎移植申請検査会, (13) 透析医療に関するグランドデザイン, (14) 日本透析医会との連絡協議会, (15) 日本医療器材工業会と日本透析医学会の連絡協議会等と協力、連携を密にしていく。

## 2. 財務委員会

2024年度事業として、日本透析医学会を健全に発展させることを目指して運営した。また、各事業に対して経費節減を心がけ、2025年度予算を作成した。

### 3. 編集委員会

- 1) 公式和文誌「日本透析医学会雑誌」について
  - (1) 日本透析医学会雑誌を毎月1冊、年間12冊を発行した。
  - (2) 学術集会・総会特別号(抄録集)を Supplement として発行した。ただし、郵送は希望者のみに限定した。
  - (3) 委員会報告として「統計調査委員会報告 2022 年末慢性透析患者数“減少”の背景を分析する」を2024年和文誌57巻2号に、「保険委員会報告 令和6年診療報酬改定に伴う保険委員会からの指針および参考資料提示のお知らせ」を57巻5号に掲載した。
  - (4) 「令和5年度コメディカル研究助成報告」2編を57巻5号に掲載した。
  - (5) 特集として「災害時の透析医療に関する広域関東圏連携会議の設立と展望」を2024年和文誌57巻9号に掲載した。
  - (6) 学術委員会の「Dialysis Therapy, 2023 year in review」を2024年和文誌57巻11号に掲載した。
  - (7) 統計調査委員会の年末調査報告「わが国の慢性透析療法の現況(2023年12月31日現在)」を2024年和文誌57巻12号に掲載した。
- 2) 公式欧文誌「Renal Replacement Therapy」(RRT) について
  - (1) 引き続きオンラインの Open Access Journal (著作権はCC-BY)として発行した。
  - (2) Scopus, DOAJ, Web of Science などの主要な Abstract & Indexing サイトに掲載されている。
  - (3) 2024年6月発表の Impact Factor 2023は0.9であった。
  - (4) PMC(PubMed Central)への掲載再申請を2023年6月に行ったが、不採択の審査結果であった。2025年6月に再申請予定。
  - (5) MEDLINE については、MEDLINE のポリシーにより、過去2年以内にPMCに reject されたジャーナルは申請できないこととなっているため、未申請の状態である。
  - (6) 2024年1月～2024年12月は254編の論文投稿があった(2023年の189編から26%増)。掲載論文数は77編であった(2023年の62編から20%増)。
  - (7) 2024年1月～2024年12月までの集計では、論文採択率は32.7%であった(2023年は39%)。
  - (8) 2024年1月～2024年12月までの集計では、わ

が国を含む世界40ヵ国からの投稿があった(2023年は40ヵ国)。

- (9) 2024年10月15日に査読投稿システムが Snapp に変更された(EMで審査中の論文は最終判定までEMにて行われる)。

### 4. 学術委員会

#### 1) 学会賞・奨励賞の選出

2024年度学会賞(木本賞)・奨励賞の候補論文の選考学術委員の投票で候補論文を official journal『日本透析医学会雑誌』56巻(2023年発行)と Renal Replacement Therapy (RRT) Vol.9 2024の中から合計10編を選定した。4月5日までに評議員に10編の中から推薦論文2編(1位, 2位)を選出し、その集計結果と、別に募集した公募論文(3編)の中から2024年4月12日の学術委員会で、木本賞と奨励賞を選出した。受賞論文は第69回日本透析医学会学術集会・総会で発表し表彰した。

2025年度学会賞(木本賞)・奨励賞の候補論文の選考を2025年2月3日に開始した。

#### 2) 学術委員会活動(ガイドライン, 提言等の作成, 広報活動)等に関する協議

以下の学術委員会の会合を定期的に開催し、学術委員会関連小委員会と共同して、実施すべき学術活動に関して協議・遂行した。

#### 3) 栄養問題検討ワーキンググループ(神田英一郎グループ長)

##### 課題① 慢性透析患者の栄養素摂取量の評価および予後の調査(SUDACHI STUDY)

慢性透析患者の栄養素摂取量および予後の関係を評価するため、大塚製薬工場との多施設共同前向きコホート研究(SUDACHI STUDY)を継続している。研究代表者は脇野 修学術委員会委員長, Steering committee は日本透析医学会栄養問題ワーキンググループである。393名のベースラインデータの収集が終了したため、データクリーニングと解析を開始した。

##### 課題② 第70回日本透析医学会学術集会・総会でのワーキンググループ企画を検討する。

SUDACHI STUDY の解析結果、透析患者の栄養摂取基準に関する文献的調査結果を発表するため、第70回日本透析医学会学術集会・総会において、ワーキンググループ企画「透析患者の栄養状態を解明する—SUDACHI study—」を開催予定である。

4) 腎性貧血ガイドライン改訂ワーキンググループ  
(倉賀野隆裕グループ長)

慢性腎臓病患者における貧血治療ガイドライン改訂ワーキングとして以下の改訂委員会を開催して改訂作業を進めた。

1. 第8回慢性腎臓病に伴う貧血治療ガイドライン改訂ワーキング (令和6年5月11日)
2. 第9回慢性腎臓病に伴う貧血治療ガイドライン改訂ワーキング (令和6年11月23日)

第69回日本透析医学会学術集会・総会において以下の2つのセッションで改訂の骨子を報告した。

1. シンポジウム4「慢性腎臓病に伴う貧血ガイドライン (Part 1)」(令和6年6月7日)
2. シンポジウム22「慢性腎臓病に伴う貧血ガイドライン (Part 2)」(令和6年6月9日)

5) 慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン改訂ワーキンググループ (脇野 修グループ長)

2024年5月16日改訂ガイドラインが完成し、評価委員、顧問への閲覧を開始した。5月24日まで意見を頂き、変更はなかった。ガイドライン原案がまとまり、6月7日から9日の第69回日本透析医学会学術集会・総会で多くの学会員にガイドライン原案として紹介された。8月11日公聴会を「AP日本橋」リモートとのハイブリッドで開催し、広く意見を集めた。その結果、公聴会意見を盛り込んだ改正版であるCKD-MBD-GL素案が作成された。この素案をもってさらに広くパブコメを募集した。10月21日より11月18日まで60近いパブコメが寄せられ、各章の分担責任者がそれらに回答した。多くのコメントに対し、適切に回答され、質問者の理解が得られた。そしてさらなる改訂案が提出されたが、①研究デザインに関する意見、②PTH下限値に関する意見、③PTH低下療法の妥当性に関する意見、④エテルカルセチドの投与方法に関する意見については担当者の回答後も議論が残った。12月6日の理事会において、これらの争点に関し検証する委員会の設置が決定され、①に関しては「JRDRの検証委員会」、②～④については「慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン(2025年改訂版)のパブコメに関する委員会」が学術委員会の附属委員会として設立された。「パブコメに関する委員会」においては2024年12月26日から2025年1月14日、当該ガイドラインの査読委員を中心とした11名の委員が改訂案の争点に関する検討をメールにて行い、意見が提出された。この意見を盛り込んだ検証委員

会案が完成し、2月1日に理事長に提出された。

6) 血液透析患者の糖尿病治療ガイド改訂ワーキンググループ (阿部雅紀グループ長)

2024年の第69回日本透析医学会学術集会・総会にて「透析患者の糖尿病治療ガイド(改訂版)」のコンセンサスカンファレンスを開催した。その後、パブリックコメントを募集し、公聴会を開催した。パブリックコメントおよび公聴会で出された意見を基に最終版を理事会で審議し、承認が得られた。発行形態については書籍発行運営委員会で審議した結果、書籍として発刊することとなった。

7) バスキュラーアクセスガイドライン追補に関するワーキンググループ (深澤瑞也グループ長)

シャント系、カフ型カテーテルの使用に関する追補に関して、グループ内に2つの班を作り素案を作成中。

8) ウロキナーゼ供給困難下におけるVA血栓性閉塞に対する代替医薬品の検討に関するワーキンググループ (深澤瑞也グループ長)

血栓溶解剤ウロキナーゼ(UK)の出荷停止に伴うVA血栓性閉塞に対する治療法に関して、急遽設定されたワーキンググループ。まずは関連学会の協力も仰ぎ、UK使用困難な状況下での会員の対応策をアンケート調査した。日本透析医学会誌にまずはアンケート結果を2025年1月号、その後シャント、カテーテルの治療に対する文献検索を2025年2月号に掲載した。UK使用困難に伴い再建術などの増加があり、長期間の安定したHDのために危惧される内容となっている。シャント系血栓性閉塞に関してはウロキナーゼの代替薬となり得る(海外のガイドラインでは使用法が掲載されている)t-PAの本邦への導入を目指して現在厚生労働省との面談を重ねている状況。また血栓吸引デバイスに関しては販売社による本邦への薬事申請に際して、国及びPMDAに学会として働きかけを行っている状況。

9) 末期腎不全患者の緩和ケアに関する提言作成委員会 (酒井 謙委員長)

提言作成委員会は、第69回日本透析医学会学術集会・総会において、第1回のOfficialな会議を経て、構成メンバーの拡充に努め、現在まで第9回の議事(各方面の30名の委員からなる)が進行した。

日本透析医学会では、2014年に「維持血液透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」で、「維持血液透析の見合わせ」について検討する状態を示した。さらに2020年には、「透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」

を学会として社会に公表し、SDM、ACPに加え、CKMの概念は、腎臓内科医、透析医のみならず、一般社会にも広まってきた。CKMの自己意思決定に関するプロセスは、この第2回の提言に盛り込まれ、英文誌(RRT)にも掲載された。

今回この委員会においては、CKMの技術的な問題、社会的問題、緩和医療、法制度的問題を、根拠をもって明らかにし、わが国におけるCKMの腎不全医療における位置付けと緩和ケアの方法論を明確にする。以上を、脇野 修学術委員長が令和5年11月1日の学会理事会にて提案を行い、委員長に酒井謙が着任した。

#### 【主な内容】

1. CKMの本邦における社会的な問題点(医療倫理)
2. CKMの本邦における法律上の問題点(自殺ほう助, 自殺教唆)
3. 生存権 患者の権利, 認知症患者の生存権
4. CKMの腎不全医療における位置付け
5. 腎代替療法との比較(4つの選択肢と並立可否か)
6. 人生の最終段階における医療とケアとしての意義
7. CKM実践における医療とケアの問題点
8. 薬物療法(オピオイド, 非オピオイド, 鎮痛補助薬, 保険診療で投薬可能かも含めて)
9. 非薬物療法(栄養療法, 酸素投与, 高カロリー輸液, 補助栄養剤は可能か)
10. 精神・心理・霊的療法など(精神科医師・臨床心理士の介入が保険診療上可能か)
11. 小児, グリーフケア

【診療報酬】緩和ケアとしてのCKM緩和ケア病棟への入院, 一般病棟入院患者への緩和ケアチームによる診療加算, 在宅医療での麻薬使用に関する診療報酬等に関しては, その準備を含めての文言作成に留意する。

以上を、脇野 修学術委員長に個々の素案の提案を行いながら、第9回までの議事を終えた。

#### 10) 透析患者の血圧管理に関する診療指針策定委員会(平和伸仁委員長)

新規委員会として下記メンバーにて発足した。  
委員長: 平和伸仁(横浜市立大学), 副委員長: 菅野義彦(東京医科大学), 常喜信彦(東邦大学), 委員: 有馬秀二(近畿大学), 大橋 靖(東邦大学医療センター佐倉病院), 古波蔵健太郎(琉球大学), 谷山佳弘(関西医科大学), 田蒔昌憲(徳島大学), 鶴屋和彦(奈良県立医科大学), 中川直樹(旭川医科大学), 長田太助(自治医科大学), 林 香(慶

應大学)

初年度は、2024年度末における統計調査項目に対して、血圧に関する調査項目の追加を打診し、またその内容についての意見を委員に委託。透析時の血圧に加えて、家庭血圧値の臨床での使用状況等、いくつかの調査項目について検討されていることを確認。次年度の計画策定を行うとともに、統計解析担当委員追加を検討。

#### 11) Green Dialysisに関する検討委員会(脇野 修委員長)

2024年12月6日の理事会で設立が承認され、委員会が設置された。以下の委員が選定され、2025年3月14日の理事会で承認された。

◎脇野 修, 小川智也, 川西秀樹, 久野 勉, 小岩文彦, 竹内裕紀, 武本佳昭, 友 雅司, 長沼俊秀, 永野伸郎, 番匠谷将孝, 水口 潤, 水口 齊, 峰島三千男, 山下明泰,  
(日本腎臓病薬物療法学会) 浦田元樹, 古久保拓

#### 12) 小委員会活動

##### (1) 学術委員会 学術専門部小委員会(小岩文彦委員長)

1. 2015年から開催しているDialysis therapy, year in review 2023を第69回日本透析医学会学術集会・総会(2024年6月7日)において委員会企画として開催した。

司会: 脇野 修(徳島大学), 小岩文彦(昭和大学藤が丘病院)

1) HD, HDF 友 雅司(大分大学), 2) 感染 菊地 勘(下落合クリニック), 3) 糖尿病 阿部雅紀(日本大学), 4) PD 長谷川毅(昭和大学), 5) CKD-MBD 大矢昌樹(近畿大学), 6) アクセス 村上雅章(静岡県立総合病院), 7) 心・血管 藤崎毅一郎(飯塚病院), 8) 栄養 脇野 修(徳島大学), 9) 腎性貧血 倉賀野隆裕(兵庫医科大学)

2. 各演者の先生にDialysis Therapy, 2023 year in reviewの発表内容を原稿にして透析会誌に投稿を依頼して57巻11号に掲載した。

##### (2) 血液浄化に関する新技術検討小委員会(山下明泰委員長)

1. 臨床系4委員, 工学系4委員で, 年2回の委員会活動を継続している。

2. 第69回日本透析医学会学術集会・総会(令和6年6月)では、「機能効率小委員会」との合同企画「未来の透析技術への前進」で研究成果

を公表した。演者5名中の3名を弊小委員会から出し、多くの参加者から好評を得た。

3. 第40回日本ハイパフォーマンスメンブレン研究会(2025年3月)において、弊小委員会とのコラボレーション企画(6演題)を実施し、好評を博した。
4. 臨床系委員を強化すべく引き続き、リクルートに勤める。
5. 今後の小委員会活動も、年2回を基本にオンラインで実施する。

(3) 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会(友 雅司委員長)

- ① 日本透析医学会、日本透析医会、JACE(日本臨床工学技士会)との3団体共同「透析排液管理ワーキンググループ(峰島三千男グループ長)」: 透析排水の適正管理についてさらなる検討を行い、その成果に関する啓発活動を行い、国土交通省より表彰を受けた。
- ② ISO・IEC対策ワーキンググループ(川西秀樹グループ長): 日本の見解を反映させるべく、日本医療機器テクノロジー協会(MTJAPAN)、日本臨床工学技士会と協力して、ISO・IEC会議に委員を派遣し討議を行った。
- ③ 第69回日本透析医学会学術集会・総会にて-「血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会」および「血液浄化に関連する新技術検討小委員会」合同セッションを開催し、「血液浄化器の(中空糸型)の機能分類2023」、「ヘモダイアフィルタのふるい係数の測定」について発表した。

(4) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会(鷺田直輝委員長)

- ① 体験参加型セッションの開催
- ② 学会ガイドライン・指針・委員会報告の内容を基にしたわかりやすいセミナーの開催
  - ① については、COVID-19の影響もあり開催できず、2025年度の開催を目指す。
  - ② については、計画のみではあるが、2025年度の第70回日本透析医学会学術集会・総会において、委員会企画として、セッションタイトル「医師の働き方改革やタスクシェアリングの発展のための課題」というセミナー開催を予定した。日本全国の研究教育機関における現在までの新たな試みを調査し、主要なものを本セミナーで発表してもらい、在宅透析、特に腹膜透析も含むような、看護師やコメディカルの教育体制

の構築にも寄与する体制の構築に寄与するセミナーとなることを目指す。

(5) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会(脇野 修委員長)

令和6年度の研究助成2件、日比野貴志(偕行会城西病院・理学療法士)および鈴木康二郎(松本市立病院・臨床工学技士)を、第69回日本透析医学会学術集会・総会で表彰した。

令和7年度のコメディカルスタッフ研究助成基金の申請受付を行ったところ10件の申請があった。5名の委員の先生による審査の結果

花岡吾子(大阪公立大学医学部附属病院医療機器部・臨床工学技士)

「人工知能(Artificial Intelligence: AI)を用いたシャント音からのバスキュラークセス不全の診断」西海 創(川崎医科大学総合医療センターMEセンター・臨床工学技士)

「超音波エコーと機械学習を活用した持続的腎代替療法回路の凝血トラブル予測手法の開発」

の2件に助成することが3月14日決定した。

(6) 透析医学用語集作成小委員会(脇野 修委員長)

2025年1月15日、2024年度日本医学会分科会用語委員会が開催され、参加した。ICD-10からICD-11への変更作業の進捗が報告された。各学会に依頼が来ると連絡を受け、対応していく。

## 5. 統計調査委員会

1) 2023年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査と報告

- ① 「わが国の慢性透析療法の現況(2023年12月31日現在)」を日本透析医学会雑誌57巻12号に掲載した。
- ② CD-ROM版「わが国の慢性透析療法の現況(2023年12月31日現在)」が整い次第、調査協力非会員施設に送付する。(施設会員には配布せず、学会ホームページ、WADDAシステムをご参照いただく)
- ③ 上記現況報告の英文化・RRT誌への投稿作業中である。
- ④ 上記現況報告のPDFファイル、PPTファイルを学会ホームページに掲載した。
- ⑤ 2023年調査結果を統計調査データベース、WADDAシステム(自動集計、研究データ切出し)に取り込み、学会ホームページの会員専用ページでWADDAシステム(自動集計)の2023

年版を公開した。

- 2) 「わが国の慢性透析療法の現況 (2021年12月31日現在)」を Annual Dialysis Data Report 2021, JSDT Renal Data Registry (JRDR) として, Renal Replacement Therapy (2024)

Article number: 10:78(2024), doi.org/10.1186/s41100-024-00585-5 として掲載した。

- 3) 2024年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査の実施

- ① 2024年の調査計画について倫理審査を依頼し、承認後 UMIN に公開した。
- ② 統計調査ファイルのダウンロードアップロードシステムの開発を業者に委託し、2024年調査から運用している。
- ③ 全国の透析施設に対して 2024 年末わが国の慢性透析療法の現況調査を実施した。  
新規調査として各種降圧薬使用の有無 (アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬, カルシウム拮抗薬, レニン・アンジオテンシン系阻害薬, ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬,  $\beta$  遮断薬, その他の降圧薬), 利尿薬使用の有無と種類, 家庭での血圧測定の有無, LDL-コレステロール濃度, 中性脂肪, スタチン使用の有無, エゼチミブ使用の有無, ペマフィブラート使用の有無, HBs 抗原, HBs 抗体, HBc 抗体, HBV DNA 検査, HCV 抗体, HCV RNA 検査の調査を行った。

- ④ 2025年4月1日現在収集作業中であるが、ほぼ例年並みの回収状況である。

- 4) WADDA システム, 学術研究用データ切り出しシステムの改善

- ① 学術研究用データ切出しシステムについて, 条件絞り込み機能を追加した。

- 5) 統計調査管理台帳システムの改善

- ① 統計調査管理台帳システムをさらに改善するため, 一部システム変更を行った。

- 6) 第69回日本透析医学会学術集会・総会において以下のセッションを開催・企画した。

- ① 統計調査委員会企画: 「こんなことまでできる! WADDA システム」

- 7) 統計調査データにおける研究活動の推進・論文化

- ① 学術委員会等他委員会と協力の上 JRDR データベースの解析, 論文化を解析小委員会中心に行った。
- ② 2024 年は JRDR を用いた研究結果 英文 13 編, 和文 1 編が掲載された。

- 8) 統計調査結果の英語版ホームページの充実

- ① JRDR の調査結果を広く海外に発信するために,

英語版ホームページの充実に努めた。

- 9) 国内・国際協力の推進

- (1) 米国腎臓データシステム (USRDS) に対して, データ提供を行った。
- (2) 国際腎臓学会 (ISN) 主導の途上国におけるレジストリ立ち上げプロジェクトである SharE-RR への参加を行い, Web 会議で意見を交換した。

統計解析小委員会

- (1) 学術委員会など学会内諸委員会と協同した各小委員の解析計画をブラッシュアップし解析を進めた。
- (2) JRDR を用いた研究計画および他団体・他学会から申請のあった研究計画について審議した。

地域協力小委員会

- (1) 2024 年末調査回収のため, 各地域において, 未回収施設に対する電話や FAX による督促を行った。
- (2) 統計調査への理解を深めるため地域協力員に, 統計調査委員会議事録のダイジェスト版を送付した。

## 6. 専門医制度委員会

- 1) 2024 年度 認定施設・教育関連施設 (新規・更新) 審査結果報告について (施設認定小委員会)

第 34 回新規申請・更新対象施設数について (深澤瑞也委員長)

- 1) 申請のあった認定施設 22 施設は規約に適合していることが報告され, 承認された。
- 2) 教育関連施設 60 施設についても規約に適合していることが報告され, 承認された。

これにより申請のあった認定施設 22 施設, 教育関連施設 60 施設すべて認定された。

認定期限 2025 年 3 月 31 日までの更新申請施設 審査結果

- 1) 認定施設において更新対象 74 施設のうち 70 施設より更新申請があり, 70 施設では規約に則り認定された。辞退施設はなく, 認定区分変更は 4 施設あり, 前述の新規申請で承認されていることが報告された。連絡なし, 退会はなかった。
- 2) 教育関連施設において更新対象施設 127 施設のうち 109 施設より更新申請があり, 109 施設すべて規約に則り認定された。辞退施設は 10 施設であった。また認定区分変更が 8 施設であり, 前述の新規申請で承認されていることが報告された。連絡なし, 退会はなかった。
- 3) 認定施設で更新疑義について, 個々に適格可否が諮られた。
- 4) 更新辞退となった教育関連施設 10 施設, 個々に

適格可否が諮られた。

### 教育関連施設申請条件に関する専門医制度規則施行細則の一部改正

専門医制度規則施行細則第9条2)の解釈に不一致な点があり、明確に記載する必要があるため、一部改正することとした。

#### 2) 2024年度専門医認定試験結果報告について

坂口美佳専門医試験小委員会委員長より、判定基準に基づいた合否判定結果を提示、承認を得た。

##### 1. 受験者数

(1) 専門医認定申請者数	276名
	(2023年度 293名)
初回申請者	229名
再申請者	46名
	(2023年度 43名)
特例申請者	1名
申請書類不適合者	2名
業績不適合者	5名
症例要約不適合者	0名
(2) 筆記試験・口頭試問受験予定者	269名
受験辞退者・当日欠席者	0名
(3) 筆記試験・口頭試問受験者	269名

##### 2. 科目別判定結果

###### (1) 症例要約

- ① 症例要約提出者 275名 (1名は特例申請者で要約再提出なし) で症例要約各 18枚、総計 4,950枚を分配して審査した。
- ② 配点は1症例について5点満点で採点。18症例の平均点を得点とした。
- ③ 本年はC-1(急性腎不全血液浄化症例)をサンプリング審査し、疑義もしくは不適と判定された9症例を委員会で検討、3例に対して再確認のための資料提出を求めた。すべての症例で資料の再提出が行われ、再審査の結果全例が適正であると判定された。
- ④ 全申請者の症例要約のうち2点以下、または採点者から疑義のコメントが記載された症例を委員会で検討、10症例については再提出、16症例については確認のための資料提出を求め、再採点を行った。
- ⑤ 今年度から申請時に個人情報保護法に抵触する要約もしくは資料を提出した場合、総合点から減点することが決定された。1) すべての提出書類で個人情報の消去がないもの(不合格)は0名、2) すべてではないが、一部に消去がなされていないもの(Dもしくは

R判定相当で総合点から-7.5点)は64名、3) 消去が不完全(透けて見えてしまうなど)であるもの(C-相当で総合点から-3点)は19名であった。

###### (2) 筆記試験

- ① 例年通りMCQ問題100問を出題した。
- ② 正答率分布  
5.9~99.3% (2023年度 24.1~99.3%)
- ③ 識別指数分布  
-0.20~0.56 (2023年度 -0.06~0.50)
- ④ 得点(平均点±標準偏差)  
70.0±8.2(40~90) (2023年度 76.7±7.6(49~95))
- ⑤ 問題採択  
正解率50%未満を参考に、識別指数と併せて問題の適否判定し、4問を不適当問題として全員正解とした。また、1問について正答を追加した。

###### (3) 口頭試問

- ① 評価はA, B, C, C-, Dの5段階とし、人格的、倫理観に問題がある場合は別途Rと評価し、倫理的減点を加えた。
- ② 評点  
試験官数の減少に対応して、C-を-3点、DおよびRを-7.5点とした。  
減点対象の評価については、その理由を記載して依頼した。

###### 3. 総合判定

今回の結果：平均 67.2点、標準偏差 7.75点

###### (1) 総合判定

合格基準

- ① 総合点：(平均-SD)
- ② 筆記試験：(平均-2SD)
- ③ 口頭試問で試験官全員がR判定ではない(全員がR判定で不合格)

###### (2) 合格判定

- ① 総合点：227名が合格基準を満たした
- ② 筆記試験：259名が合格基準を満たした
- ③ 口頭試問にて試験官全員がR判定：なし  
筆記試験での不合格者は全員総合点でも不合格

###### (3) 合格率

全申請者中

$227/276 = 82.2\%$  (2023年度 79.9%)

筆記口頭試問受験者中

$227/269 = 84.4\%$  (2023年度 86.3%)

既受験者

31/46=67.4% (2023年60.4%)

上記が提示され、合格者の認定について承認された。

なお今回、受験者に任意で、アンケート調査(回答1分程度)を行った。初期研修医制度終了後の基盤学会(内科学会・泌尿器科学会)での専門医取得後、ただちに日本透析医学会専門医制度研修プログラムに入ったのか、他のサブスペシャルティ学会の専門医制度を経由(例えば腎臓専門医など)したのかを尋ねた。

内科専門医においては、直接の透析専門医の取得を目指した、ないしは腎臓専門医取得後に透析専門医を目指したかについて、半々の回答結果であった。

### 3) 日本専門医機構サブスペシャルティ領域について

2024年8月19日に、2024年第1回機構認定サブスペシャルティ領域懇談会を日本内科学会(+日本腎臓学会)とともに行った。その結果、内科専攻医3年終了後の透析医学会の3年の通常研修は、専門医機構では認められない。あくまでも密接領域の腎臓学会との連携が必要であるとの日本内科学会の認識を、サブスペシャルティ領域懇談会としていただいた。一方泌尿器専攻医4年終了後の透析専門医の通常研修は可能だが、最低必要な腎臓内科研修領域のカリキュラム・試験必要とのことであった。カリキュラム必要条件は100症例(必須60症例)、専攻医の主体的な研修の場が必要(診療部門)、かつ統一した試験問題が必要とのことである。現在、日本透析医学会では機構の変化に留意しつつ、機構からは距離を置いた姿勢に転じていることが、共有された。

### 4) 地方学術集会認定申請について

『日本アフレスシス学会中部地方会』より申請があり、提出書類を元に審議した。

結果、基となる日本アフレスシス学会が全国規模学術集会としてすでに認定されており、その地方会を地方学術集会として認定する規定がなく、現時点では認定不可とした。

### 5) その他

- 1) 産前・産後の研修期間の短縮について今後の検討課題とし、理事会で報告することとした。
- 2) 個人情報保護法抵触について、審査の対象となる旨、規則施行細則第23条に追記することとし、3月の理事会で審議することとした。
- 3) カリキュラム小委員会(平和伸仁委員長)では、2025年に専門研修トレーニング問題集および専門研修マニュアルの改訂発行年であることが、

共有された。

## 7. 国際学術交流委員会

1. 第69回日本透析医学会学術集会・総会において国際学術交流委員会として下記の企画を実施した。

### 1) Symposium 1. Countermeasures for natural disaster in dialysis center

Chairs: 伊藤恭彦, 兵藤 透

【GI-13-1】 Experience in providing support for overseas disaster relief operations~What they need? and what we need? ~

Akira Miyata: Japanese Red Cross College Of Nursing, Disaster Management Research Institute, Japan/Kumamoto Dialysis Access Research Institute, Japan

【GI-13-2】 Preparedness and response against great disaster in Japanese dialysis centers

Mariko Miyazaki: Department of Nephrology, Tohoku University Graduate School of Medicine, Japan/Committee of risk management, Japanese Society of Dialysis Therapy, Japan

【GI-13-3】 Countermeasures for Natural Disaster in Dialysis Center in Indonesia

Pringgogidgo Nugroho: Faculty of Medicine, Universitas Indonesia, Jakarta, Indonesia

【GI-13-4】 Disaster Countermeasures in Dialysis Centers: Taiwan

Chih-Wei Yang: Chang Gung University, Taoyuan, Taiwan/Chang Gung Memorial Hospital, Taoyuan, Taiwan

【GI-13-5】 Mitigating Disinfection-Related Water Treatment System Disasters in Hemodialysis Centers: Lessons from a Tragic Incident

Dung Nguyen Huu: Vietnam Dialysis Association Nephro-Urology & Dialysis center, Bach Mai hospital Nephro-dialysis department, Vietnam Military Medical University, Hanoi, Vietnam

- 2) Symposium 2. Ideas for the optimal dialysis efficiency under each country's dialysis environment

【GI-14-1】 Ideas for the optimal dialysis efficiency under each country's dialysis environment: Vietnam

Shun Kubo: Hanoi French Hospital, Hanoi, Vietnam

【GI-14-2】 Past, present and main challenges of hemodialysis in Lao PDR

Sonedaohuang Daovanhoung: Nephrology Department, Mittaphab Hospital, Vientiane Capital, Lao PDR

【GI-14-3】 How to achieve the better dialysis efficiency under Myanmar dialysis environment?

Khinthida Thwin: Asia Royal Hospital, Yangon, Myanmar

【GI-14-4】 Optimal Dialysis Efficiency under each country's dialysis environment: An experience from Thailand

Kriang Tungsanga: Department of Medicine, Faculty of Medicine, Chulalongkorn U., Bangkok, Thailand

【GI-14-5】 Ideas for the optimal dialysis efficiency under each country's dialysis environment: Japan

Kenichi Kokubo: Kitasato University School of Allied Health Sciences, Japan

### 3) 一般講演 Free Communications

公募を行い第1日目に Oral presentation 3セッション (18 演題), 第2日目に Oral presentation 4セッション (21 演題) に加え, 第3日目に Poster presentation として2セッション (19 演題) の応募・講演があった。年齢制限付きで中位および下位所得国からの参加者へ travel grant を提供した。

### 4) Farewell Reception

大会2日日夜に開催され, 総会に参加された海外からの参加者およびその家族を理事長, 大会長, 評議員, 委員にてお迎えして, 学術交流及び友情を深めた。

### 2. 国際交流派遣事業

海外関連学会へ交流委員は派遣しなかった。

### 3. その他

国内外で開催される, 関連国際学会へ各委員が独自に参加した。

## 8. 評議員選出委員会

評議員の任期は2年であるため, 2024年度は選出を行わなかった。

## 9. 保険委員会

1) 2024年第69回日本透析医学会学術集会・総会において【診療報酬令和6年改定で何がどのように変わったか?】のセッションを司会: 深澤瑞也, 川西秀樹の委員で開催。

演者: 菊地 勘, 川西秀樹, 深澤瑞也, 中元秀友で2024年度改定の総括を行った。

2) 2024年度改定の結果の評価を行った。

3) 2026年度改定に向けての要望事項をまとめるべく活動した。

- ・ホームページを通じて会員からの要望事項を募った。
- ・昨年の申請の内容を吟味し次年度の申請に向けての準備を行った。

## 10. 倫理委員会

### 1) 倫理委員会の開催

(1) 統計調査臨床研究倫理審査について審議し承認した。

(2) 検討小委員会が審査を経て承認し報告のあった研究倫理審査13件について, 承認し理事長に答申し申請者に通知した。

### 2) 研究倫理に関する検討小委員会の開催

研究倫理審査の申請のあった13件の予備審査および検討小委員会の審査を経て承認し, 倫理審査委員会に報告した。

### 3) 個人情報管理

個人情報(評議員, 正会員氏名, 所属, 施設会員名簿)の提供依頼があり

(1) 個人情報管理者の承認を得るもの(規則第4条関係)

13件申請があり, 13件を承認した。

## 11. 腎不全総合対策委員会

本委員会では, 腎代替療法へのスムーズな移行や, 透析・移植患者のQOLの改善を目標に, 毎年のテーマを決めて検討を行ってきた。2024年度は, 高齢者の末期腎不全対策を主要なテーマとして学会企画を実施するとともに, バスキュラーアクセスの作成と管理状況についてアンケート調査を実施した結果を論文投稿に向けて作業中である。

### 1) 腎代替療法へのスムーズな移行に関する検討

透析導入前から透析導入期にかけてバスキュラーアクセス作製の実施時期や作製を担当した医師(診

療科など), 導入期のアクセス使用状況, インターベンションの必要性, などの実態調査を実施した結果を論文にまとめて投稿した.

## 2) 末期腎不全患者の QOL 向上

本委員会では過去にも末期腎不全患者と QOL の関連について検討した. 今回は保存期から透析期の腎不全管理や合併症管理が QOL にどのような影響を与えるのか, 移植医療の視点でみた患者 QOL や薬物療法や運動療法と腎不全患者の QOL について, 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会の学会・委員会企画で 5 人の演者に解説していただいた.

司会: 伊藤孝史 (帝京大学), 小岩文彦 (昭和大学藤が丘病院)

演者

- 1) 透析合併症管理と QOL 向上のジレンマ 小向大輔 (川崎幸病院腎臓内科)
- 2) 保存期から透析導入期の管理が QOL ならびに予後へ与える影響 稲熊大城 (藤田医科大学ばんだね病院)
- 3) 腎移植チームから見た腎代替療法と QOL 吉武理 (昭和大学病院腎移植センター)
- 4) 末期腎不全患者の QOL 向上を目指す腎臓リハビリテーションの展開 松沢良太 (兵庫医科大学)
- 5) 末期腎不全患者の薬物療法と QOL の関連 古久保拓 (仁真会白鷺病院)

## 12. 危機管理委員会

### 1) 危機管理委員会

透析医療における安全管理, 災害と透析医療をテーマとした学術活動を行うとともに, 災害時には関連団体と緊密に連携し対策を行った.

### 2) 災害対策小委員会 (山川智之委員長)

(1) 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会 (2024 年 6 月 7 日~9 日, パシフィコ横浜) において, 災害に関する危機管理委員会企画を行った.

テーマ: 「地域における災害時透析医療確保の取り組み」

司会: 鶴屋和彦, 山川智之

- 1) 小林真也 (宮の沢腎泌尿器科クリニック泌尿器科) 北海道における災害時透析医療の取り組み
- 2) 山本 卓 (新潟大学医歯学総合病院血液浄化療法部) 新潟県における災害時透析医療確保の取り組み
- 3) 谷村正信 (高知県厚生連 JA 高知病院泌尿器科) 高知県における災害時透析医療確保の取り組み

4) 田尻哲也 (仁誠会クリニックながみね) 熊本県における災害時透析医療確保の取り組み

5) 比嘉 啓 (首里城下町クリニック第二内科) 沖縄県における災害時透析医療確保の取り組み

(2) 第 70 回日本透析医学会学術集会・総会 (2025 年 6 月 27 日~29 日, 大阪国際会議場) において, 「透析療法災害対策における広域・行政との連携」をテーマとした災害に関する委員会企画を企画した.

(3) 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会中 (2024 年 6 月 8 日) に韓国腎臓学会 (KSN) 災害対策委員会と会議 (令和 6 年度日韓透析災害対策合同会議) を行い, 災害対策に関する意見交換を行った.

### 3) 医療安全対策小委員会 (満生浩司委員長)

(1) 医療事故調査報告制度に協力団体として登録しているが, 医療事故調査・支援センターからの依頼があった場合, 調査委員を派遣して事故事例のセンター調査に協力している. 今年度は部会員, 部会長の依頼はなかった.

(2) 医療事故調査委員を各都道府県に配置し, 必要に応じて委員の更新を行った.

(3) 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会 (6 月 7 日~9 日, パシフィコ横浜) において, 医療安全に関する危機管理委員会企画を行った.

テーマ: 「透析医療における医療安全のための提言作成に向けて」

司会: 鶴屋和彦, 満生浩司

1) 安藤亮一 (医療法人社団石川記念会) 医療安全のための提言作成の経緯と概要

2) 小松康宏 (板橋中央総合病院総合診療内科) 透析医療安全を達成するための方策

3) 山下芳久 (埼玉医科大学保健医療学部臨床工学科) 透析操作関連の事故防止

4) 木全直樹 (中野南口クリニック透析室) 透析医療における抜針事故防止に関する提言案

5) 小山貴也 (CHCP ヘルスケアシステム桑園中央病院血液透析センター) 転倒転落事故防止

6) 宮崎真理子 (東北大学病院血液浄化療法部) 事故後の対応~患者への対応, 家族等への連絡と説明, 施設内での対応, 外部への報告~

(4) 第 70 回日本透析医学会学術集会・総会 (2025 年 6 月 27 日~29 日, 大阪国際会議場) において, 「透析医療における医療安全のための提言」をテーマとした医療安全に関する委員会企画を企画した.

### 13. 研究者の利益相反等検討委員会

会員の重大な利益相反状態や自己申告内容に関する疑義等の指摘はなく、それに伴う当委員会の開催はなかった。

### 14. 男女共同参画推進委員会

#### 1) 男女共同参画推進委員会

日本臨床工学技士会、日本腎臓病薬物療法学会、日本腎不全看護学会、日本病態栄養学会と共同し男女共同参画活動を進める。日本透析医学会ホームページの男女共同参画推進委員会の項の拡充を図る。多職種の男女共同参画に関する小委員会、女性医師育成小委員会の活動内容を掲載する。透析分野における男女共同参画の現況、展望についての寄稿、編集を進める。本年度は終了できなかったが、引き続き継続していく。

#### 2) 小委員会

##### (1) 多職種の男女共同参画に関する小委員会

日本臨床工学技士会、日本腎臓病薬物療法学会、日本腎不全看護学会、日本病態栄養学会とそれぞれの働き方改革について各学会の経緯と現状と検討する。本年度は終了できなかったが、引き続き継続していく。

##### (2) 女性医師育成小委員会

#### I. 学会・委員会企画「TSUBASA PROJECT・2023年度透析専門医勤務状況調査報告」について

第69回日本透析医学会学術集会・総会において、学会・委員会企画10として、「TSUBASA PROJECT・2023年度透析専門医勤務状況調査報告」を開催した。

・第8回「TSUBASA PROJECT」に選出された研究結果を発表し、日本透析医学会ホームページに掲載した。発表後、英文論文化しRRTへ投稿する。

・第7回TSUBASA PROJECT受賞者 小林亜理沙先生（東京慈恵会医科大学）が、本プロジェクト承認後2年以内に英文論文化したことから、募集要項に定める論文化支援として、20万円の研究助成を認めた。

・「2023年度透析専門医勤務状況：透析療法領域における男女共同参画実態調査」の解析結果発表を行った。

#### II. 第9回「TSUBASA PROJECT」について

第9回「TSUBASA PROJECT」を公募した。「TSUBASA PROJECT」は女性医師の研究活動を奨励、援助し、それによって透析医療の向上、女性の活躍を推進させることを目的とし、優れた研究に対して研究助成を行うものである。

#### 第9回「TSUBASA PROJECT」募集要項

当該年度の日本透析医学会学術集会・総会にTSUBASA PROJECT賞として応募された抄録から、優れた演題6件を選出する。抄録は日本語、800文字までとする。選出は女性医師育成小委員会委員により行い、理事会の承認を得る。選出されなかった演題は当該年度の日本透析医学会学術集会・総会の一般演題に移行し、改めて500文字の抄録を作成する。

① 応募研究：透析医療に関する基礎研究、臨床研究、未発表論文であること

抄録は日本語、800文字まで

② 応募資格：日本透析医学会正会員の45歳以下の女性医師

③ 応募演題：6件

④ 選出報告：当該年度の日本透析医学会学術集会・総会の委員会セッションで発表。研究助成として、1件につき10万円を授与する。

⑤ 優秀演題賞：選出した6件の発表内容から、さらに優秀な3演題を選出し、特別研究助成10万円を授与する。優秀演題の選出は女性医師育成小委員会委員が行い、理事会の承認を得る。

⑥ 論文化支援助成：TSUBASA PROJECT賞で選出した6件が、2年以内に英文論文化した場合には、30万円までの論文化支援助成金を寄与する。なお、論文化に際してTSUBASA PROJECTの助成を受けたことに対する謝意を明記すること。

⑦ TSUBASA PROJECT賞、優秀演題賞は学会ホームページに掲載される。

#### III. 「TSUBASA PROJECT」の公報

日本透析医学会のホームページにアップするとともにバナーにも掲載依頼し、第69回日本透析医学会学術集会・総会にブース設置とポスター掲載をした。

### 15. 感染対策委員会

#### 1) 感染対策委員会

1. 透析患者における結核の現状に関するアンケート調査

2024年5月、日本透析医学会の施設会員を対象

に、透析患者における結核の現状に関するアンケート調査を実施した。4,167施設にアンケートを送付し、郵送で1,550件、Webで976件、合計2,526件（回収率60.6%）の回答を得た。

本調査により、透析患者における結核発症および潜在性結核感染症（LTBI: latent tuberculosis infection）の実態を明らかにすることができた。透析患者は結核発症の高リスク群であり、LTBIのスクリーニングの実施やLTBI患者に対する適切な治療の推奨、さらに透析医療機関における結核発症時の迅速な医療提供体制の整備が極めて重要であると考えられた。

なお、本アンケートの結果は、調査にご協力いただいた会員施設への報告として、2025年1月7日に日本透析医学会のホームページに掲載し、メーリングリストを通じて配信した。現在、本調査結果は査読付き英文誌に投稿しており、査読中である（2025年4月11日時点）。

## 2. 感染対策委員会の開催

2024年11月20日（水）18:30～19:30に、Web形式にて感染対策委員会を開催した。

会議ではまず、「透析患者における結核の現状に関するアンケート調査」の結果について委員への報告を行い、その内容および公開方法について議論を行った。

また、第70回日本透析医学会学術集会・総会における委員会企画について、2件の提案がなされ、いずれも承認された。

さらに、透析患者におけるCOVID-19の重症化リスクに関する検討も行い、60歳未満であっても重症化や死亡のリスクが高いことが確認された。このことを踏まえ、新型コロナワクチンの60歳未満の透析患

者への接種に対する公的補助について、厚生労働省への要望を提出する方向で検討を進めることとした。

## 3. 2024年の第69回日本透析医学会学術集会・総会

において、以下の感染対策委員会企画を行った。改訂された「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン」のポイント  
司会：菊地 勘（下落合クリニック）、竜崎崇和（東京都済生会中央病院）

演題（演者）：

- ① 標準的透析操作と感染対策（谷口弘美 東葛クリニック病院）
- ② 環境消毒（エコープローブの管理を含む）（増田直仁 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター腎臓高血圧内科）
- ③ 透析室整備と環境対策（山本 淳 みはま病院）
- ④ B型肝炎ウイルス（HBV）・C型肝炎ウイルス（HCV）の現状と対策（菊地 勘 下落合クリニック）
- ⑤ HIV（安藤亮一 石川記念会）
- ⑥ 梅毒（西野友哉 長崎大学病院腎臓内科）
- ⑦ 透析患者におけるインフルエンザウイルス感染症への対策（鶴屋和彦 奈良県立医科大学腎臓内科学）
- ⑧ 結核（吉藤 歩 慶應義塾大学医学部感染症学）
- ⑨ ノロウイルス（増田直仁 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター腎臓高血圧内科）
- ⑩ 帯状疱疹（吉藤 歩 慶應義塾大学医学部感染症学）
- ⑪ 本邦透析患者におけるCOVID-19ワクチン接種の有効性～JSDT年末統計調査を用いた解析～（菅原有佳 東京大学医学部附属病院腎臓・内分泌内科）

## Ⅱ. 処務の概要

### ① 役員等に関する事項

#### (1) 理事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
理事長	友 雅 司	令和6年6月6日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
常任理事	阿 部 雅 紀	同	非常勤	なし	
同	猪 阪 善 隆	同	非常勤	なし	
同	酒 井 謙	同	非常勤	なし	
理 事	繪 本 正 憲	同	非常勤	なし	
同	小 川 智 也	同	非常勤	なし	
同	菅 野 義 彦	同	非常勤	なし	一般社団法人 日本臨床栄養学会 理事長
同	菊 地 勘	同	非常勤	なし	
同	倉 賀 野 隆 裕	同	非常勤	なし	
同	小 岩 文 彦	同	非常勤	なし	一般社団法人 日本CKD-MBD学会 理事長
同	後 藤 順 一	同	非常勤	なし	
同	鶴 屋 和 彦	同	非常勤	なし	
同	長 沼 俊 秀	同	非常勤	なし	
同	中 野 敏 昭	同	非常勤	なし	
同	西 尾 妙 織	同	非常勤	なし	
同	花 房 規 男	同	非常勤	なし	特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化AI学会 代表理事
同	林 香	同	非常勤	なし	
同	平 和 伸 仁	同	非常勤	なし	
同	深 澤 瑞 也	同	非常勤	なし	
同	正 木 崇 生	同	非常勤	なし	一般社団法人 中国腎不全研究会 代表理事
同	米 田 龍 生	同	非常勤	なし	奈良県医師会透析部会 理事長
同	脇 野 修	同	非常勤	なし	

#### (2) 監事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
監 事	内 田 潤 次	令和6年6月6日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	一般社団法人 大阪透析研究会 代表理事
同	小 川 哲 也	同	非常勤	なし	
同	齋 藤 満	同	非常勤	なし	

## (3) 評議員

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
1	評議員	赤井靖宏	令和6年6月6日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
2	同	浅井利大	同	非常勤	なし	
3	同	朝田啓明	同	非常勤	なし	
4	同	浅沼克彦	同	非常勤	なし	
5	同	東治人	同	非常勤	なし	
6	同	阿部雅紀	同	非常勤	なし	
7	同	雨宮守正	同	非常勤	なし	
8	同	荒木信一	同	非常勤	なし	
9	同	荒木崇志	同	非常勤	なし	
10	同	荒木英雄	同	非常勤	なし	
11	同	安藤忠助	同	非常勤	なし	
12	同	安藤哲郎	同	非常勤	なし	
13	同	家原典之	同	非常勤	なし	
14	同	井尾浩章	同	非常勤	なし	
15	同	池田直史	同	非常勤	なし	
16	同	池田雅人	同	非常勤	なし	
17	同	猪阪善隆	同	非常勤	なし	
18	同	石井大輔	同	非常勤	なし	
19	同	石田英樹	同	非常勤	なし	
20	同	石津隆	同	非常勤	なし	
21	同	石橋由孝	同	非常勤	なし	
22	同	和泉雅章	同	非常勤	なし	
23	同	磯野元秀	同	非常勤	なし	
24	同	一色啓二	同	非常勤	なし	
25	同	井手健太郎	同	非常勤	なし	
26	同	伊藤孝史	同	非常勤	なし	
27	同	稲熊大城	同	非常勤	なし	
28	同	今田崇裕	同	非常勤	なし	
29	同	岩田恭宜	同	非常勤	なし	
30	同	岩谷博次	同	非常勤	なし	
31	同	内田潤次	同	非常勤	なし	
32	同	内山清貴	同	非常勤	なし	
33	同	海上耕平	同	非常勤	なし	
34	同	榎田英樹	同	非常勤	なし	
35	同	海老原至	同	非常勤	なし	
36	同	繪本正憲	同	非常勤	なし	
37	同	大島直紀	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
38	同	大城義之	同	非常勤	なし	
39	同	大田聡	同	非常勤	なし	
40	同	大坪茂	同	非常勤	なし	
41	同	大橋靖	同	非常勤	なし	
42	同	岡田浩一	同	非常勤	なし	
43	同	緒方浩顕	同	非常勤	なし	
44	同	小川哲也	同	非常勤	なし	
45	同	小川智也	同	非常勤	なし	
46	同	柏木哲也	同	非常勤	なし	
47	同	春日弘毅	同	非常勤	なし	
48	同	上條祐司	同	非常勤	なし	
49	同	川合徹	同	非常勤	なし	
50	同	川口祐輝	同	非常勤	なし	
51	同	川瀬友則	同	非常勤	なし	
52	同	河原崎宏雄	同	非常勤	なし	
53	同	神田英一郎	同	非常勤	なし	
54	同	神田武志	同	非常勤	なし	
55	同	菅野義彦	同	非常勤	なし	
56	同	菊川忠彦	同	非常勤	なし	
57	同	菊地勘	同	非常勤	なし	
58	同	菊池正雄	同	非常勤	なし	
59	同	北村健一郎	同	非常勤	なし	
60	同	木村朋由	同	非常勤	なし	
61	同	熊田憲彦	同	非常勤	なし	
62	同	倉賀野隆裕	同	非常勤	なし	
63	同	小出滋久	同	非常勤	なし	
64	同	小岩文彦	同	非常勤	なし	
65	同	合田朋仁	同	非常勤	なし	
66	同	河野圭志	同	非常勤	なし	
67	同	後藤順一	同	非常勤	なし	
68	同	後藤俊介	同	非常勤	なし	
69	同	小林洋輝	同	非常勤	なし	
70	同	小林広学	同	非常勤	なし	
71	同	小林衛	同	非常勤	なし	
72	同	小向大輔	同	非常勤	なし	
73	同	米田雅美	同	非常勤	なし	
74	同	小山一郎	同	非常勤	なし	
75	同	今裕史	同	非常勤	なし	
76	同	斎藤知栄	同	非常勤	なし	
77	同	齋藤満	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
78	同	酒井 謙	同	非常勤	なし	
79	同	酒井 行直	同	非常勤	なし	
80	同	坂口 美佳	同	非常勤	なし	
81	同	櫻田 勉	同	非常勤	なし	
82	同	佐々木 健介	同	非常勤	なし	
83	同	佐藤 純彦	同	非常勤	なし	
84	同	佐藤 暢	同	非常勤	なし	
85	同	佐藤 元美	同	非常勤	なし	
86	同	志熊 聡美	同	非常勤	なし	
87	同	島野 泰暢	同	非常勤	なし	
88	同	清水 泰輔	同	非常勤	なし	
89	同	常喜 信彦	同	非常勤	なし	
90	同	白石 晃司	同	非常勤	なし	
91	同	新宅 究典	同	非常勤	なし	
92	同	杉浦 寿央	同	非常勤	なし	
93	同	杉田 省三	同	非常勤	なし	
94	同	鈴木 朗	同	非常勤	なし	
95	同	鈴木 一裕	同	非常勤	なし	
96	同	鈴木 利彦	同	非常勤	なし	
97	同	鈴木 仁	同	非常勤	なし	
98	同	瀬田 公一	同	非常勤	なし	
99	同	蘇原 映誠	同	非常勤	なし	
100	同	祖父江 理	同	非常勤	なし	
101	同	高田 知朗	同	非常勤	なし	
102	同	滝沢 英毅	同	非常勤	なし	
103	同	滝本 千恵	同	非常勤	なし	
104	同	竹内 康雄	同	非常勤	なし	
105	同	竹田 徹朗	同	非常勤	なし	
106	同	田代 学	同	非常勤	なし	
107	同	田中 賢治	同	非常勤	なし	
108	同	田中 啓之	同	非常勤	なし	
109	同	田邊 克幸	同	非常勤	なし	
110	同	田邊 起	同	非常勤	なし	
111	同	谷口 正智	同	非常勤	なし	
112	同	谷山 佳弘	同	非常勤	なし	
113	同	玉垣 圭一	同	非常勤	なし	
114	同	田村 功一	同	非常勤	なし	
115	同	丹野 有道	同	非常勤	なし	
116	同	辻本 吉広	同	非常勤	なし	
117	同	津畑 豊	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
118	同	鶴屋和彦	同	非常勤	なし	
119	同	土井研人	同	非常勤	なし	
120	同	戸川証	同	非常勤	なし	
121	同	徳本正憲	同	非常勤	なし	
122	同	徳山博文	同	非常勤	なし	
123	同	友雅司	同	非常勤	なし	
124	同	友利浩司	同	非常勤	なし	
125	同	内藤省太郎	同	非常勤	なし	
126	同	長井幸二郎	同	非常勤	なし	
127	同	中倉兵庫	同	非常勤	なし	
128	同	中島歩	同	非常勤	なし	
129	同	中田純一郎	同	非常勤	なし	
130	同	長田太助	同	非常勤	なし	
131	同	仲谷慎也	同	非常勤	なし	
132	同	長門谷克之	同	非常勤	なし	
133	同	長沼俊秀	同	非常勤	なし	
134	同	中野敏昭	同	非常勤	なし	
135	同	中ノ内恒如	同	非常勤	なし	
136	同	中村典雄	同	非常勤	なし	
137	同	中村道郎	同	非常勤	なし	
138	同	中山晋二	同	非常勤	なし	
139	同	名波正義	同	非常勤	なし	
140	同	成瀬友彦	同	非常勤	なし	
141	同	西尾妙織	同	非常勤	なし	
142	同	西田隼人	同	非常勤	なし	
143	同	西野友哉	同	非常勤	なし	
144	同	二瓶大	同	非常勤	なし	
145	同	野口智永	同	非常勤	なし	
146	同	橋本幸始	同	非常勤	なし	
147	同	長谷川毅	同	非常勤	なし	
148	同	服部憲幸	同	非常勤	なし	
149	同	花房規男	同	非常勤	なし	
150	同	浜崎敬文	同	非常勤	なし	
151	同	濱野高行	同	非常勤	なし	
152	同	早川和良	同	非常勤	なし	
153	同	林香	同	非常勤	なし	
154	同	林晃正	同	非常勤	なし	
155	同	林秀樹	同	非常勤	なし	
156	同	早田学	同	非常勤	なし	
157	同	原澤信介	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
158	同	播本幸司	同	非常勤	なし	
159	同	番匠谷将孝	同	非常勤	なし	
160	同	樋口輝美	同	非常勤	なし	
161	同	平間章郎	同	非常勤	なし	
162	同	平山浩一	同	非常勤	なし	
163	同	平和伸仁	同	非常勤	なし	
164	同	深澤瑞也	同	非常勤	なし	
165	同	深水圭	同	非常勤	なし	
166	同	福田顕弘	同	非常勤	なし	
167	同	古市賢吾	同	非常勤	なし	
168	同	古野剛史	同	非常勤	なし	
169	同	星野純一	同	非常勤	なし	
170	同	細島康宏	同	非常勤	なし	
171	同	本田浩一	同	非常勤	なし	
172	同	前田兼徳	同	非常勤	なし	
173	同	正木崇生	同	非常勤	なし	
174	同	升谷耕介	同	非常勤	なし	
175	同	松尾七重	同	非常勤	なし	
176	同	松岡哲平	同	非常勤	なし	
177	同	松下和通	同	非常勤	なし	
178	同	松田洋人	同	非常勤	なし	
179	同	丸山彰一	同	非常勤	なし	
180	同	丸山高史	同	非常勤	なし	
181	同	丸山範晃	同	非常勤	なし	
182	同	丸山之雄	同	非常勤	なし	
183	同	三浦健一郎	同	非常勤	なし	
184	同	水崎浩輔	同	非常勤	なし	
185	同	三瀬直文	同	非常勤	なし	
186	同	溝渕正英	同	非常勤	なし	
187	同	満生浩司	同	非常勤	なし	
188	同	水口齐	同	非常勤	なし	
189	同	三野和宏	同	非常勤	なし	
190	同	宮園素明	同	非常勤	なし	
191	同	宮本哲	同	非常勤	なし	
192	同	望月保志	同	非常勤	なし	
193	同	森克仁	同	非常勤	なし	
194	同	森建文	同	非常勤	なし	
195	同	森下義幸	同	非常勤	なし	
196	同	森本耕吉	同	非常勤	なし	
197	同	森山能仁	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
198	同	安田日出夫	同	非常勤	なし	
199	同	柳田太平	同	非常勤	なし	
200	同	山川智之	同	非常勤	なし	
201	同	山口慎太郎	同	非常勤	なし	
202	同	山田保俊	同	非常勤	なし	
203	同	山中正人	同	非常勤	なし	
204	同	山本泉	同	非常勤	なし	
205	同	山本聡	同	非常勤	なし	
206	同	山本卓	同	非常勤	なし	
207	同	横地章生	同	非常勤	なし	
208	同	吉田理	同	非常勤	なし	
209	同	吉田英昭	同	非常勤	なし	
210	同	吉嶺陽仁	同	非常勤	なし	
211	同	吉本明弘	同	非常勤	なし	
212	同	米田龍生	同	非常勤	なし	
213	同	頼建光	同	非常勤	なし	
214	同	若杉三奈子	同	非常勤	なし	
215	同	脇野修	同	非常勤	なし	
216	同	鷺田直輝	同	非常勤	なし	
217	同	渡辺誠	同	非常勤	なし	

(4) 退任した役員等

該当なし

(5) 役員等の報酬等

区分	人数	報酬等の総額	備考
理事	22名	なし	
監事	3名	なし	
評議員	217名	なし	
合計	242名		

## ② 会員に関する事項

会員種別	員 数		増 減 数	摘 要
	今年度末	前年度末		
	2025年3月31日現在	2024年3月31日現在		
正 会 員	14,178	14,107	71	
施設会員	4,183	4,181	2	
賛助会員	55	58	-3	
名誉会員	53	53	0	
計	18,469	18,399	70	

## ③ 職員に関する事項

令和6年度末現在

職 名	常勤・非常勤	氏 名	採用年月日	担当事務	備 考
事務局長	常 勤	小 島 吉 晴	令和 5年 4月 1日	総 括 管 理	

## ④ 役員会等に関する事項

### (1) 理事会

開 催 年 月 日	議 事 事 項	会議の結果
令和6年5月17日 第1回理事会	<ol style="list-style-type: none"> <li>入会・退会に関する件</li> <li>日本透析医学会定款施行細則第10条第2項に基づく推薦枠理事候補者の推薦に関する件</li> <li>役員選任に伴う選挙立会人候補者の指名に関する件</li> <li>令和6年度日本透析医学会賞（木本賞）・奨励賞の選考に関する件</li> <li>令和5年度事業報告（案）に関する件</li> <li>令和5年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等に関する件</li> <li>令和5年度監事による監査報告に関する件</li> <li>第69回通常総会開催及び臨時総会開催に関する件</li> <li>第69回学術集会・総会開催時の各賞表彰次第（案）に関する件</li> <li>第28回日本心不全学会学術集会とのジョイントセッションの開催について</li> <li>2023年度VA血管内治療認定医認定に関する異議申立てについて</li> <li>学術委員会報告</li> <li>一般社団法人日本移植学会「生体腎移植施設基準に関するアドホック委員会」委員の推薦について</li> <li>透析患者の血圧管理に関する診療指針策定の委員会設置の提案</li> <li>第69回（令和6年）学術集会・総会に関する件</li> <li>第70回（令和7年）学術集会・総会に関する件</li> </ol>	<p>全会一致で承認 全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認</p>
令和6年6月6日 第2回理事会	<ol style="list-style-type: none"> <li>入会・退会に関する件</li> <li>第69回通常総会及び臨時総会の進行に関する件</li> <li>学術委員会「末期腎不全の緩和医療・ケアに関する提言」作成委員会委員に関する件</li> <li>ベトナムへの講師派遣の依頼に関する件</li> <li>委員会報告の位置付けに関する件</li> <li>EDCに関わる業者選定に関する件</li> <li>CKD-MBDガイドライン原案に関する件</li> </ol>	<p>全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認</p> <p>全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認</p>

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和 6 年 6 月 6 日 第 2 回理事会	8. 第 70 回（令和 7 年）学術集会・総会に関する件 9. 第 71 回（令和 8 年）学術集会・総会に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認
令和 6 年 6 月 6 日 第 3 回理事会	1. 理事長（代表理事）選定の件 2. 常任理事の選定の件 3. 常置委員会委員長・小委員会委員長及び委員の委嘱に関する件 4. 対外委員に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
令和 6 年 8 月 2 日 第 4 回理事会	1. 入退会に関する件 2. 常置委員会委員長，小委員会委員長等及び委員に関する件 3. 対外委員に関する件 4. 2024 年度セルフトレーニング問題採点結果に関する件 5. 「肺炎球菌ワクチンを含むワクチンに関して予防啓発をリードする若手医師の育成を目指す教育活動」に関する公募型医学教育プロジェクト助成応募へのご承諾のお願いに関する件（事後審議） 6. 保険委員会関連 7. 「VA 日常管理指導士」（仮称）設立のための委員選出に関する件 8. 委員会報告の作成に関する件 9. WCN'26（世界腎臓学会議）の日本（横浜）開催招致決定に関する件（事後審議） 10. 学術委員会 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会関連 11. Renal replacement therapy 誌（RRT 誌）Editor in chief に関する件 12. 第 69 回（令和 6 年）学術集会・総会に関する件 13. 第 70 回（令和 7 年）学術集会・総会に関する件 14. 第 71 回（令和 8 年）学術集会・総会に関する件 15. 第 72 回（令和 9 年）学術集会・総会に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
令和 6 年 12 月 6 日 第 5 回理事会	1. 入退会に関する件 2. 幹事の推薦に関する件 3. 第 70 回学術集会・総会の予算（案）に関する件 4. 第 71 回学術集会・総会の予算（案）に関する件 5. 第 72 回学術集会・総会の予算（案）に関する件 6. 第 73 回（2028 年）次次次期会長選出に関する件 7. 2025 年度事業計画，概算要求及び 2024 年度事業報告の作成に関する件 8. 2024 年度当初予算の誤謬修正に関する件及び補正予算（案）に関する件 9. 特定資産から流動資産への一部繰入（案）に関する件 10. 規則等の制定に関する件 11. 規則等の一部改正に関する件 12. 「台湾，韓国，本学会 3 学会シンポジウム推進小委員会」に関する件 13. 編集委員会 和文誌編集委員会関係 14. 学術委員会 慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン改訂ワーキンググループ関係 15. 学術委員会 末期腎不全患者の緩和医療・ケアに関する提言作成委員会に関する件 16. 専門医制度委員会関係 17. 第 71 回（2026 年）学術集会・総会に関する件 18. 第 33 回日本心血管インターベンション治療学会；CVIT2025 学術集会合同セッション開催について 19. 学術集会・総会時における通常総会開催に伴う通告について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
令和 7 年 3 月 14 日 第 6 回理事会	1. 入退会に関する件 2. 第 73 回（2028 年）次次次期会長選出に関する件 3. 名誉会員の推薦に関する件 4. 2025 年度事業計画（案）に関する件 5. 2025 年度新規事業に伴う概算要求（案）に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認



開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
・統計調査委員会 令和 6 年 5 月 8 日	3. 2024 年（次年）調査内容の検討 4. EDC 推進検討ワーキンググループ WEB 会議の報告 5. 解析小委員会からの報告 6. 2022 年末慢性透析患者数“減少”の背景を分析する. 透析会誌 57（2）：51-67, 2024	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
令和 6 年 8 月 21 日	7. 第 69 回日本透析医学会学術集会 統計調査委員会企画 8. 公募研究の再開について 9. SharE-RR 報告 10. USRDS へのデータ提供	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
令和 6 年 10 月 7 日	1. 2022 年調査のまとめと EDC 推進検討ワーキンググループの入力用 Excel ファイルの DL, UL システムの業者選定結果について 2. 2023 年現況報告案, CD-ROM 帳票案の提示 3. 2024 年（次年）調査内容の検討 4. 2024 年調査研究計画書, 倫理関連書類（理事会, 倫理審査）の作成, UMIN 登録について 5. 公募研究の内規について 6. 「統計調査を用いた研究の進め方に関する内規」一部内容見直しについて 7. 解析小委員会報告 8. 他団体へのデータ提供（USRDS）について 9. 2025 年学術集会 第 70 回学術集会 委員会企画	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
令和 7 年 1 月 22 日	1. 2024 年調査内容について 2. 2023 年現況報告, CD-ROM 帳票 3. 2024 年調査データの二次利用申請について 4. 公募研究 募集の検討 5. 解析小委員会からの報告 6. 2025 年学術集会 第 70 回学術集会 委員会企画の内容について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
令和 7 年 3 月 26 日	1. 2024 年調査進捗状況報告 2. 2025 年度事業計画と 2024 年事業報告の確認 3. 2023 年現況報告, CD-ROM 帳票 4. 公募研究の募集について 5. 日本透析医学会統計調査データを用いた研究の進め方に関する内規 6. 統計調査入力用 Excel ファイルの二次利用申請の審議 7. データの提供依頼（地方自治体, その他） 8. EDC システムの仕様について 9. 解析小委員会からの報告 10. 患者数予測について 11. 2025 年学術集会 第 70 回学術集会 委員会企画の内容について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・専門医制度委員会 令和 6 年 11 月 24 日	1. 2024 年度認定施設・教育関連施設（新規・更新）審査結果報告について 2. 2024 年度専門医認定試験結果報告について 3. 日本専門医機構サブスペシャルティ領域について 4. 地方学術集会認定申請について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
令和 7 年 3 月 20 日	1. 認定期限 2025 年 3 月 31 日までの専門医認定更新審査結果について 2. 2024 年度 第 35 回 指導医認定審査結果について	全会一致で承認 全会一致で承認

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和 7 年 3 月 20 日	3. 認定期限 2025 年 3 月 31 日までの指導医認定更新審査結果について 4. 地方学術集会, 生涯教育プログラム, 全国規模学術集会について 5. 専門医制度規則・施行細則改訂について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
・国際学術交流委員会 令和 6 年 8 月 7 日	1. 第70回日本透析医学会学術集会・総会の国際学術交流委員会企画について 2. 委員の退任と新委員の推薦について	全会一致で承認 全会一致で承認
・評議員選出委員会 令和 6 年 12 月 27 日	1. 評議員選出規則の修正について 2. 第 8 回評議員選出日程 (案) について 3. 評議員選挙の電子投票について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
・保険委員会 令和 6 年 9 月 28 日	1. 令和 6 年度診療報酬改定に関して 2. 令和 8 年度改定に向けて流れ 3. 令和 8 年度改定に向けて取り組み	報告・承認 報告・承認 報告・承認
・倫理委員会 令和 6 年 9 月 9 日	1. 日本透析医学会統計調査にかかわる臨床研究倫理審査について	全会一致で承認
・腎不全総合対策委員会	「該 当 な し」	
・危機管理委員会 令和 6 年 10 月 22 日	1. 令和 6 年度の事業報告について 2. 第 70 回学術集会の災害対策小委員会の委員会企画 3. 第 70 回学術集会の医療安全小委員会の委員会企画 4. 日本医療安全調査機構への協力について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・研究者の利益相反等検討委員会	「該 当 な し」	
・男女共同参画推進委員会	「該 当 な し」	
・感染対策委員会 令和 6 年 11 月 20 日	1. 「透析患者における結核の現状に関するアンケート」調査の結果報告 2. 「透析患者における結核の現状に関するアンケート」調査結果の公開について 3. 日本透析医学会での委員会企画について	報告・承認 報告・承認 報告・承認

### ⑤ 許可, 認可, 承認等に関する事項

申請月日	申請事項	許可等月日	備考
	「該 当 な し」		

### ⑥ 重要な契約に関する事項

契約年月日	相手方	契約の概要
	「該 当 な し」	

## 事業報告の附属明細書

### 1. 役員その他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況

区分	氏名	兼職先法人等	兼職の内容	関係
理事長	友 雅 司	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本血液透析濾過医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	副理事長	一 部
		特定非営利活動法人 ハイパフォーマンス・メンブレン研究会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎血液浄化 AI 学会	監 事	一 部
		一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会	理 事	一 部
常任理事	阿 部 雅 紀	特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	副理事長	一 部
		特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	副理事長	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 ハイパフォーマンス・メンブレン研究会	理 事	一 部
	猪 阪 善 隆	一般社団法人 日本腎臓学会	特別顧問	一 部
		一般社団法人 大阪透析研究会	理 事	一 部
		公益財団法人 大阪腎臓バンク	理 事	一 部
		公益社団法人 大阪ハートクラブ	理 事	関係なし
		一般社団法人 日本腎代替療法医療専門職推進協会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部
	酒 井 謙	一般社団法人 日本移植学会	幹 事	ほぼ同一
		公益社団法人 日本透析医会	幹 事	ほぼ同一
		一般社団法人 日本腎代替療法医療専門職推進協会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本臨床腎移植学会	理 事	ほぼ同一
		一般社団法人 日本腹膜透析医学会	監 事	ほぼ同一
		一般社団法人 日本サイコネフロロジー学会	理 事	一 部
	理 事	繪 本 正 憲	一般社団法人 大阪透析研究会	理 事
一般社団法人 日本マグネシウム学会			理 事	関係なし
特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会			理 事	一 部
小 川 智 也		特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本サイコネフロロジー学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本透析アクセス医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本アフレスシス学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本在宅血液透析学会	副理事長	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	理 事	一 部
菅 野 義 彦		一般社団法人 日本臨床栄養学会	理事長	関係なし
		一般社団法人 日本病態栄養学会	理 事	関係なし
		一般財団法人 日本栄養療法推進協議会	副理事長	関係なし
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
理 事	菊 地 勘	公益社団法人 日本透析医会	理 事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	理 事	ほぼ同一
	倉 賀 野 隆 裕	特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	副理事長	一 部
	小 岩 文 彦	一般社団法人 日本 CKD-MBD 学会	理事長	関係なし
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	関係なし
	後 藤 順 一	北海道透析医会	会 長	一 部
		札幌市透析医会	副会長	一 部
	鶴 屋 和 彦	一般社団法人 日本腎臓学会	理 事	関係なし
	長 沼 俊 秀	特定非営利活動法人 日本透析アクセス医学会	理 事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本血液透析濾過医学会	監 事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	理 事	ほぼ同一
		一般社団法人 大阪透析研究会	理 事	ほぼ同一
		大阪透析医会	常任幹事	ほぼ同一
	西 尾 妙 織	一般社団法人 多発性嚢胞腎協会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部
	花 房 規 男	一般社団法人 日本アフェリシス学会	理事(10月まで)	一 部
		特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本病態栄養学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	代表理事	一 部
	林 香	妊娠高血圧学会	理 事	関係なし
	平 和 伸 仁	神奈川県透析医会	理 事	一 部
		一般社団法人 米国内科学会日本支部	監 事	関係なし
	深 澤 瑞 也	特定非営利活動法人 日本透析アクセス医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 ハイパフォーマンズ・メンブレン研究会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本透析合併症医学会	理 事	一 部
	正 木 崇 生	一般社団法人 中国腎不全研究会	代表理事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	理 事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本血液透析濾過医学会	理 事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	ほぼ同一
		公益社団法人 日本透析医会	理 事	ほぼ同一
	米 田 龍 生	一般社団法人 日本移植学会	理 事	ほぼ同一
		奈良県医師会透析部会	理事長	ほぼ同一
	脇 野 修	一般社団法人 日本腎臓学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本臨床栄養学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本腎不全合併症学会	理 事	一 部

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
監 事	内 田 潤 次	一般社団法人 大阪腎泌尿器疾患研究財団	理 事	関係なし
		公益財団法人 大阪腎臓バンク	理 事	関係なし
		一般社団法人 大阪泌尿器科臨床医会	理 事	関係なし
		一般社団法人 日本臨床腎移植学会	理 事	関係なし
		一般社団法人 大阪透析研究会	代表理事	関係なし
	齋 藤 満	公益財団法人 あきた移植医療協会	理 事	関係なし

## 2. その他の記載事項

その他事業報告の内容を補足する重要な事項はない。

# 令和7年度事業計画

自 令和7年4月1日  
至 令和8年3月31日

一般社団法人日本透析医学会

## 1. 総務委員会

### 1) 年次学術集会

第70回日本透析医学会学術集会・総会は、大阪大学大学院医学系研究科腎臓内科学 教授 猪阪善隆会長が主宰し、2025年6月27日(金)、28日(土)、29日(日)の3日間、大阪国際会議場、リーガロイヤルホテル大阪他を会場として開催する。

今回のテーマは「いのち輝く未来社会の透析医療」を掲げて開催する。

#### <招待講演>

「Cardiovascular Effects of Home Dialysis Therapies」, 「CKD-MBD treatment in dialysis patients: guidelines and developments」

#### <特別講演>

「多様な個性の力を発揮し、いのち輝く社会へ」, 「医療イノベーション創出におけるアカデミアの役割」, 「アバターと未来医療」, 「生命を捉えなおす～動的平衡の視点から～」, 「透析を止めた日」, 「透析導入期加算を通じた重症化予防の推進と深化した共同意思決定の推進について」

#### <会長講演>

「いのち輝く未来社会の透析医療を目指して」

#### <教育講演>

「遠心分離法を用いたヘムアフェレシス」, 「急性血液浄化療法アップデート」, 「新しい尿毒素の定義に基づく血液浄化器の評価」, 「I-HDFの臨床効果を検証する」, 「VA作製の術前評価」, 「バスキュラーアクセス作製の術前評価」, 「エコーガイド下穿刺の基礎から実践」, 「IDHを防ぐ体液量設定方法～多軸的体液管理と透析の安定～」, 「透析アミロイドーシスの診断と治療～整形外科の立場から～」, 「誰でもできるフットケアの実践～足のアセスメントと処置～」, 「透析患者の血糖管理」, 「サイバー攻撃に対するBCP」, 「腎臓リハビリテーションの実際」, 「PDにおける腹膜線維化について(基礎研究)」, 「腹膜透析の血液透析への移行, 併用療法への移行と中止について」, 「腎不全患者における腎または肝同時移植の適応と実際」, 「今後の移植医療のあり方について」, 「免疫学的ハイリスク腎移植の現状と今後の展望」, 「透析患者の悪性腫瘍」, 「HIF-PH阻害薬の最新アップデート」, 「CKD-MBDの基礎を学ぶ」, 「透析患者の心臓突然死の現状」, 「透析患者の心不全治療の現状と課題」, 「心不全合併透析患者の血行動態管理に役立つ心エコー図検査の見方」, 「中性脂肪蓄積心筋血管症 TGCV における CKD の意義」,

「中性脂肪蓄積心筋血管症 TGCV に対するトリカプリン栄養療法」, 「おいしくリン制限をする食事療法の実践的アプローチ」, 「高齢透析患者特有の食事療法の問題とその対策」, 「腎不全患者の人生を豊かにする生活目標(Life Targets)の実践とその意義」, 「透析医療におけるACP」, 「優しさを伝えるマルチモーダル・ケア技術: ユマニチュード」, 「コーチングマインドで毎日を豊かにする」, 「透析現場におけるキャリア開発ラダーの作り方と活用」, 「看護師の特定行為の実践と課題」, 「透析医療におけるデータサイエンスの実践と展望—標準化から機械学習の臨床応用まで—」, 「医師におけるChatGPTの有効な使い方」, 「透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」に関する留意点」, 「レジリエンス・エンジニアリング理論に基づく安全マネジメントの実践」, 「透析排水の適正管理」

#### <合同企画シンポジウム>

日本循環器学会・日本透析医学会 合同企画: 透析患者の心血管病治療の実践的アプローチ

日本骨粗鬆症学会・日本透析医学会 合同企画: 透析患者の骨折予防戦略

日本腎臓病薬物療法学会・日本透析医学会 合同企画: 透析患者に対する薬物治療の注意点～薬剤師の視点～

#### <シンポジウム>

「オンラインHDFの再評価」, 「異種移植～温故知新～」, 「透析患者の冠動脈石灰化結節を識る」, 「腹膜透析の遠隔医療」, 「貧血ガイドライン2024～臨床はどう変わるか?」, 「骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン改訂の意図を読み解く」, 「患者の日常生活の「見える化」～遠隔モニタリング～」, 「AKI診断精度の向上を目指して」, 「透析液組成の将来設計」, 「バスキュラーアクセス長期開存を目指した手術, 管理」, 「サイコネフロロジー診療ガイドと臨床現場での実践」, 「急性腎障害と血液浄化療法の現状と課題」, 「透析患者におけるnephrocardiology (Nephrocardiology in Dialysis Patients)」, 「CKD患者が適切な造影剤検査を受けるための啓発活動」, 「透析患者の弁膜症カテーテル治療の進歩と今後の課題」, 「医療における人工知能研究・実装の最前線」, 「透析患者の脳血管障害～治療の最前線と今後の課題」, 「透析患者における抗凝固薬, 血栓溶解薬の適応を再考する」, 「透析患者の末梢動脈疾患の集学的治療」, 「災害時透析医療における広域関東圏での行政を含む地域連携」, 「もしCKD患者が大規模災害に遭ったら, どうする? どうなる?」, 「HIF-

PH 阻害薬のコントロールシシー], 「透析情報標準 HL7 FHIR 規格」, 「透析患者総数減少に関する検討, 分析」  
＜TSN-KSN-JSDT Joint Symposium＞

「Dialysis treatment in an aging society」  
＜ワークショップ＞

「在宅血液透析普及に向けて」, 「腎代替療法を受けている患者さんの声を聴く」, 「新生児・小児から移行期までの透析医療の現在地」, 「透析装置洗浄消毒・透析液清浄化の諸問題」, 「バスキュラーアクセス治療の最新動向」, 「次世代につなぐ! VA 関連手技をこう教えている」, 「【Japan Endovascular Treatment Conference (JET) 合同企画】LIVE 動画から学ぶ! VAIVT 手技のコツ」, 「シャント関連疼痛をどうやって見分け, どうやって痛みを軽減している! ?」, 「どうやってる! ? VA 管理」, 「VA 看護の現状とこれから」, 「透析時運動指導等加算がもたらした透析医療の変革」, 「血液浄化における CE 業務の展望」, 「透析患者のビタミン・微量元素」, 「腹膜透析推進に向けた取り組み」, 「血液浄化における多職種連携を考える」, 「サルコペニアをめぐる疑問」, 「腹膜透析患者の地域連携推進のための取り組み」, 「私の栄養療法外来～これが私の指導法です」, 「私の施設の PD 診療～PD の始め方, 終わり方」, 「未来へ繋ぐ腎移植～移植医療を始めませんか～: 腎移植若手の会共催企画」, 「腎移植後管理～こんな時どうしますか? ～」, 「今あらためて塩分について考える」, 「アフレスが切り開く未来」, 「腎代替療法における DX」, 「全ての腎不全患者に届ける SDGs な腎移植を目指して」, 「血液浄化における高齢者看護」, 「腎不全患者への支援を考える」, 「腎臓病・透析患者のプレコンセプションケア」, 「若手研究者と考える臨床研究キャリアパス」, 「私の骨粗鬆症外来～プラクティスパターン開陳します」, 「透析患者の骨をめぐる疑問」

＜学会・委員会企画＞

腎不全総合対策委員会企画: 地域を踏まえた腎不全対策を考える

学術委員会企画: year in review 2024

感染対策委員会企画: 透析患者におけるワクチン接種と感染症の予防戦略

保険委員会企画: 令和 8 年度改定に向けて保険委員会の取り組み

統計調査委員会企画: JSDT 統計調査データを用いた臨床研究

感染対策委員会企画: バスキュラーアクセス/ペリトネアルアクセスと感染予防

男女共同参画推進委員会企画: TSUBASA PROJECT

危機管理委員会 (災害対策小委員会) 企画: 透析療法災害対策における広域・行政との連携 (Collaboration with Regional and Administrative Authorities in Disaster Management for Dialysis Therapy)

学術委員会 (栄養問題検討ワーキンググループ) 企画: 透析患者の栄養状態を解明する—SUDACHI study—  
学術委員会 (血液浄化に関する新技術検討小委員会) 企画: 新技術で貢献するいのち輝く次世代人工腎臓治療への挑戦

危機管理委員会 (医療安全小委員会) 企画: 透析医療における医療安全のための提言

学術委員会 (末期腎不全患者の緩和ケアに関する提言作成委員会) 企画: 末期腎不全患者の緩和ケアに関する提言

学術委員会 ウロキナーゼ供給困難下における VA 血栓性閉塞に対する代替医薬品の検討に関するワーキンググループ: ウロキナーゼ非供給による透析医療への影響, そしてその対策

学術委員会 (血液浄化の機能と効率に関する委員会) 企画: 血液浄化器 (中空糸型) 機能分類の改訂に向けて

学術委員会 (栄養問題検討ワーキンググループ) 企画: CKD 保存期から透析まで一貫した食事療法  
統計調査委員会企画: WADDA システムをどう使いこなすか

専門医制度委員会企画: 転換期を迎える日本専門医機構と透析医学会

学術委員会 (バスキュラーアクセスガイドライン追補に関するワーキンググループ) 企画: 慢性血液透析用バスキュラーアクセスの作製および修復に関するガイドライラインの追補版作成の進捗状況

学術委員会 (医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会) 企画: 医師の働き方改革やタスク シェアリングの発展のための課題

国際学術交流委員会企画: Newest renal registry data of end stage renal disease of every country in Asia  
国際学術交流委員会企画: Problems in the selection and treatment of renal replacement therapy

＜よくわかるシリーズ＞

「血液浄化機の機能と選択」, 「血漿交換～アルブミン置換液の組成を中心に～」, 「AKI に対する血液浄化療法 up date」, 「日本における看護 DX (デジタルトランスフォーメーション)」, 「医療従事者のための AI 基礎知識～人工知能の仕組みから医療応用ま

で～], 「カフ型カテーテル」, 「無敵の中心静脈カテーテル挿入手技」, 「ガイドライン, エビデンスからPD 関連感染症症例を考える」, 「小児の腹膜透析」, 「新人スタッフの個性を活かす教育」, 「腹膜透析処方考え方」, 「腹膜透析排液異常の鑑別と対応」, 「やってみよう! 経皮的腹膜透析カテーテル挿入術」, 「腹膜透析患者の合併症」, 「透析患者の心房細動に対する抗凝固療法をどうするか」, 「今求められる透析患者の栄養管理・栄養指導」, 「CKD-MBD (慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常) (リン低下薬)」, 「腎移植レシピエントの感染症」, 「腎移植のこと～しっかりサポートするために～」, 「貧血治療～目標 Hb に達しない時の考え方～」, 「慢性透析患者における低栄養の評価と栄養介入の重要性」, 「透析患者の至適血圧」, 「生体腎ドナーを生涯にわたり守るために」, 「透析患者の皮膚病変とスキンケア」, 「腎臓リハビリテーションの現状と今後」, 「診察所見と症状からどう読み取る?」, 「透析室における感染対策」, 「Up-to-date apheresis」, 「シャントエコーの基本」, 「ピリブメントカンファレンスの実際と意義」, 「医療連携を進めるために看護師ができること」, 「高齢腎不全患者の生き方に寄り添う看護」

#### <企業共催シンポジウム>

「日本におけるPD の到達点へのプロセス～安定したPD の継続を再考する～」, 「透析患者のCa 管理を再考する」, 「カルシウム, リン, PTH 管理の最前線 ～心血管・骨折リスク低減をめざした個別化医療～」, 「CKD・透析患者の腸内環境への治療介入 (腸腎連関・心腎連関を考慮して)」, 「日本人の特性を考慮した透析患者の高リン血症治療戦略」, 「現代の治療に応じた透析アミロイドーシス治療～患者QOL 向上を目指した集学的治療～」, 「みんなで考えるストレスフリー穿刺～患者のための医療の提供を目指して～」, 「日本人のエビデンスから見る腎性貧血治療」, 「医療者・患者・患者家族にとって、より良い治療法の実践～メリットを適切に提供・享受するために～」, 「DOPPS シンポジウム」

#### <ハンズオンセミナー>

「血管吻合ハンズオンセミナー」, 「エコーガイド下穿刺ハンズオンセミナー」

#### <その他>

医療安全講習会 教育講演 18

「透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」に関する留意点」

医療倫理講習会 教育講演 19

「レジリエンス・エンジニアリング理論に基づく安

全マネジメントの実践」

感染対策講習会 教育講演 20「透析排水の適正管理」  
2025年7月1日(火) 正午～7月31日(木) 23:59  
まで(会期後オンデマンド配信)

日本透析医学会認定 透析液水質確保に関する研修  
※全てオンデマンド配信となります。詳しくは総会ホームページをご確認ください。

#### 2) 通常総会

(1) 第70回通常総会開催: 2025年6月27日(木)  
16:00～17:00

(2) 学会賞・奨励賞授与式および講演会開催: 2025年6月28日(土)

#### 3) 役員会

(1) 常任理事会・理事会開催: 2025年6月13日・6月26日・12月12日・2026年3月26日

(2) 監事による監査会開催: 2025年5月13日(火)

#### 4) 透析施設会員名簿の発行

施設会員名簿は例年どおり発行されるが、個人情報保護の観点から、電話番号や責任者氏名などの公表を希望しない施設については、引き続きその情報を掲載しない方針である。

また、会員専用ホームページに検索マップを開設し、施設・賛助会員の検索ができるようにしたが、さらなる充実を図るとともに個人情報保護の観点から、施設の公表を希望しない場合には情報を掲載しない方針である。

#### 5) 小委員会

(1) 情報管理小委員会(脇野 修委員長)

学会ホームページの円滑な運営, 内容充実を図る。

① 学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行う。

② コンテンツを見直し, 逐次更新する。

(2) 透析医療専門職資格検討委員会(酒井 謙委員長)

① 慢性腎臓病療養指導看護師(平成29年9月から施行)に関する助言と問題点への対策を行う。

② 腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師認定制度に対する助言を行う。

③ 管理栄養士育成事業として, 日本栄養士会が実施する管理栄養士専門分野別人材育成(CKD分野)における助言を行う。

④ 腎代替療法専門指導士の応募専門資格・資格更新については, 日本腎代替療法医療専門職推進協会と引き続き協議を継続する。日本腎代替療法医療専門職推進協会に新規に参入希望の指導士資格に関しては, 協議を推進する。

- (3) 統計調査のあり方小委員会（友 雅司委員長）
- ① あらたな諸法の整備に適應して、統計調査実施の倫理基盤の確認を行う。
  - ② 統計調査結果の解析、論文化の計画の明確化、会員施設へのインセンティブを検討する。
  - ③ 統計調査委員会と意見交換を行い、統計調査のIT化の方向性を模索する。
  - ④ 統計調査データのWEB収集及びEDC(electric data capture)システムに関わる調査等を実施し、具体的な仕様をEDC推進検討ワーキンググループと合同で検討する。
- (4) 発展途上国の透析スタッフ育成プログラム小委員会（山下明泰委員長）
- ① 委員会は年に2回、オンラインで実施する。
  - ② 昨期に続き、第70回日本透析医学会学術集会・総会（令和7年6月、大阪市）に合わせて、日本での研修を実施する。ベトナム透析学会推薦の4名、カンボジアからの1名を対象と、日本透析医学会に3日間参加したのうち、畿内の5施設で研修を予定している。
- (5) 本学会のあり方小委員会（武本佳昭委員長）
- ① 公益社団法人への移行について継続した審議・検討を行う。
  - ② 一般の人にも分かりやすい本学会の立ち位置・特徴などについて検討し公開していく。特に現在重要な案件である透析専門医に関して日本専門医機構、日本内科学会との意見交換を行いながら、認定に向けて検討を進める。
- (6) eラーニング検討小委員会（菅野義彦委員長）
- ① 2025年6月開催の第70回日本透析医学会学術集会・総会における生涯教育プログラムの教育講演から座長・演者の同意を得て、スクリーンアウト方式の動画を収録しコンテンツとする。コンテンツには「医療安全」、「災害」、「倫理」、「感染」を含むように配慮する。
  - ② 各演者には試験問題の作成を依頼し、eテストにより専門医更新の単位認定に利用する。専門医の単位認定は、連続した60分の講演1回または30分の講演2コマを連続して視聴し試験に正答することで1単位を認定、年間5単位、5年間で25単位を上限とする。ただし学術集会に参加してすでに生涯教育プログラムの5単位を取得した者は同年度のeラーニングでの単位は認定しない。
  - ③ 単位認定を希望する者は認定料3,000円を支払う。運用については専門医制度委員会と適

宜意見交換を図る。なお、専門医以外の正会員（専攻医を目指す医師を含む）及び施設会員に所属する医療従事者もスキルアップのための視聴を可能とする。配信の開始時期などは本学会ホームページ及び会誌の会告で会員に通知する。

- (7) 書籍発行運営委員会（小川智也委員長）
- 日本透析医学会ブックシリーズとして、今後も本学会が発行する書籍等出版事案について検討する。
- 以下に示すガイドライン、診療ガイドラインの改訂等作業が関連のワーキンググループの中で進行中である。これらの事業は学術委員会とも連携しながら進めていく必要がある。
- ① 透析患者の糖尿病治療ガイド2025
  - ② 慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン
  - ③ 慢性腎臓病に伴う貧血治療のガイドライン
  - ④ バスキュラーアクセスガイドライン追補
  - ⑤ 末期腎不全患者の緩和ケアに関する提言
  - ⑥ 透析患者の血圧管理に関する診療指針
- (8) 台湾、韓国、本学会3学会シンポジウム推進小委員会（土谷 健委員長）
- 台湾、韓国、本学会3学会シンポジウム推進小委員会は、2025年度では日本透析医学会、台湾腎臓医学会、韓国腎臓学会の覚書に則して、3学会の年次学術大会を下記の通り開催する予定。
- ① 第70回日本透析医学会学術集会・総会（6月27日から29日にて開催予定、具体的日時未定、日本大阪）
- テーマ：「Dialysis treatment in an aging society」
- (1) 座長：
    1. 日本透析医学会：現在小委員会より友雅司理事長、武本前理事長に打診中
    2. 台湾腎臓医学会：現在台湾腎臓医学会で検討中（台湾腎臓医学会が派遣）
    3. 韓国腎臓学会：現在韓国腎臓学会で検討中（韓国腎臓学会が派遣）
  - (2) 演者・演題：
    1. 日本透析医学会：現在小委員会より友雅司理事長、武本前理事長に打診中
    2. 台湾腎臓医学会：現在台湾腎臓医学会で検討中（台湾腎臓医学会が派遣）
    3. 韓国腎臓学会：現在韓国腎臓学会で検討中（韓国腎臓学会が派遣）
- ② 韓国腎臓学会（2025年6月20日10：40～

12:40 開催, 韓国ソウル)

テーマ:「Shared Decision-Making for ESKD Patients」

(1) 座長:

1. 日本透析医学会: 友 雅司 (大分大学)
2. 台湾腎臓医学会: 台湾腎臓医学会が派遣
3. 韓国腎臓学会: 韓国腎臓学会が派遣

(2) 演者:

1. 日本透析医学会: 小松康宏 (板橋中央総合病院)  
演題名: Shared Decision-Making for Dialysis: Japan
2. 台湾腎臓医学会: 台湾腎臓医学会が派遣  
演題名: Shared Decision-Making for Dialysis: Taiwan
3. 韓国腎臓学会: 韓国腎臓学会が派遣  
演題名: Shared Decision-Making for Dialysis: Korea

③ APCN2025 と台湾腎臓医学会共同開催 (2025年12月5日~7日開催, 具体的日時未定, 台湾台北)

テーマ: 未定

(1) 座長:

1. 日本透析医学会: 未定 (日本透析医学会が派遣)
2. 台湾腎臓医学会: 未定 (台湾腎臓医学会理事会が派遣)
3. 韓国腎臓学会: 未定 (韓国腎臓学会理事会が派遣)

(2) 演者:

1. 日本透析医学会: 未定 (日本透析医学会が派遣)
2. 台湾腎臓医学会: 未定 (台湾腎臓医学会が派遣)
3. 韓国腎臓学会: 未定 (韓国腎臓学会が派遣)

(9) VA 血管内治療認定医制度委員会 (深澤瑞也委員長)

① 昨年度の VA 血管内治療認定医制度委員会の認定作業時に生じた, さまざまな事務手続き上の問題点および疑義解釈を中心に, 本年度の申請に関する改善点をまとめる. 本年度の申請に対する条件を会員に可及的速やかに公表し, 本年度の申請に向けての準備を行っていただくこととする.

② 申請作業は, 既存の構築した申請システムを用いて昨年同様の秋からの申請, その後, 抽

出症例の提示を経て内容の審査を委員に依頼し判定を行う. 専門医制度委員会審査において, 個人情報保護法の遵守による審査強化を受け, 当審査においても個人情報の取り扱いに関しては厳しく望むこととする. また生じた疑義に関しては, 本年度の判定基準に基づき委員長が再審査し, 最終的な疑義は委員全員の合議により判定を行う. 結果は理事会に報告し最終決定とし, 本人に対して血管発表並びに認定証の交付を行うこととする. また本年度の申請においても, 生じた問題点, 疑義解釈に対しては, 昨年度同様に委員会内で統一見解を作製し翌年度以降の委員会への申し送りを行う.

## 2. 財務委員会

平成20年12月に新公益法人制度が施行され, これに伴い本学会も平成24年9月3日付けをもって, 一般社団法人に移行した. 一般社団法人への移行とともに本学会の財務管理を平成20年度改正の新・新公益法人会計基準に則り, 新・新基準による経理を実施し, 貸借対照表および正味財産増減計算書等を軸とした本学会活動の正確な各事業別損益の把握をして, より適切な財務管理を目指す.

以上を踏まえて, 税務を含めた適正な会計処理を継続的に遂行し, 学会として各常置委員会, 小委員会の諸事業を積極的に推進し, 多大な成果が得られるよう財務を通じて協力助成するとともに財務業務の全般的な見直しを継続して検討する.

## 3. 編集委員会

1) 公式和文誌「日本透析医学会雑誌」について

- (1) 日本透析医学会雑誌を毎月1冊, 年間12冊をオンラインで発行する.
- (2) Year in Review 2024 の原稿を受け, 2025 年和文誌 58 巻のしかるべき号に掲載する.
- (3) 統計調査委員会年末調査報告「わが国の慢性透析療法の現況」を 2025 年和文誌 58 巻 12 号に掲載する.
- (4) 学術集会・総会特別号 (抄録集) を Supplement としてオンラインで発行する. 冊子体の発行および郵送は廃止とする.
- (5) 年間1回を目安として特集号を企画する. また, Invited Review という形でその領域の専門家に依

頼し、掲載していく。

(6) 2025年度からの完全オンライン化を継続する  
(2024年末で冊子体の発行を廃止した)。

2) 公式欧文誌 Renal Replacement Therapy (RRT)  
について

(1) 引き続き Web Journal として Open Journal の  
形式で、CC-BY の著作権で引き続き発行する。

(2) 2023年6月に Journal Citation Reports (JCR)  
の Impact Factor を取得した。PubMed Central  
での Index 化の再申請を 2023 年中に行ったが、不  
採択の審査結果であった。2025年に再申請を行う。

(3) RRT 誌は下記の9学会の公式英文誌となってい  
る。これらの各学会のガイドラインや報告レポー  
トなどを Position Paper として順次出版する。

・Japanese Society for Dialysis Therapy (JSDT)

・Japanese Society for Clinical Renal Transplan  
tation (JSCRT)

・Japanese Society for Peritoneal Dialysis (JSPD)

・Japan Society for Blood Purification in Critical  
Care (JSBPCC)

・Japanese Society of Renal Rehabilitation  
(JSRR)

・Japanese Society of Nephrology and Pharmaco  
therapy (JSNP)

・Japanese Society for Pediatric Renal Failure  
(JSPRF)

・Japan Academy of Nephrology Nursing (JANN)

・Japanese Society for Technology of Blood puri  
fication (JSTB)

(4) すでに採用済の海外からの Editorial Member  
を Advisory Board Member として引き続き編集  
業務の関与を依頼する。

(5) Impact Factor 取得後、投稿論文数が増加した。  
そのため Editorial Member の増員が必要な状況  
であり、採用各学会に人材の推薦を依頼するとと  
もに、独自にも Editorial Member (Associate Edi  
tor および Editorial Board) を採用していく。

(6) 第70回日本透析医学会学術集会・総会におい  
て、台湾腎臓学会・韓国腎臓学会・日本透析医学  
会の3学会合同シンポジウムが、開催される予定  
である。その各国の講演内容を論文投稿していた  
だくよう交渉する。

(7) 200編の投稿を目標とし、本邦以外の国と地域  
からの投稿促進努力を行う。

(8) 年間掲載論文の研究内容および英文の質の向上  
を追求する。その結果として、アクセプト率の低

下も許容する。

## 4. 学術委員会

1) 学会賞・奨励賞の選出

選考規定に則って学会賞・奨励賞の選考を行い、  
理事会の承認を得る。

2) 学術委員会活動 (ガイドライン、提言等の作成、  
広報活動) 等に関する協議

学術委員会の会合を定期的開催し、学術委員会  
関連小委員会と共同して、実施すべき学術活動に關  
して協議・遂行する。

3) 栄養問題検討ワーキンググループ (神田英一郎  
グループ長)

課題① 慢性透析患者の栄養素摂取量の評価およ  
び予後の調査 (SUDACHI STUDY)

大塚製薬工場との多機関共同臨床研究 (SUDA  
CHI STUDY) を継続する。また、これまで得られ  
たデータの解析結果を第70回日本透析医学会学術  
集会・総会で発表する予定である。

課題② 第71回日本透析医学会学術集会・総会  
でのワーキンググループ企画を検討する。

SUDACHI STUDY の進捗、透析患者の栄養摂取  
基準に関する文献的調査結果を、第71回日本透析医  
学会学術集会・総会で発表するため、ワーキング  
グループ企画を検討する。

4) 慢性腎臓病に伴う貧血治療のガイドライン改訂  
ワーキンググループ (倉賀野隆裕グループ長)

慢性腎臓病に伴う貧血治療のガイドライン改訂  
ワーキンググループとして改訂作業を進め、原案を  
評価委員会に提出、修正を加えた上で、原案をまと  
め、公聴会とパブリックコメントを経て、本年中に  
ホームページ及び透析会誌に発表する予定である。

5) 慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療  
ガイドライン改訂ワーキンググループ (脇野 修  
グループ長)

改訂ガイドラインの理事会承認を得たのち、学会  
誌および学会ホームページに速やかに発表する。

英語版の作成を引き続き行い、本邦のガイド  
ラインとして英文誌に掲載する。

第70回日本透析医学会学術総会・集会においてこ  
れを学会員に広く公表する。

6) 血液透析患者の糖尿病治療ガイド改訂ワーキン  
ググループ (阿部雅紀グループ長)

2025年の第70回日本透析医学会学術集会・総会  
にて「透析患者の糖尿病治療ガイド2025」を書籍と

して発行する。発行をもってワーキンググループは解散となる。

7) バスキュラーアクセスガイドライン追補に関するワーキンググループ（深澤瑞也グループ長）

シャント系、カフ型カテーテルの各班の意見集約、並びに素案の作成を行い、残りの班の素案をお互いに修正を行う。また現ガイドラインには大きく修正は行わないものの、現状にそぐわない点の修正・追記をまとめる。その後理事会承認、パブリックコメントへ回す。

8) ウロキナーゼ供給困難下におけるVA血栓性閉塞に対する代替医薬品の検討に関するワーキンググループ（深澤瑞也グループ長）

昨年度内に調査結果の日本透析医学会誌への投稿を終了し、ウロキナーゼの供給再開あるいは他剤の使用が可能となる状況などの進展時に再度検討を行う。大きな進展がない場合には、解散の検討も行う。今後の代替薬等の国との折衝等は、保険委員会へ一本化し引き継ぎ交渉を進めてもらう方針。

9) 末期腎不全患者の緩和ケアに関する提言作成委員会（酒井 謙委員長）

作成委員会は、第69回日本透析医学会学術集会・総会において、第1回のOfficialな会議を経て、構成メンバーの拡充に努め、現在まで第9回までの議事が進行した。

主目的はCKM決定後の緩和ケアにおける具体的な医療とケアの実際を作り上げることにある。現行30名の各代表（学会、協会、患者団体、弁護士等）で、各月1回の会議を経て、さらに理事会承認を経て、提言作成に向かい会議を継続する。

2024年度 文献調査 役割分担 COI 提言タイトルの妥当性を検討をした。

2025年度 提言各章文章作成して、第70回日本透析医学会学術集会・総会で学会報告第1回を行う。

2026年度 提言和文完成 第71回日本透析医学会学術集会・総会で学会報告第2回を経て、公聴会パブリックコメントを得て、和文投稿。

2027年度 英文投稿へ

10) 透析患者の血圧管理に関する診療指針策定委員会（平和伸仁委員長）

- ・2025年末の統計調査委員会調査に向けた準備；対応可能な項目の申請等の検討と依頼
- ・血圧管理に関する臨床課題（CQ）の募集
- ・CQの決定とシステマティックレビュー（SR）体制の確立
- ・家庭血圧におけるコホート研究、計画立案、倫理

委員会対応、参加施設募集

- ・過去の調査資料を用いた血圧管理に関する研究計画、検討

11) Green Dialysisに関する検討委員会（脇野 修委員長）

2025年3月14日に承認された委員を中心に薬物療法班（班長：脇野 修委員）と医療機器班（班長：友 雅司委員）に分かれて活動を行う。年2回の合同委員会をもとに最終的には学会としての提言をまとめていく。

12) 小委員会活動

(1) 学術専門部小委員会（小岩文彦委員長）

1. Dialysis Therapy, 2024 year in reviewを第70回日本透析医学会学術集会・総会において委員会企画として開催を計画している。
2. Dialysis Therapy, 2024 year in reviewの各演者の先生に発表内容を日本透析医学会誌へ投稿依頼する。
3. 統計調査データを用いた公募研究の事前審査について

統計調査データを用いた公募研究の運用が理事会で承認され、2025年より統計調査データを用いた公募研究の募集が再開される。学術専門部小委員会は統計調査解析小委員会と合同で事前審査を実施し、主に学術的な意義について審査を担当する予定である。

(2) 血液浄化に関連する新技術検討小委員会（山下明泰委員長）

1. 昨年に引き続き、第70回日本透析医学会学術集会・総会（令和7年6月）においても委員会で議論した成果を、委員会企画「新技術で貢献するいのち輝く次世代人工腎臓治療への挑戦」で公表する。
2. 同じ方向性を持つ他学会（日本人工臓器学会、日本次世代人工腎臓研究会など）において、研究成果の積極的な公表に努める。
3. 学会からの活動資金の有効かつ公平な利用法についても検討する。
4. 委員会はオンラインで2回開催する。

(3) 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会（友 雅司委員長）

- ① 日本透析医学会、日本透析医会、JACE（日本臨床工学技士会）との3団体共同「透析排液管理ワーキンググループ（峰島三千男委員長）」：透析排水の適正管理についてさらなる検討を行い、その成果に関する啓発活動を行う。
- ② ISO・IEC対策ワーキンググループ（川西秀

樹グループ長)：日本の見解を反映させるべく ISO・IEC 会議に委員を派遣し討議を行う。

- ③ ダイアライザの機能分類等について、第 70 回日本透析医学会学術集会・総会において、委員会企画を開催する。

- (4) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会(阿部雅紀委員長)

- ① 体験参加型セッションの開催

2025 年度の日本腹膜透析医学会にて、医師・コメディカルスタッフの教育に関する体験参加型セッションの開催を計画している。

- ② 学会ガイドライン・指針・委員会報告の内容を基にしたわかりやすいセミナーの開催を計画している。

2025 年度は第 70 回日本透析医学会学術集会・総会にて、学会・委員会企画 10 (学術委員会 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会) としてセッションタイトル「医師の働き方改革やタスクシェアリングの発展のための課題」でセミナーを計画している。

- (5) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会(脇野 修委員長)

例年通りの方法で、令和 8 年度のコメディカルスタッフ研究助成基金の申請の受付を行い、適切な応募研究課題の中から選考する。

- (6) 透析医学用語集作成小委員会(脇野 修委員長)

ICD-10 から ICD-11 への変更への対応を行う。この変更に合わせて、関連学会を含め、用語変更について会議を行う。

## 5. 統計調査委員会

- 1) 2024 年 12 月 31 日現在のわが国の慢性透析療法の現況の調査・報告

- (1) 2024 年調査結果を 2025 年学会誌 58 巻 12 号に、英文報告書を RRT 誌に掲載する。
- (2) 本学会和文、英文のホームページに調査結果を掲載する。
- (3) 2024 年調査結果を統計調査データベース、WADDA システム、学術研究用データ切出しシステムに取り込む。
- (4) 調査協力いただいた非会員施設には、「わが国の慢性透析療法の現況 2024 年 12 月 31 日現在 CD-ROM 版」を作成し、配布する。

- 2) 2025 年 12 月 31 日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査の実施

- (1) 2025 年末調査の新規調査項目を選定する。

- (2) 2025 年末の調査計画について倫理審査を依頼し、承認後 UMIN に公開する。

- (3) 全国の透析施設に対して 2025 年末わが国の慢性透析療法の現況調査を実施する。

- 3) 学術研究用データ切出しシステムの改善

- (1) 学術研究用データ切出しシステムに、より詳細なデータ抽出条件機能を追加する。

- 4) 統計調査データを活用した研究活動の推進・論文化

- (1) わが国の透析医療のノウハウを世界に発信するために、現在までに蓄積されたデータを解析し積極的に論文化を行い、日本人のエビデンスの構築を行い、将来のガイドライン作成等に備える。

- (2) 公募研究を再開し、特に若手研究者の統計調査データを用いた研究への参画を進める。

- 5) レジストリ国際協調への課題の明確化(継続事業)

- (1) ISN 主導の途上国におけるレジストリ立ち上げプロジェクトである SharE-RR へ参加する。

- (2) 国際レジストリ協調に求められる要件の明確化、JRDR の将来の改修方針の明確化

- 6) 第 70 回日本透析医学会学術集会・総会における以下のセッションの開催

- (1) 統計調査委員会企画：1. WADDA システムをどう使うか、2. JSDT 統計調査データを用いた臨床研究

- 7) 国内・国際協力の推進

- (1) 日本透析医会をはじめとした他学術団体、さらには United State Renal Data System, Australia New Zealand Data System, European Real Association/European Dialysis Transplantation Association 等の海外レジストリと連携し、データ供与や解析を行う。

- 8) 英語版ホームページの充実(継続事業)

- (1) 透析医学会の統計調査の海外への発進力を高めるために、統計調査のホームページを充実させる。
- (2) 英語版ホームページには英語版現況報告の PDF, 英語版図説 PPT, 統計調査の歴史やシステム、これまでに発表された論文一覧などを提示する。

- 9) 会員インセンティブの充実

- (1) 統計調査への理解を深め、会員のニーズを知るため、地域協力員メーリングリストで引き続き積極的な情報提供に努める。
- (2) 帳票出力システムの利用を推進する。

- (2) 帳票出力システムの利用を推進する。

- 10) Web によるデータ収集について EDC での入力システムを構築

- (1) 2024 年より、現在まで行っていた USB メモリ

でデータ収集に加え、ダウンロードファイルをアップロードすることを可能とした。引き続きEDC入力のシステムを進める（EDC推進検討ワーキンググループ）。

#### 解析小委員会

- 1) 各小委員は既存データベースを用いて、慢性透析医療の将来に必要とされるさまざまなテーマについて解析を行い学会報告、論文化を行う。
- 2) 新たな研究テーマの提案に対して採否の意見をまとめ、委員会に審議を依頼する。
- 3) 既存研究テーマの進捗状況を小委員会で定期的に報告し、相互にブラッシュアップする。
- 4) データベースのデータクリーニングの統一的な規則を策定する。
- 5) 公募研究のサポート、進捗の確認を行う。
- 6) JRDRのデータを用いた研究を論文化する際に、研究計画と齟齬がないか確認を行う。

## 6. 専門医制度委員会

透析専門医は、大学病院や基幹病院へ集中する傾向が強い他領域の専門医とは異なり、全国の透析施設すべてに1名以上の勤務配置することを目標とする。基本知識・診療技術は勿論、手術・処置技術・倫理・医療安全・感染対策・災害対策などに対する総合的能力を身に付けることを第1義とする。内科・泌尿器科の垣根を越えた総合診療により、患者ともに長期間診療を行う専門医制度がむしろ必要である。基本領域とサブスペ領域の専門研修カリキュラムとの調和は、腎臓機能を失ったうえでの特殊な診療技能にて、補完研修ではなく独立した通常研修に該当すると考える。

- 1) 透析専門医として日本専門医機構から認定を受けることとは別に、現行および施行時期理事会一任の専門医制度規則・規則施行細則については、必要に応じて見直しを審議する。
- 2) 生涯教育の一環として、全国を細則第2条の10地区に分け、年1回各地区の各地方学術集会にて生涯教育プログラムとして実施している講演会に対して、専門医認定小委員会地区委員および施設認定小委員会地区委員が1つの地方学術集会を推薦し、専門医等認定事業経費から助成金を支給する。
- 3) 透析専門医は、日本内科学会と日本泌尿器科学会との透析領域別協議会（小委員会）で、基本領域専門医を透析医療と関連が深い横断的6領域（総合内科専門医、泌尿器科専門医、外科専門医、小児科専門医、救急専門医、総合診療専門医）のサブスペ

ルティ領域として、専門研修カリキュラムを改訂する。カリキュラム必要条件は100症例（必須60症例）、専攻医の主体的な研修の場が必要（診療部門）、かつ統一した試験問題が必要（機構要求）である。

- 2024年第1回機構認定サブスペシャルティ領域懇談会を日本内科学会（+日本腎臓学会）とともに行ったが、2025年もサブスペシャルティ領域懇談会を行う予定である。現在、日本透析医学会では機構の変化に留意しつつ、機構からは距離を置いた姿勢に転じている。
- 4) 産前・産後の研修期間の短縮について今後の検討課題とする。
  - 5) 個人情報保護法抵触について、審査の対象となる旨、規則施行細則第23条に追記することとし、3月の理事会で審議し、公表する予定。
  - 6) カリキュラム小委員会（平和伸仁委員長）では、2025年に専門研修トレーニング問題解説集および専門研修指導マニュアルの改訂発行年であり、研修カリキュラム・プログラムも変更する。
  - 7) 専門医制度の今後について  
委員会報告を行う予定（日本透析医学会および日本透析医学会誌）。
  - 8) 各小委員会で整備した内容について検討する。

#### (1) 研修プログラム小委員会

- ① 基本領域専門医制度と連携した専門研修カリキュラム第4版の作成を検討する。

#### (2) カリキュラム小委員会

- ① 透析専門医としての「質」を継続維持していくために、「セルフトレーニング問題」を導入しており、カリキュラム小委員会編集会議でブラッシュアップを行い、その問題を学会誌に掲載し、専門医・指導医認定小委員会の厳密な審査で所定の正答率をクリアした専門医には一定の研修単位（5単位）を認定している。本年度は専門研修トレーニング問題解説集の改訂第6版、専門研修指導マニュアルの改訂第6版の出版を目指す。このための目次（大中小項目）の改正に着手した。
- ② 学術集会・総会の教育講演オンデマンド視聴による単位認定のためのeラーニング問題についてのブラッシュアップを行う。

#### (3) 専門医認定小委員会

- ① 専門医と指導医の新規認定と更新を行う。
- ② 専門医認定制度に係る諸問題（適正な専門医数、専門医の地域偏在）をワーキンググループで検討を継続する。

- ③ 地域偏在・施設偏在の解消のために、専門医数と施設数が少ない地域の基幹病院に調査を行い、立案した具体策について、偏在を解消する方策を個別に検討する。

(4) 専門医試験小委員会

- ① 2025 年度専門医試験を適切な感染対策のもと実施する。
- ② 専門医認定審査は、今までと同様に書類審査、倫理・安全対策・感染対策・災害対策に関する問題を含む客観式筆記試験（問題形式は A タイプ、X2 タイプ）と口答試問試験の 3 者の総合的な判断で行い、医師国家試験に準拠した試験問題作成基準を用意し、合否を決定する予定である。
- ③ 専門医試験プール問題約 800 題の中で、優良でない試験問題（優良の定義：正答率 50～70%かつ識別指数 0.2～0.4 以上）をブラッシュアップする。また、新規に問題を作成し、写真や図表問題も多くする予定である。

(5) 施設認定小委員会

- ① 認定施設と教育関連施設の新規認定と更新を行う。
- ② 今後の透析専門医認定に備えて、専門研修基幹施設と専門研修連携施設の施設群の形成をさらに進める。

## 7. 国際学術交流委員会

1. 第 70 回日本透析医学会学術集会・総会において下記の企画を行う予定である。
- I. シンポジウム 以下の 2 つのシンポジウムを実施予定で公募を行っている。
- シンポジウム (1) : Newest renal registry data of end stage renal disease of every country in Asia.
- シンポジウム (2) : Problems in the selection and treatment of renal replacement therapy.
- II. 一般公演 (Free Communications)
- 例年通り、公募を行った。
- III. Farewell Reception
- 海外からの参加者、演者、国際交流委員、日本透析医学会評議員などの学術交流の場として、大会期間に Farewell party を開催予定である。
- IV. Travel Grant 等
- シンポジストの招聘および Farewell Reception 開催などの予算の関係上 lower-middle income

countries or low-income countries 10 万円, upper-middle-income countries or high-income countries は 5～7 万円となった。年齢制限等の条件については例年通りとなった。

2. 国際交流派遣事業

海外関連学会への交流委員派遣は予定していない。

3. その他

国内外で開催される、関連国際学会へ各委員が独自に参加する予定である。

## 8. 評議員選出委員会

一般社団法人日本透析医学会 第 8 回評議員選挙

日本透析医学会定款第 20 条, 21 条, 22 条及び日本透析医学会定款施行細則第 14 条, 15 条, 16 条並びに日本透析医学会評議員選出規則に則り第 8 回評議員の選出を行う。

- 1) 評議員選出規則第 3 条に基づき、選挙は全国統一地区と 7 の地方区に分けて行う。
- 2) 同規則第 6 条に基づき、定数 220 名の評議員を選出しその内 80 名は全国区, 140 名は地方区とする。
- 3) 同規則第 7 条に基づき、10 月下旬に電子公告により公示を行う。
- 4) 同規則第 9 条第 1 項に基づき、10 月下旬に電子公告により公示を行う。
- 5) 立候補者しようとする者に、会員専用ホームページにおいて、選挙結果情報（有権者数、投票者数、投票総数、有効投票数、白票、無効枚数及び得票率）並びに立候補者の得票及び得票率を開示することを前もって周知する。
- 6) 同条第 2 項に基づき、11 月 20 日までに有権者名簿について、異議の申し立てを受ける。
- 7) 同規則第 11 条第 1 項に基づき、11 月 20 日までに立候補の届け出を受ける。
- 8) 同条第 4 項に基づき、12 月 1 日までに立候補の辞退を受ける。
- 9) 同規則第 12 条に基づき、候補者の氏名を 12 月下旬に電子公告により公示を行う。
- 10) 同規則第 13 条に基づき、令和 8 年 2 月 15 日に投票を締め切る。
- 11) 同規則第 16 条に基づき、投票終了後ただちに開票立会人のもとに、開票を行う。
- 12) 同規則第 21 条に基づき、当選者が決定した場合、当選者に通知し、電子公告により公示を行う。また、会員専用ホームページにおいて、選挙結果情報（有権者数、投票者数、投票総数、有効投票数、白票、

無効枚数及び得票率)並びに立候補者の得票数及び得票率を開示する。

- 13) 同規則第 22 条に基づき、選挙結果発表日より 14 日以内に選挙効力に関し異議申し立てを受ける。

## 9. 保険委員会

- 1) 2026 年度改定に向けて会員からの要望を引き続きホームページで募集を行う。
- 2) 2026 年度申請事項の検討を行う。

### 外保連関連

- ・体外循環補助装置設置術(短期型)(カフ型)の G コードから K コードへの移設の再申請:申請にあたり会員 DPC 施設でのカフ型カテーテルの状況のアンケート調査を行うこととした。また今まで短期型も申請していたが、変更に伴う医療費の上昇を加味して今回はカフ型のみ申請とする。
- ・短期滞在手術等基本料が算定できる手術を拡大要望:当学会関連手術として認可されている項目は K616-4 のみ。VA に関わる手術(カフ型カテ留置, 内シャント造設, バイアバーン留置, AVG, 動静脈表在化, 結紮術, など)も加えるように要望する。
- ・日本血管外科学会から(シャント瘤切除 or 血栓摘除) + シャント再建術を拡大算定との情報あり:現在, 同手術は K612-1 イ 12,080 点でのみ請求可能。手術手技の複雑さから, 「K612-3 複雑なもの」として追加を日本血管外科学会と共同して外保連試案へ提案する。

### 内保連関連

- ・腹膜透析の自宅での介助を訪問介護で行えるよう申請:腹膜透析のさらなる拡大を目指して, 介助者の PD 交換を認めていただくことを要望したらよいのではないかとそのためにはしっかりと介助者に対してトレーニングを行うことが必要。このため, 当会あるいは腹膜透析学会共同で資格認定を設定するよう要請することが必要。厚生労働省との折衝を行う。
- ・在宅血液透析で使用する個人用透析液 A 液の小容量ソフトバッグ化と B 液のカートリッジ化の認可を要望:A 液・B 液ともに現状では液製剤であり保存場所が広く必要。また配送費が高く一部では自己負担となっていることが問題であり, コンパクト化が望ましい。B 液カートリッジ化は海外で使用されているので認可される可能性は高い。厚生労働省との折衝を行う。MT ジャパンとの緊密に相談要。
- ・J038 人工腎臓の点数が減点しないよう要望:日本

透析医会と協調し働きかけを行う。

- ・J038 (人工腎臓)-4 (その他の場合) に慢性維持透析濾過加算を適応するよう要望:日本透析医会とも協調して厚生労働省へ働きかけを行う。
- ・ウロキナーゼ欠品に関して, ウロキナーゼ供給の再開は絶望的であることから, カフ型カテーテル血栓性閉塞に対して代替医薬品(t-PA)の保険収載に向けて厚生労働省と相談を継続。またシャント系血栓性閉塞に対して, より効率的に除去できるデバイスの本邦への上市を目指して, メーカーとともに厚生労働省へ交渉する。
- ・施設外血液透析における非自己管理患者に対する要望もあることから, 新たな枠組みも含めて検討を行う。(現在の在宅血液透析の枠組みでは, 医会策定のマニュアルに合致しないことから拡大困難)現時点では上記検討中であるが, 今後更に追加での検討を行うこととする。

## 10. 倫理委員会

- 1) 日本透析医学会として対応すべき倫理に関する課題に対して, 適時委員会を開催し審議する。
- 2) 日本透析医学会として対応すべき研究倫理に関する課題に対して, 随時, 研究倫理に関する検討小委員会を開催し検討する。
- 3) 個人情報安全管理ならびにその適切な取扱をするため, 個人情報管理者である倫理委員長が個人情報の利用等の管理に適時対処する。

## 11. 腎不全総合対策委員会

1. 本委員会では腎代替療法へのスムーズな移行や, 透析・移植患者の QOL の改善などを目標に, 毎年のテーマを決めて検討を行ってきた。2025 年度は地域の問題を踏まえた腎不全対策をテーマとして, 地域の問題, 保存期 CKD 治療の影響, 栄養指導, 遠隔医療などを盛り込んだ企画として, 第 70 回日本透析医学会学術集会・総会の学会, 委員会企画で 5 人の演者に解説していただく予定である。  
タイトル「地域を踏まえた腎不全対策を考える」
  - 1) 地域事情を踏まえた腎不全対策を考える～高齢化と人口減少～ 岩手医科大学 阿部貴弥先生
  - 2) CKD 治療薬の腎不全医療への影響～期待と現実～ 久留米大学 深水 圭先生
  - 3) 透析患者のやる気を引き出すコーチング 齊藤内科クリニック 坂井敦子先生

- 4) エコー下ガイド下シヤント穿刺の有用性と活用方法 桃仁会病院 人見泰正先生
- 5) 腹膜透析管理における遠隔医療技術の可能性 長崎大学 西野友哉先生

## 2. 腎代替療法へのスムーズな移行に関する調査研究の論文化

透析導入前から透析導入期にかけてバスキュラーアクセス作製の実施時期や作製を担当した医師（診療科など）、導入期のアクセス使用状況、インターベンションの必要性、などの実態調査を実施した結果を論文化した。日本透析医学会雑誌に投稿予定である。

## 12. 危機管理委員会

### 1) 危機管理委員会

- (1) 透析医療における安全管理、災害と透析医療をテーマとした学術活動を行う。
- (2) 医療安全、災害対策に関して、日本透析医会、日本腎臓学会、日本腎不全看護学会、日本臨床工学技士会などの関連団体と緊密に連携する。

### 2) 災害対策小委員会（山川智之小委員長）

- (1) 第70回日本透析医学会学術集会・総会（2025年6月27日～29日、大阪国際会議場）において、災害に関する危機管理委員会企画を行う。テーマは「透析療法災害対策における広域・行政との連携」とし、以下の内容で行う。さらに、その内容を委員会報告としてまとめ、透析会誌に掲載する。

司会：鶴屋和彦、山川智之

演題・演者

- 1) 岩手県における広域・行政との連携～これまでとこれから～ 岩手県立胆沢病院泌尿器科 忠地一輝
- 2) 行政と透析施設の連携の課題～都道府県保健医療福祉調整本部の視点から～ 青森県立中央病院災害医療管理監、血液浄化療法部 小笠原賢
- 3) 静岡県における災害時透析リエゾン確立に向けた試み 浜松医科大学医学部附属病院血液浄化療法部 石垣さやか
- 4) 広域関東圏における透析医療従事者とDMATの連携における課題 関東労災病院腎臓内科 矢尾 淳
- 5) 奈良県における透析療法災害対策～行政との連携～ 奈良県立医科大学透析部 米田龍生
- 6) 福岡県における災害時透析医療に関する行政との連携、および広域災害時の他県連携に関する基

本方針 うえの病院血液透析内科 水政 透

- 7) Collaboration with Regional and Administrative Authorities in Disaster Management for Dialysis Therapy Ulsan University Hospital, University of Ulsan College of Medicine Kyung Don Yoo

(2) 第69回日本透析医学会学術集会・総会（2024年）の委員会企画の発表内容を日本透析医学会誌へ掲載する。

(3) 日本透析医学会の理事、危機管理委員会、統計調査委員会、地域協力員は引き続き日本透析医学会の災害対策メーリングリストに参加し、災害時の緊急情報の共有ならびに支援体制の構築にむけて関連団体と協力する。

(4) 韓国腎臓学会（KSN）災害対策委員会との交流：2025年6月に開催される韓国腎臓学会（KSN2025）に演者および座長として2名を派遣する。また、第70回日本透析医学会学術集会・総会の委員会企画でDr.Yooに発表いただき、また、学術集会期間中に会合を行い、災害対策について意見交換を行う。

### 3) 医療安全対策小委員会（満生浩司小委員長）

- (1) 第70回日本透析医学会学術集会・総会（2025年6月27日～29日、大阪国際会議場）において、医療安全に関する危機管理委員会企画を行う。テーマは「透析医療における医療安全のための提言」とし、以下の内容で行う。さらに、その内容を委員会報告としてまとめ、透析会誌に掲載する。

司会：鶴屋和彦、満生浩司

演題・演者

- 1) 提言の概要と策定方針 医療法人社団石川記念会 安藤亮一
- 2) 医療安全管理体制と医療安全の方策 大阪大学医学部附属病院血液浄化部 北村温美
- 3) 透析操作関連事故防止 神奈川工科大学健康医療科学部臨床工学科 山家敏彦
- 4) 抜針・回路離断事故防止に対する提言 中野南口クリニック透析 木全直樹
- 5) 穿刺・止血関連事故防止 九州中央病院腎臓内科 満生浩司
- 6) 転倒転落事故防止 桑園中央病院血液透析センター 小山貴也
- 7) 薬剤関連事故防止 医療法人仁真会白鷺病院薬剤科 古久保拓
- 8) 重大インシデント後の医療機関における組織的対応 東北大学病院腎臓・高血圧内科 宮崎

真理子

- (2) 医療事故調査報告制度に協力団体として、センター調査などを担当する。
- (3) 医療事故調査委員を各都道府県に配置し、必要に応じて委員の更新を行う。

### 13. 研究者の利益相反等検討委員会

- 1) 「日本透析医学会における医学研究の利益相反(COI)に関する指針」に基づき、会員の利益相反状態に関連した以下の事項について実施する。
  - (1) 会員が総会等で発表する利益相反状態に関する情報開示
  - (2) 会員が学会誌に投稿する際の利益相反状態に関する報告書の提出
  - (3) 本学会の役員(理事長, 理事, 監事), 総会会長, 委員会委員長, 特定の委員会並びにその作業部会委員の利益相反状態に関する自己申告書の提出
  - (4) その他, 会員に関連した利益相反状態や, 自己申告内容に関する管理を必要に応じて行う。
  - (5) 理事長の諮問により利益相反状態の問題の有無・程度の検討, 審査請求に関する判断マネジメントを行う。
  - (6) 日本医学会 COI 管理部会等の講演会, 会議に学会として出席し, 最新情報を得る。
- 2) 今後も「日本医学会 COI 管理ガイドライン」の一部改正などが行われた場合には, 委員会で検討し, 理事会の承認を経て, これを周知していく。

### 14. 男女共同参画推進委員会

- 1) 男女共同参画推進委員会  
日本臨床工学技士会, 日本腎臓病薬物療法学会, 日本腎不全看護学会, 日本病態栄養学会と共同し男女共同参画活動を進める。日本透析医学会ホームページの男女共同参画推進委員会の項の拡充を図る。多職種の男女共同参画に関する小委員会, 女性医師育成小委員会の活動内容を掲載する。透析分野における男女共同参画の現況, 展望についての論文を投稿する。
- 2) 小委員会
  - (1) 多職種の男女共同参画に関する小委員会  
日本臨床工学技士会, 日本腎臓病薬物療法学会, 日本腎不全看護学会, 日本病態栄養学会のそれぞれの働き方改革について各学会の経緯と現状を検討する。
  - (2) 女性医師育成小委員会

I. 学会・委員会企画「TSUBASA PROJECT・2024年度透析専門医勤務状況調査報告」について

第70回日本透析医学会学術集会・総会において, 学会・委員会企画7として, 「TSUBASA PROJECT」を開催する。

・第9回「TSUBASA PROJECT」に選出された研究結果を学会・委員会企画7「TSUBASA PROJECT」で発表してもらう。

・TSUBASA PROJECT賞6題の中から優秀演題賞3演題を選出する。審査員として学会長推薦枠2名を選出いただいた。

II. 第10回「TSUBASA PROJECT」について  
第10回「TSUBASA PROJECT」を公募した。

「TSUBASA PROJECT」は女性医師の研究活動を奨励, 援助し, それによって透析医療の向上, 女性の活躍を推進させることを目的とし, 優れた研究に対して研究助成を行うものである。

第10回「TSUBASA PROJECT」募集要項

当該年度の日本透析医学会学術集会・総会にTSUBASA PROJECT賞として応募された抄録から, 優れた演題6件を選出する。抄録は日本語, 800文字までとする。選出は女性医師育成小委員会委員により行い, 理事会の承認を得る。選出されなかった演題は当該年度の日本透析医学会学術集会・総会の一般演題に移行し, 改めて500文字の抄録を作成する。TSUBASA PROJECT賞6題の中から優秀演題賞3演題を選出する。

① 応募研究: 透析医療に関する基礎研究, 臨床研究, 未発表論文であること

抄録は日本語, 800文字まで, 背景, 目的, 結果, 考察を記載すること

② 応募資格: 日本透析医学会正会員の45歳以下の女性医師

過去に受賞歴のある場合は, 受賞回, 題目について記載すること

③ 応募演題: 6件

④ 選出報告: 当該年度の日本透析医学会学術集会・総会の委員会セッションで発表。研究助成として, 1件につき10万円を授与する。

⑤ 優秀演題賞: 選出した6件の発表内容から, さらに優秀な3演題を選出し, 特別研究助成10万円を授与する。優秀演題の選出は女性医師育成小委員会委員が行い, 理事会の承認を得る。

⑥ 論文化支援助成：TSUBASA PROJECT 賞で選出した6件が、2年以内に英文論文化した場合には、30万円までの論文化支援助成金を寄与する。なお、論文化に際してTSUBASA PROJECTの助成を受けたことに対する謝意を明記すること。

⑦ TSUBASA PROJECT 賞、優秀演題賞は学会ホームページに掲載される。

### Ⅲ. 「TSUBASA PROJECT」の公報

日本透析医学会のホームページにアップするとともにバナーにも掲載依頼し、第70回日本透析医学会学術集会・総会にブース設置とポスター掲載をする。

## 15. 感染対策委員会

### 1) 透析患者におけるインフルエンザおよび新型コロナウイルス感染症の現況に関する調査

2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」となり、同年5月24日をもって、新型コロナウイルス感染対策合同委員会による患者数の報告は終了した。また、日本透析医学会統計調査では、2000年末から2023年末まで新型コロナウイルス感染症についての調査を行ったが、2024年末からは施行していない。

2024年3月31日で新型コロナワクチンの全額公費による接種は終了した。そして、2024年10月1日から2025年3月31日まで実施された、新型コロナワクチンの定期接種の対象者は、一般は65歳以上、透析患者は60歳以上と対象が限定され、費用についても各自自治体において設定した自己負担額が必要となった。そして、60歳未満の透析患者は任意接種となり、費用も全額自己負担となった。

このような背景の変化から、透析患者における新型コロナワクチンの接種状況、感染率、重症化リスクや致死率を、全体や年代別で調査する必要性が高いと考えた。さらに2024年から2025年にかけて、インフルエンザの大規模な流行が発生したことから、インフルエンザについても同様の調査を行う必要が高いと考えた。

以上より、透析患者におけるインフルエンザおよび新型コロナウイルス感染症の現況に関するアンケート調査を行うこととした。このアンケート結果に基づき、患者や医療従事者に感染状況やワクチン接種の効果について啓発を行う。そして、厚生労働省など行政と、透析患者におけるワクチン接種についての交渉を行う資料として使用する。

### 2) 2025年の第70回日本透析医学会学術集会・総会における感染対策委員会企画

第70回日本透析医学会学術集会・総会では、以下に提示する2つの感染対策委員会企画を行う予定としている。

セッションタイトル：バスキュラーアクセス/ペリトネアルアクセスと感染予防

司会：

菊地 勘（下落合クリニック腎臓内科）

丹野有道（東京慈恵会医科大学葛飾医療センター腎臓高血圧内科）

演題・演者：

(1) バスキュラーアクセス感染の発症とその対策  
甲斐耕太郎（バスキュラーアクセスクリニック目白）

(2) 超音波ガイド下穿刺と感染予防

増田直仁（東京慈恵会医科大学葛飾医療センター腎臓高血圧内科）

(3) 透析用カテーテルに関連した感染対策

谷口弘美（東葛クリニック病院看護部）

(4) 腹膜透析カテーテルと腹膜透析感染予防

井上朋子（川島病院腎臓内科）

セッションタイトル：透析患者におけるワクチン接種と感染症の予防戦略

司会：

菊地 勘（下落合クリニック腎臓内科）

竜崎崇和（東京都済生会中央病院腎臓内科）

演題・演者：

(1) ワクチンと自然免疫

中山哲夫（北里大学大村智記念研究所ウイルス感染制御）

(2) インフルエンザワクチン

安藤亮一（医療法人社団石川記念会）

(3) 血液透析患者における新型コロナワクチン接種～JSDT2022年末統計調査より～

菅原有佳（東京大学腎臓・内分泌内科）

(4) 透析患者における肺炎球菌ワクチン接種～定期接種スケジュールの変更と新たに承認されたワクチンを踏まえて～

井原宏彰（江東病院呼吸器内科）

(5) 透析患者への帯状疱疹ワクチンおよびRSウイルスワクチンの必要性

吉藤 歩（慶應義塾大学医学部感染症学）

(6) 透析患者と医療従事者に対するHBワクチン接種

菊地 勘（下落合クリニック腎臓内科）

# 令和6年度決算報告書

自 令和6年4月1日  
至 令和7年3月31日

一般社団法人日本透析医学会

## 貸借対照表

令和7年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	835,600,288	782,350,996	53,249,292
未収金	17,805,556	5,722,632	12,082,924
前払金	22,287,180	17,222,822	5,064,358
流動資産合計	875,693,024	805,296,450	70,396,574
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	100,000,000	100,000,000	0
基本財産合計	100,000,000	100,000,000	0
(2) 特定資産			
学術集会積立資金	40,000,000	40,000,000	0
国際交流援助積立資金	30,000,000	30,000,000	0
災害援助事業積立資金	35,000,000	35,000,000	0
コメディカルスタッフ研究助成資金	80,000,000	90,000,000	△ 10,000,000
60周年記念資金	25,000,000	25,000,000	0
特定資産合計	210,000,000	220,000,000	△ 10,000,000
(3) その他固定資産			
什器備品	2,341,030	2,341,030	0
減価償却累計額	△ 2,236,107	△ 2,110,201	△ 125,906
電話加入権	224,952	224,952	0
ソフトウェア	12,305,610	16,352,326	△ 4,046,716
保証金	8,899,770	8,899,770	0
腎代替療法医療専門職推進協会基金	20,000,000	20,000,000	0
長期前払金	0	554,400	△ 554,400
その他固定資産合計	41,535,255	46,262,277	△ 4,727,022
固定資産合計	351,535,255	366,262,277	△ 14,727,022
資産合計	1,227,228,279	1,171,558,727	55,669,552
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	15,185,182	17,416,305	△ 2,231,123
前受金	89,210,010	88,249,710	960,300
預り金	710,740	908,803	△ 198,063
賞与引当金	4,849,270	5,289,954	△ 440,684
未払法人税等	12,458,900	14,077,700	△ 1,618,800
未払消費税等	2,983,700	675,500	2,308,200
流動負債合計	125,397,802	126,617,972	△ 1,220,170
2. 固定負債			
退職給付引当金	35,097,977	32,106,347	2,991,630
固定負債合計	35,097,977	32,106,347	2,991,630
負債合計	160,495,779	158,724,319	1,771,460
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	1,066,732,500	1,012,834,408	53,898,092
(うち特定資産への充当額)	(100,000,000)	(100,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(210,000,000)	(220,000,000)	(△ 10,000,000)
正味財産合計	1,066,732,500	1,012,834,408	53,898,092
負債及び正味財産合計	1,227,228,279	1,171,558,727	55,669,552

# 貸借対照表内訳表

令和7年3月31日現在

(単位：円)

科 目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	内部取引等消去	合 計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	195,477,532	10,911,854	629,210,902		835,600,288
未収金	15,971,425	0	1,834,131		17,805,556
前払金	22,287,180	0	0		22,287,180
流動資産合計	233,736,137	10,911,854	631,045,033		875,693,024
2. 固定資産					
(1) 基本財産					
定期預金	0	0	100,000,000		100,000,000
基本財産合計	0	0	100,000,000		100,000,000
(2) 特定資産					
学術集会積立資金	40,000,000	0	0		40,000,000
国際交流援助積立資金	30,000,000	0	0		30,000,000
災害援助事業積立資金	35,000,000	0	0		35,000,000
コメディカルスタッフ研究助成資金	0	80,000,000	0		80,000,000
60周年記念資金	25,000,000	0	0		25,000,000
特定資産合計	130,000,000	80,000,000	0		210,000,000
(3) その他固定資産					
什器備品	1,521,675	0	819,355		2,341,030
減価償却累計額	△ 1,453,475	0	△ 782,632		△ 2,236,107
電話加入権	224,952	0	0		224,952
ソフトウェア	10,456,350	0	1,849,260		12,305,610
保証金	8,899,770	0	0		8,899,770
腎代替療法医療専門職推進協会基金	0	0	20,000,000		20,000,000
その他固定資産合計	19,649,272	0	21,885,983		41,535,255
固定資産合計	149,649,272	80,000,000	121,885,983		351,535,255
資産合計	383,385,409	90,911,854	752,931,016		1,227,228,279
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払金	14,719,995	0	465,187		15,185,182
前受金	89,210,010	0	0		89,210,010
預り金	365,449	0	345,291		710,740
賞与引当金	2,943,630	0	1,905,640		4,849,270
未払法人税等	12,458,900	0	0		12,458,900
未払消費税等	2,983,700	0	0		2,983,700
流動負債合計	122,681,684	0	2,716,118		125,397,802
2. 固定負債					
退職給付引当金	26,245,153	0	8,852,824		35,097,977
固定負債合計	26,245,153	0	8,852,824		35,097,977
負債合計	148,926,837	0	11,568,942		160,495,779
III 正味財産の部					
1. 指定正味財産					
指定正味財産合計	0	0	0		0
2. 一般正味財産					
(うち基本財産への充当額)	234,458,572	90,911,854	741,362,074		1,066,732,500
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(100,000,000)		(100,000,000)
(うち特定資産への充当額)	(130,000,000)	(80,000,000)	(0)		(210,000,000)
正味財産合計	234,458,572	90,911,854	741,362,074		1,066,732,500
負債及び正味財産合計	383,385,409	90,911,854	752,931,016		1,227,228,279

# 正味財産増減計算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	2,275	1,706	569
基本財産受取利息	2,275	1,706	569
特定資産運用益	73,781	3,752	70,029
特定資産受取利息	73,781	3,752	70,029
受取会費	277,158,713	265,432,174	11,726,539
正会員受取会費	147,018,900	134,001,954	13,016,946
施設会員受取会費	124,739,813	125,430,220	△ 690,407
賛助会員受取会費	5,400,000	6,000,000	△ 600,000
事業収益	556,589,995	457,328,491	99,261,504
論文掲載料収益	3,531,000	3,564,000	△ 33,000
広告掲載料収益	8,682,795	12,536,260	△ 3,853,465
特別号頒布収益	198,000	159,000	39,000
転載許諾料収益	2,310,000	1,595,000	715,000
受取参加費収益	225,996,000	185,098,000	40,898,000
受取展示会費収益	120,002,300	111,204,231	8,798,069
受取広告料収益	12,208,900	11,594,000	614,900
受取セミナー共催費収益	103,730,000	79,057,000	24,673,000
専門医申請料(新規)収益	8,310,000	8,790,000	△ 480,000
専門医申請料(更新)収益	18,640,000	18,440,000	200,000
指導医申請料(新規)収益	780,000	1,080,000	△ 300,000
指導医申請料(更新)収益	3,830,000	4,010,000	△ 180,000
専門医登録料(新規)収益	4,540,000	4,800,000	△ 260,000
専門医登録料(更新)収益	38,080,000	9,980,000	28,100,000
セルフトレーニング問題手数料収益	4,058,000	4,178,000	△ 120,000
VA血管内治療認定医申請料(新規)収益	1,057,000	1,120,000	△ 63,000
VA血管内治療認定医登録料(新規)収益	636,000	123,000	513,000
受取補助金等	11,099,000	11,314,190	△ 215,190
受取補助金	1,000,000	9,000,000	△ 8,000,000
受取民間助成金	10,099,000	2,314,190	7,784,810
受取寄付金	6,500,000	8,476,000	△ 1,976,000
受取寄付金	6,500,000	8,476,000	△ 1,976,000
雑収益	4,019,248	4,248,258	△ 229,010
受取利息	430,337	8,429	421,908
雑収益	3,588,911	4,239,829	△ 650,918
経常収益計	855,443,012	746,804,571	108,638,441
(2) 経常費用			
事業費	738,592,982	645,393,454	93,199,528
給料手当	32,075,526	32,895,853	△ 820,327
退職給付費用	1,728,331	1,679,964	48,367
福利厚生費	5,098,639	5,166,330	△ 67,691
会議費	17,821,018	10,115,959	7,705,059
旅費交通費	32,317,387	29,824,351	2,493,036
通信運搬費	40,946,705	48,779,480	△ 7,832,775
広告掲載費	16,656,464	10,871,531	5,784,933
減価償却費	5,858,581	5,831,398	27,183
消耗品費	1,695,414	2,924,765	△ 1,229,351
印刷製本費	129,991,459	140,727,382	△ 10,735,923
光熱水料費	352,806	331,911	20,895
賃借料	114,302,339	96,052,567	18,249,772
諸謝金	11,144,996	7,126,934	4,018,062
租税公課	7,598,800	6,147,400	1,451,400
支払負担金	3,851,550	3,714,750	136,800
支払助成金	3,641,000	1,398,000	2,243,000
委託費	308,767,369	228,137,114	80,630,255
雑費	4,744,598	13,667,765	△ 8,923,167
管理費	50,493,038	54,994,494	△ 4,501,456
給料手当	21,109,802	21,613,708	△ 503,906
退職給付費用	1,263,299	368,117	895,182
福利厚生費	3,576,919	3,687,487	△ 110,568
会議費	655,030	748,148	△ 93,118
旅費交通費	3,138,629	3,447,760	△ 309,131
通信運搬費	1,576,055	4,033,134	△ 2,457,079
減価償却費	1,504,041	1,488,641	15,400
消耗品費	573,863	448,050	125,813
印刷製本費	1,846,740	3,378,099	△ 1,531,359
光熱水料費	188,644	177,421	11,223
賃借料	3,688,911	3,855,051	△ 166,140
諸謝金	4,430,930	4,196,500	234,430
租税公課	14,231	400	13,831
委託費	1,790,820	2,806,560	△ 1,015,740
雑費	5,135,124	4,745,418	389,706
経常費用計	789,086,020	700,387,948	88,698,072
評価損益等調整前当期経常増減額	66,356,992	46,416,623	19,940,369
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	66,356,992	46,416,623	19,940,369
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	66,356,992	46,416,623	19,940,369
法人税、住民税及び事業税	12,458,900	14,077,700	△ 1,618,800
当期一般正味財産増減額	53,898,092	32,338,923	21,559,169
一般正味財産期首残高	1,012,834,408	980,495,485	32,338,923
一般正味財産期末残高	1,066,732,500	1,012,834,408	53,898,092
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	1,066,732,500	1,012,834,408	53,898,092

# 正味財産増減計算書内訳表

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

(単位：円)

科目	実施事業等会計				その他会計			法人会計		内部取引等消去	合計	
	学術雑誌発行	統計調査	専門医等認定	学術集会等開催	災害援助	小計	学費等付与	研究助成	小計			法人会計
I 一般正味財産増減の部												
1. 経常増減の部												
(1) 経常収益												
基本財産運用利益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,275
基本財産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,275
特定資産運用利益	0	0	0	53,134	18,672	18,672	53,134	18,672	1,975	1,975	0	73,781
特定資産受取利息	0	0	0	53,134	18,672	18,672	53,134	18,672	1,975	1,975	0	73,781
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	277,158,713
正会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	147,018,900
施設会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	124,739,813
賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,400,000
事業収益	14,721,795	0	79,931,000	461,937,200	0	0	461,937,200	0	0	0	0	556,589,995
論文掲載料収益	3,531,000	0	0	0	0	0	3,531,000	0	0	0	0	3,531,000
広告掲載料収益	8,682,795	0	0	0	0	0	8,682,795	0	0	0	0	8,682,795
特別号頒布収益	198,000	0	0	0	0	0	198,000	0	0	0	0	198,000
転載許諾料収益	2,310,000	0	0	0	0	0	2,310,000	0	0	0	0	2,310,000
受取参加費収益	0	0	0	225,996,000	0	0	225,996,000	0	0	0	0	225,996,000
受取感念会費収益	0	0	0	120,002,300	0	0	120,002,300	0	0	0	0	120,002,300
受取広告料収益	0	0	0	12,208,900	0	0	12,208,900	0	0	0	0	12,208,900
受取セミナー共催費収益	0	0	0	103,730,000	0	0	103,730,000	0	0	0	0	103,730,000
専門医申請料(新規)収益	0	0	8,310,000	0	0	0	8,310,000	0	0	0	0	8,310,000
専門医申請料(更新)収益	0	0	18,640,000	0	0	0	18,640,000	0	0	0	0	18,640,000
指導医申請料(新規)収益	0	0	780,000	0	0	0	780,000	0	0	0	0	780,000
指導医申請料(更新)収益	0	0	3,830,000	0	0	0	3,830,000	0	0	0	0	3,830,000
専門医登録料(新規)収益	0	0	4,540,000	0	0	0	4,540,000	0	0	0	0	4,540,000
専門医登録料(更新)収益	0	0	38,080,000	0	0	0	38,080,000	0	0	0	0	38,080,000
セルフレーニング問題手数料収益	0	0	4,058,000	0	0	0	4,058,000	0	0	0	0	4,058,000
VA 血管内治療認定医申請料(新規)収益	0	0	1,057,000	0	0	0	1,057,000	0	0	0	0	1,057,000
VA 血管内治療認定医登録料(新規)収益	0	0	636,000	0	0	0	636,000	0	0	0	0	636,000
受取補助金等	10,099,000	0	0	1,000,000	0	0	11,099,000	0	0	0	0	11,099,000
受取補助金	0	0	0	1,000,000	0	0	1,000,000	0	0	0	0	1,000,000
受取民間助成金	10,099,000	0	0	0	0	0	10,099,000	0	0	0	0	10,099,000
受取寄付金	0	0	0	6,500,000	0	0	6,500,000	0	0	0	0	6,500,000
受取寄付金	0	0	0	6,500,000	0	0	6,500,000	0	0	0	0	6,500,000
雑収益	3,277,381	0	77,191	113,661	0	0	3,468,233	0	0	0	551,015	4,019,248
受取利息	0	0	52,191	95,661	0	0	147,852	0	0	0	282,485	430,337
雑収益	3,277,381	0	25,000	18,000	0	0	3,320,381	0	0	0	268,530	3,588,911
経常収益計	28,098,176	0	80,008,191	469,603,995	18,672	0	577,729,034	18,672	1,975	1,975	277,712,003	855,445,012
(2) 経常費用												
事業費	159,800,697	51,480,373	57,233,824	466,336,379	2,055,907	0	736,907,180	2,055,907	650,127	1,685,802	0	738,592,982
給料手当	7,501,079	7,378,935	17,145,162	27,631	0	0	32,052,807	0	8,261	22,719	0	32,075,526
退職給付費用	515,708	484,316	728,307	0	0	0	1,728,331	0	0	0	0	1,728,331
福利厚生費	1,283,463	1,282,043	2,533,133	0	0	0	5,098,639	0	0	0	0	5,098,639
会議費	2,115,281	72,216	4,437,625	11,148,366	6,294	0	17,779,782	41,236	0	41,236	0	17,821,018
旅費交通費	3,482,638	548,823	3,482,760	24,507,076	32,195	0	32,063,292	264,095	0	264,095	0	32,317,387
通信運搬費	27,810,484	5,709,304	4,725,134	1,980,869	718,692	0	40,944,483	2,222	2,222	0	0	40,946,705
広告掲載費	0	0	0	16,656,464	0	0	16,656,464	0	0	0	0	16,656,464
減価償却費	833,750	1,312,481	3,712,350	0	0	0	5,858,581	0	0	0	0	5,858,581
消耗品費	275,518	533,502	642,336	220,621	21,997	0	1,693,974	868	572	1,440	0	1,695,414

印刷製本費	98,286,866	58,422,285	3,589,497	21,875,772	379,219	129,973,639	0	17,820	17,820	0	129,991,459
光熱水料費	55,406	135,349	162,051	0	0	352,806	0	0	0	0	352,806
賃借料	1,069,050	27,053,313	3,470,825	107,057,151	0	114,302,339	0	0	0	0	114,302,339
諸謝金	1,332,780	180,920	2,670,027	6,948,475	12,794	11,144,996	0	0	0	0	11,144,996
租税公課	408,256	20,000	1,814,816	5,355,728	0	7,598,800	0	0	0	0	7,598,800
支払負担金	0	0	550,000	3,301,550	0	3,851,550	0	0	0	0	3,851,550
支払助成金	437,500	375,000	312,500	1,853,500	62,500	3,041,000	0	600,000	600,000	0	3,641,000
委託費	14,351,528	24,875,516	3,956,724	264,698,424	822,191	308,704,383	46,464	16,522	62,986	0	308,767,369
雑費	41,590	24,370	3,300,577	704,752	25	4,071,314	668,554	4,730	673,284	0	4,744,598
管理費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50,493,038	50,493,038
給料手当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21,109,802	21,109,802
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,263,299	1,263,299
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,576,919	3,576,919
会議費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	655,030	655,030
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,138,629	3,138,629
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,576,055	1,576,055
減価償却費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,504,041	1,504,041
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	573,863	573,863
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,846,740	1,846,740
光熱水料費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,888,644	1,888,644
賃借料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,688,911	3,688,911
諸謝金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,430,930	4,430,930
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14,231	14,231
委託費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,790,820	1,790,820
雑費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,135,124	5,135,124
経常費用計	159,800,697	51,480,373	57,233,824	466,336,379	2,055,907	736,907,180	1,035,675	650,127	1,685,802	50,493,038	789,086,020
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 131,702,521	△ 51,480,373	22,774,367	3,267,616	△ 2,037,235	△ 159,178,146	△ 1,035,675	△ 648,152	△ 1,683,827	227,218,965	66,356,992
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 131,702,521	△ 51,480,373	22,774,367	3,267,616	△ 2,037,235	△ 159,178,146	△ 1,035,675	△ 648,152	△ 1,683,827	227,218,965	66,356,992
2. 経常外増減の部											
(1) 経常外収益											
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用											
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額											
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 131,702,521	△ 51,480,373	22,774,367	3,267,616	△ 2,037,235	△ 159,178,146	△ 1,035,675	△ 648,152	△ 1,683,827	227,218,965	66,356,992
他会計振替額	141,251,703	51,067,970	572,920	7,611,362	2,038,072	202,542,027	1,035,675	45,397	1,081,072	△ 203,623,099	0
税引前当期一般正味財産増減額	9,549,182	△ 412,403	233,47,287	10,878,978	837	43,363,881	0	△ 602,755	△ 602,755	23,595,866	66,356,992
法人税、住民税及び事業税	0	0	0	12,458,900	0	12,458,900	0	0	0	0	12,458,900
当期一般正味財産増減額	9,549,182	△ 412,403	233,47,287	△ 1,579,922	837	30,904,981	0	△ 602,755	△ 602,755	23,595,866	53,898,092
一般正味財産期首残高	△ 15,827,896	△ 12,040,152	97,443,897	98,970,966	35,106,776	203,553,591	0	91,514,609	91,514,609	717,766,208	1,012,834,408
一般正味財産期末残高	△ 6,378,714	△ 12,452,555	120,791,184	97,391,044	35,107,613	234,458,572	0	90,911,854	90,911,854	741,362,074	1,066,732,500
II 指定正味財産増減の部											
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	△ 6,378,714	△ 12,452,555	120,791,184	97,391,044	35,107,613	234,458,572	0	90,911,854	90,911,854	741,362,074	1,066,732,500

## 財務諸表に関する注記

### 1. 継続組織の前提に関する注記

該当なし

### 2. 重要な会計方針

#### (1) 固定資産の減価償却の方法

什器備品・・・・・・・・定額法によっている。

ソフトウェア・・・・・・・・定額法によっている。

#### (2) 引当金の計上基準

賞与引当金・・・・・・・・職員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち、当期に帰属する額を計上している。

退職給付引当金・・・・・・・・職員の退職給付に備え、自己都合による期末要支給額を計上している。

#### (3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっている。

### 3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	100,000,000	—	—	100,000,000
小 計	100,000,000	—	—	100,000,000
特定資産				
学術集会積立資金	40,000,000	—	—	40,000,000
国際交流援助積立資金	30,000,000	—	—	30,000,000
災害援助事業積立資金	35,000,000	—	—	35,000,000
コメディカルスタッフ研究助成資金	90,000,000	—	10,000,000	80,000,000
60周年記念資金	25,000,000	—	—	25,000,000
小 計	220,000,000	—	10,000,000	210,000,000
合 計	320,000,000	—	10,000,000	310,000,000

### 4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	100,000,000	—	(100,000,000)	—
小 計	100,000,000	—	(100,000,000)	—
特定資産				
学術集会積立資金	40,000,000	—	(40,000,000)	—
国際交流援助積立資金	30,000,000	—	(30,000,000)	—
災害援助事業積立資金	35,000,000	—	(35,000,000)	—
コメディカルスタッフ研究助成資金	80,000,000	—	(80,000,000)	—
60周年記念資金	25,000,000	—	(25,000,000)	—
小 計	210,000,000	—	(210,000,000)	—
合 計	310,000,000	—	(310,000,000)	—

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高  
 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
補助金 第 69 回学術集会・総会	公益財団法人 横浜市観光協会	0	1,000,000	1,000,000	0	—
助成金 受取民間助成金	大塚製薬工場	17,685,810	10,000,000	10,099,000	17,586,810	前受金 流動負債
合 計		17,685,810	11,000,000	11,099,000	17,586,810	

6. 退職給付関係

- (1) 採用している退職給付制度の概要  
 確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

- (2) 退職給付債務及びその内訳

(単位：円)

①退職給付債務	35,097,977
②退職給付引当金	35,097,977

- (3) 退職給付費用に関する事項

(単位：円)

①勤務費用	2,991,630
②退職給付費用	2,991,630

- (4) 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職給付債務の計算に当たっては、退職一時金制度に基づく期末自己都合要支給額に基づき計算している。

7. 金融商品関係

金融商品の状況に関する事項

- ① 金融商品に対する取組方針

当法人は、資金運用については預貯金に限定している。

8. 重要な後発事象

該当なし

## 附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細  
財務諸表に関する注記に記載している.

2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
賞与引当金	5,289,954	4,849,270	5,289,954	4,849,270
退職給付引当金	32,106,347	2,991,630	—	35,097,977

# 財産目録

令和7年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額	
(流動資産)	現金 預金	手元保管	運転資金として	7,298	
		普通預金		664,488,618	
		りそな銀行本郷支店	運転資金として	1,262,963	
		りそな銀行本郷支店	運転資金として	820,493	
		みずほ銀行本郷支店	運転資金として	434,215,523	
		みずほ銀行本郷支店	運転資金として	22,141,018	
		三菱UFJ銀行本郷支店	運転資金として	111,752,168	
		三菱UFJ銀行本郷支店	運転資金として	10,911,854	
		三井住友銀行豊中支店	第70回学術集会・総会の資金として	79,636,047	
		三井住友銀行西宮支店	第71回学術集会・総会の資金として	3,748,552	
		郵便振替		1,104,372	
		郵便振替	運転資金として	765,825	
		郵便振替	運転資金として	338,547	
		定期預金		170,000,000	
		りそな銀行本郷支店	運転資金として	50,000,000	
		みずほ銀行本郷支店	運転資金として	100,000,000	
	みずほ銀行本郷支店	運転資金として	10,000,000		
ゆうちょ銀行	運転資金として	10,000,000			
未収金		実施事業及び管理業務で発生した収益等で未収のもの	17,805,556		
前払金		学術雑誌発行事業及び学術集会等開催事業等で次年度に発生する費用が前払いのもの	22,287,180		
流動資産合計				875,693,024	
(固定資産)	基本財産	定期預金	りそな銀行本郷支店	実施事業及び管理業務の共有財産であり運用益をそれぞれの財源として使用	100,000,000
		特定資産	学術集会積立資金	定期預金	学術集会に備えた資金
	国際交流援助積立資金	定期預金	みずほ銀行本郷支店	国際交流に備えた資金	30,000,000
		定期預金	みずほ銀行本郷支店	国内外の災害援助に備えた資金	35,000,000
		定期預金	みずほ銀行本郷支店	コメディカルスタッフの学術研究助成を目的とした資金	80,000,000
		定期預金	三菱UFJ銀行本郷支店	創立60周年記念事業に備えた資金	25,000,000
		定期預金	みずほ銀行本郷支店		
	その他固定資産	什器備品		実施事業及び管理業務に使用	2,341,030
		減価償却累計額			△ 2,236,107
		電話加入権	7本	実施事業に使用	224,952
		ソフトウェア		実施事業及び管理業務に使用	12,305,610
保証金		アラミドビル他	実施事業に使用	8,899,770	
腎代替療法医療専門職推進協会基金			20,000,000		
固定資産合計				351,535,255	
資産合計				1,227,228,279	
(流動負債)	未払金		実施事業及び管理業務で発生した費用で未払のもの	15,185,182	
		前受金	実施事業で次年度の収益が前受のもの	89,210,010	
		預り金	職員3月分源泉所得税等	710,740	
		賞与引当金	実施事業及び管理業務に従事する職員の賞与の支払いに備えたもの	4,849,270	
		未払法人税等			12,458,900
未払消費税等			2,983,700		
流動負債合計				125,397,802	
(固定負債)	退職給付引当金		実施事業及び管理業務に従事する職員の退職金の支払いに備えたもの	35,097,977	
固定負債合計				35,097,977	
負債合計				160,495,779	
正味財産				1,066,732,500	

# 独立監査人の監査報告書

令和 7年 5月 7日

一般社団法人 日本透析医学会

理 事 長 友 雅 司 殿

岩渕道男公認会計士事務所

長野県松本市

公認会計士

岩渕道男

山崎公認会計士事務所

東京都千代田区

公認会計士

山崎友揮

## 監査意見

私たちは、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第124条第2項第1号の規定に基づく監査に準じて、一般社団法人日本透析医学会の令和6年4月1日から令和7年3月31日までの令和6年度の貸借対照表、損益計算書（公益法人会計基準に基づく「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書（以下「財務諸表等」という。）について監査を行った。

私たちは、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私たちの責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私たちは、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私たちは、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

私たちの財務諸表等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、私たちはその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表等の監査における私たちの責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表等又は私たちが監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

私たちは、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、私たちが報告すべき事項はない。

#### 財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

#### 財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

#### 利害関係

法人と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

# 令和7年度正味財産増減予算書

自 令和7年4月1日  
至 令和8年3月31日

一般社団法人日本透析医学会

# 正味財産増減予算書（事業区分別正味財産増減方式）

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

(単位：円)

科目	継1 学術雑誌 発行事業	継2 統計調査 事業	継3 専門医等 認定事業	継4 学術集会等 開催事業	継5 災害援助 事業	実施事業 共通	実施事業 小計	他1 学会賞等 付与事業	他2 研究助成 事業	その他 事業 共通	その他 事業 小計	法人会計	総計
I 一般正味財産増減の部													
1. 経常増減の部													
(1) 経常収益													
・基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,000	2,000
・基本財産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,000	2,000
・特定資産運用益	0	0	0	2,000	1,000	0	3,000	0	2,000	0	2,000	0	5,000
・特定資産受取利息	0	0	0	2,000	1,000	0	3,000	0	2,000	0	2,000	0	5,000
・受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
・正会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
・施設会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
・賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
・事業収益	5,500,000	0	81,420,000	465,778,000	0	0	552,698,000	0	0	0	0	0	552,698,000
・論文掲載料収益	3,000,000	0	0	0	0	0	3,000,000	0	0	0	0	0	3,000,000
・広告掲載料収益	500,000	0	0	0	0	0	500,000	0	0	0	0	0	500,000
・特別号頒布収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
・転載許諾料収益	2,000,000	0	0	0	0	0	2,000,000	0	0	0	0	0	2,000,000
・受取参加費収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
・受取展示会費収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
・受取広告料収益	0	0	0	110,399,000	0	0	110,399,000	0	0	0	0	0	110,399,000
・受取セミナー共催費収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
・専門医申請料(新規)収益	0	0	8,100,000	0	0	0	8,100,000	0	0	0	0	0	8,100,000
・専門医申請料(更新)収益	0	0	29,000,000	0	0	0	29,000,000	0	0	0	0	0	29,000,000
・指導医申請料(新規)収益	0	0	900,000	0	0	0	900,000	0	0	0	0	0	900,000
・指導医申請料(更新)収益	0	0	5,000,000	0	0	0	5,000,000	0	0	0	0	0	5,000,000
・専門医登録料(新規)収益	0	0	4,600,000	0	0	0	4,600,000	0	0	0	0	0	4,600,000
・専門医登録料(更新)収益	0	0	28,400,000	0	0	0	28,400,000	0	0	0	0	0	28,400,000
・セルフトレーニング問題手数料収益	0	0	4,000,000	0	0	0	4,000,000	0	0	0	0	0	4,000,000
・VA 血管内治療認定医申請料(新規)収益	0	0	1,120,000	0	0	0	1,120,000	0	0	0	0	0	1,120,000
・VA 血管内治療認定医申請料(更新)収益	0	0	300,000	0	0	0	300,000	0	0	0	0	0	300,000
・VA 血管内治療認定医登録料(新規)収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
・VA 血管内治療認定医登録料(更新)収益	0	0	0	10,000,000	0	0	10,000,000	0	0	0	0	0	10,000,000
・受取補助金	0	0	0	10,000,000	0	0	10,000,000	0	0	0	0	0	10,000,000
・受取民間等助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
・受取負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
・受取寄付金	0	0	0	5,000,000	0	0	5,000,000	0	0	0	0	0	5,000,000
・受取寄付金	0	0	0	5,000,000	0	0	5,000,000	0	0	0	0	0	5,000,000
・雑収益	3,500,000	0	1,000	0	0	0	3,501,000	0	0	0	0	1,000,000	4,501,000
・受取利息	0	0	1,000	0	0	0	1,000	0	0	0	0	700,000	701,000
・雑収益	3,500,000	0	0	0	0	0	3,500,000	0	0	0	0	300,000	3,800,000
【経常収益計】	9,000,000	0	81,421,000	480,780,000	1,000	0	571,202,000	0	2,000	0	2,000	275,052,000	846,256,000
(2) 経常費用													
・事業費	103,436,000	58,682,000	61,960,000	469,476,000	5,167,000	0	698,721,000	1,246,000	957,000	0	2,203,000	0	700,924,000
・給料手当	7,534,000	7,388,000	16,207,000	28,000	0	0	31,157,000	15,000	8,000	0	23,000	0	31,180,000



# 監査報告

一般社団法人日本透析医学会

監事 内田潤次 

監事 小川哲也 

監事 齋藤満 

令和6年度の事業報告、計算書類、これらの附属明細書、その他理事の職務執行の監査について、次のとおり報告します。

## 1. 監査の方法及びその内容

監事間の協議により、監査方針を定めた上で、監事小川哲也は決算の分野を中心に、監事齋藤満は事業の分野を中心に、監事内田潤次は各分野を総括し調査を行い、その結果を監事間で協議して、監査を実施しました。

具体的には、理事会その他の重要な会議に出席し、会計帳簿、会計書類、重要な決裁文書及び報告書を閲覧し、当法人の理事等から、職務の施行状況等について定期的に報告を受け、また、随時説明を求めました。

## 2. 監査の結果

- (1) 事業報告及びその附属明細書は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。
- (2) 理事の職務に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- (3) 当法人の業務の適正を確保するために必要な体制の整備等についての理事会の決議の内容は相当です。
- (4) 計算書類とその附属明細書は当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。

## 3. 追記情報 特になし

『一般社団法人 日本透析医学会評議員選出規則の一部改正（案）新旧対照表』

現 行	改正案
<p style="text-align: center;">日本透析医学会評議員選出規則</p> <p style="text-align: center;">第1章 総 則</p> <p>第1条 評議員の選出は一般社団法人日本透析医学会定款に定められたことのほかは、この規則による。</p> <p>第2条 評議員は、選挙によって選出される。</p> <p>第3条 選挙は全国統一地区（以下「全国区」という）および次の7地区（以下「地方区」という）に分けて行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 北海道・東北地区（北海道，青森，岩手，宮城，秋田，山形，福島）</li> <li>2. 関東地区（東京都を除く）（茨城，栃木，群馬，埼玉，千葉，神奈川県）</li> <li>3. 東京地区（東京都）</li> <li>4. 甲信越・北陸・東海地区（新潟，富山，石川，福井，山梨，長野，岐阜，静岡，愛知，三重）</li> <li>5. 近畿地区（滋賀，京都，大阪，兵庫，奈良，和歌山）</li> <li>6. 中国・四国地区（鳥取，島根，岡山，広島，山口，徳島，香川，愛媛，高知）</li> <li>7. 九州・沖縄地区（福岡，佐賀，長崎，熊本，大分，宮崎，鹿児島，沖縄）</li> </ol> <p style="text-align: center;">第2章 評議員選出委員会</p> <p>（構成）</p> <p>第4条 評議員選出委員は次の各項に定める委員よりなり、評議員選出委員会を構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 理事長の指名する理事（評議員選出委員会委員長）1名</li> <li>2) 全国区委員3名</li> <li>3) 各地区委員各1名</li> </ol> <p>2 委員の任期は日本透析医学会第17条第1項の規定を準用する。ただし、再任を妨げないが、通算10年をこえることはできない。</p> <p>3 委員に欠員が生じた場合は、理事長は速やかに補充するものとする。その者の任期は前任者の残任期間とする。</p> <p>（職務）</p> <p>第5条 評議員選出委員会は、次に掲げる職務を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 評議員選挙の管理</li> <li>2) 評議員選挙の執行に必要な業務</li> </ol>	<p style="text-align: center;">日本透析医学会評議員選出規則</p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p>

現 行	改正案
<p style="text-align: center;">第3章 評議員の選出</p> <p>(評議員の定数)</p> <p>第6条 評議員定数は220名とする。その内80名は全国区、140名は地方区より選出する。</p> <p>2 地方区における評議員定数は、選挙のつど当該地区における正会員の数から比例配分により決定する。 この算定は評議員選出委員会が行い、理事会の承認を経て公示する。</p> <p>(選挙の公示)</p> <p>第7条 評議員選出委員会は、選挙が行われる前年の会誌10月号に選挙に関する公示を行うとともに、<u>10月下旬に電子公告を行わなければならない。</u></p> <p>(選挙権)</p> <p>第8条 選挙権は、選挙が行われる前年の10月1日現在の正会員とする。</p> <p>2 有権者の所属地区は、選挙が行われる前年の10月1日現在の勤務地とする。ただし、勤務していない者は居住地とする。</p> <p>(有権者名簿)</p> <p>第9条 評議員選出委員会は、選挙の行われる前年の10月1日現在の有権者名簿を、<u>会誌10月号に公示するとともに、10月下旬に電子公告を行わなければならない。</u></p> <p>2 有権者は、有権者名簿に脱漏、誤記を認めるときは、選挙の行われる前年の11月20日までに、評議員選出委員会に異議を申し立てることができる。</p> <p>3 評議員選出委員会が異議の申し立てを認めるときは、有権者名簿の訂正を行い、これを必要な範囲において有権者に公示しなければならない。</p> <p>(被選挙権)</p> <p>第10条 被選挙人は、選挙が行われる前年の10月1日現在の正会員で、評議員選出委員会に全国区あるいは地方区の評議員として立候補し、受理された会員とする。</p> <p>2 任期満了の年の4月1日までに満65歳に達する者は次期被選挙者になることはできない。</p> <p>(立候補の届出及び辞退)</p> <p>第11条 立候補しようとする者は、選挙の行われる前年の11月20日までに、所定の用紙で評議員選出委員会に届け出なければならない。</p> <p>2 立候補しようとする者は、全国区あるいは地方区のどちらか一方を明記し、両区に立候補することはできない。また、地方区の2つ以上に立</p>	<p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p>(選挙の公示)</p> <p>第7条 評議員選出委員会は、選挙が行われる前年の10月下旬に、<u>電子公告により選挙に関する公示を行わなければならない。</u></p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p>(有権者名簿)</p> <p>第9条 評議員選出委員会は、選挙の行われる前年の10月1日現在の有権者名簿を、10月下旬に電子公告による公示を行わなければならない。</p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p>

現 行	改正案
<p>候補することはできない。</p> <p>3 地方区に立候補しようとする者は、当該区に勤務する者でなければならない。ただし、勤務していない者は居住地とする。</p> <p>4 候補者であることを辞退する場合は、選挙の行われる前年の12月1日までに、自署により立候補辞退届を評議員選出委員会委員長に提出しなければならない。</p> <p>(候補者の公示)</p> <p>第12条 評議員選出委員会は候補者の氏名を、選挙の行われる前年の会誌12月号に公示するとともに、12月下旬に電子公告を行わなければならない。</p> <p>(選挙の期日)</p> <p>第13条 選挙の期日は評議員任期満了の年の2月15日とする。</p> <p>(投票)</p> <p>第14条 有権者は、選出しようとする者の氏名を、評議員選出委員会から郵送された投票用紙に記入して、前条の定める選挙期日までに送付しなければならない。ただし、選挙期日当日の消印があるもの又はこれに準ずるものは有効とする。</p> <p>2 全国区は40名以内、地方区は評議員選出委員会が定めた地方区別の定数の半数以内を記入する。ただし、端数は切り上げる。</p> <p>3 投票は無記名とする。</p> <p>(開票)</p> <p>第15条 評議員選出委員会は選挙期日までに開票立会人若干名を指名する。ただし、開票立会人のうち、1名は法律の専門家を含めなければならない。</p> <p>第16条 開票は評議員選出委員会が開票立会人のもとに、選挙終了後ただちに行わなければならない。</p> <p>(投票の効力)</p> <p>第17条 投票の効力は評議員選出委員会が開票立会人の意見を聞き、決定する。</p> <p>第18条 以下の投票は各項に記載されたごとく処理する。</p> <p>1) 所定の投票用紙以外の投票用紙に記載したものは、すべて無効とする。</p> <p>2) マークシートの記載が不正確なものは無効とする。</p> <p>3) 所定の連記数を超過して記載した場合は、記載事項すべてを無効とする。</p> <p>4) 第13条及び第14条第1項に定めた期日を超えて送付されてきたものは無効とする。</p> <p>5) 新規</p>	<p>現行どおり</p> <p>(候補者の公示)</p> <p>第12条 評議員選出委員会は候補者の氏名を、選挙の行われる前年の12月下旬に電子公告による公示を行わなければならない。</p> <p>(選挙の期日)</p> <p>第13条 現行どおり</p> <p>(投票)</p> <p>第14条 有権者は、選出しようとする者の氏名を、評議員選出委員会から郵送された投票用紙に記入して、前条の定める選挙期日までに所定の返信用封筒に封緘し送付しなければならない。ただし、選挙期日当日の消印があるもの又はこれに準ずるものは有効とする。</p> <p>2 現行どおり</p> <p>現行どおり</p> <p>5) 所定の返信用封筒には当該有権者の投票用紙</p>

現 行	改正案
<p>(当選者の決定)</p> <p>第19条 当選の決定は、第3条、第6条に定める全国区、地方区の定数に応じ、有効投票数の多いものから順次当選者とする。</p> <p>2 投票が同数の場合、開票立会人の立会いのもとに委員長が抽選を行い、当選者を決める。</p> <p>第20条 候補者数が定数を超えない場合は、投票を行うことなく候補者を当選者とする。 ただし、欠員は補充しない。</p> <p>第21条 当選者が決定した場合、評議員選出委員会はすみやかに当選者に通知し、<u>また会誌に公示するとともに、電子公告を行わなければならない。</u>また、会員専用ホームページにおいて、選挙結果情報（有権者数、投票者数、投票総数、有効投票数、白票、無効枚数及び得票率をいう。）並びに立候補者の得票数及び得票率を開示しなければならない。</p> <p>(異議の申し立て)</p> <p>第22条 選挙の効力に関し異議のある選挙者あるいは候補者は、選挙結果発表日より14日以内に文書で評議員選出委員会に対し異議申し立てができる。</p> <p>第23条 選挙に関する不正行為の有無は評議員選出委員会において審議、決定し、理事長に報告する。</p> <p>(当選者の繰上げ、補充)</p> <p>第24条 選挙日より50日以内に、当選者が辞退あるいは会員の資格を失ったときは、次点の者を順次繰上げ当選者とする。</p> <p>(選挙区の変更)</p> <p>第25条 評議員の内、地区別評議員が所属する選挙区を変更したことによって生じた評議員数の減少は補充せず、また増加は増加のままとし、次の選挙で是正する。</p> <p style="text-align: center;">第4章 補 則</p> <p>第26条 本規則は、理事会および総会決議を経て変更することができる。</p>	<p><u>のみ封緘することとし、他の有権者の投票用紙を含め封緘し送付してきた投票用紙及び所定の返信用封筒に封緘せず他の有権者の投票用紙とまとめて送付してきた投票用紙はすべて無効とする。</u></p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p>第21条 当選者が決定した場合、評議員選出委員会はすみやかに当選者に通知し、<u>かつ電子公告により当選者の公示を行わなければならない。</u>また、会員専用ホームページにおいて、選挙結果情報（有権者数、投票者数、投票総数、有効投票数、白票、無効枚数及び得票率をいう。）並びに立候補者の得票数及び得票率を開示しなければならない。</p> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p style="text-align: center;">附 則 本規則は令和7年6月26日から施行する。</p>